J Z

EXILIM

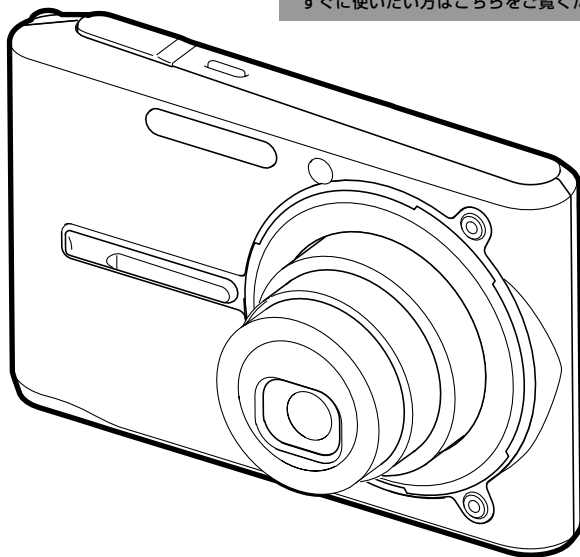
液晶デジタルカメラ

EX-S600

取扱説明書
（保証書付き）

ごあいさつ

このたびはカシオ製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

- 本機をご使用になる前に、必ず別冊の「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- 本書はお読みになった後も、大切に保管してください。
- 本製品に関する情報は、カシオデジタルカメラオフィシャルWebサイト（http://dc.casio.jp/）またはカシオホームページ（http://www.casio.co.jp/）でご覧になることができます。

早分かりガイド（16ページ）
すぐに使いたい方はこちらをご覧ください。

CASIO®

K836FCM1PKC

はじめに

付属品の確認

箱を開けたら、まず以下の付属品が全部そろっているかどうかをご確認ください。もし、これらの付属品が全部そろっていなかった場合は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

目次

再生する 96

消去する 116

ファイルの管理について 118

その他の設定について 124

メモリーカードを使用する 135

プリント（印刷）する 140

パソコンでファイルを見る 148

パソコンでファイルを活用する 161

付録 177

あらかじめご承知いただきたいこと

- 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤りなど、お気付きのことがありましたらご連絡ください。
- 本書の一部または全部を無断で複写することは禁止されています。また、個人としてご利用になるほかは、著作権法上、当社に無断では使用できません。
- 万一、本機使用や故障により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。
- 万一、Photo Loader、Photohands使用により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。
- 故障、修理、その他の理由に起因するメモリー内容の消失による、損害および逸失利益等につきまして、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。
- 取扱説明書に記載している画面やイラストは、実際の製品と異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■液晶パネルについて

液晶モニターに使用されている液晶パネルは、非常に高精度な技術で作られており、99.99%以上の有効画素がありますが、0.01%未満の画素欠けや常時点灯するものがありますので、あらかじめご了承ください。

■著作権について

個人で楽しむ場合などのほかは、画像／動画フォーマットファイル、音声／音楽フォーマットファイルを権利者に無断で複製することは著作権法や国際条約で固く禁じられています。また、これらのファイルを有償・無償に関わらず権利者に無断でネット上で記載したり、第三者に配付したりすることも著作権法や国際条約で固く禁止されています。万一、本機が著作権法上の違法行為に使用された場合、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

本文中の以下の用語は、それぞれ各社の登録商標または商標です。

- SDロゴは登録商標です。
- Windows、Internet Explorer、Windows MediaおよびDirectXは米国マイクロソフト社の商標です。
- MacintoshおよびQuickTimeは米国アップルコンピューター社の商標です。
- MultiMediaCard™は、独Infineon Technologies AG社の商標であり、MMCA(MultiMediaCard Association)にライセンスされています。

- Adobe、Readerは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。
- Ulead VideoStudioは、ユーリードシステムズ株式会社の登録商標です。
- その他の社名および商品名は、それぞれ各社の登録商標または商標です。
- Photo Loader、Photohandsはカシオ計算機（株）の著作物であり、上記を除き、これにかかわる著作物およびその他の権利はすべてカシオ計算機（株）に帰属します。

本機の特徴

- **有効画素数600万画素**
  CCD総画素数618万画素の高画質CCDを搭載。
  きめ細やかな高画質画像が撮影できます。
- **2.2型TFTカラー液晶モニターを搭載**
- **8.3MBメモリーを内蔵**
  メモリーカードを使用しなくても撮影ができます。
- **USBクレードルを同梱**
  充電（29ページ）、スライドショー（107ページ）、テレビへの画像出力（114ページ）、パソコンへの画像転送（148ページ）が可能です。
- **ダイレクトONボタンを搭載（34ページ）**
  撮りたいときは【📷】(REC)、見たいときは【▶】(PLAY)を押すだけですぐに希望のモードで起動できます。
- **暗い場所でのオートフォーカス精度を向上させるAF補助光を搭載（43ページ）**
- **12倍ズームを搭載（46ページ）**
  光学ズーム3倍／デジタルズーム4倍
- **フラッシュアシスト機能を搭載（51ページ）**
  フラッシュ撮影時のフラッシュ光量の不足を補正し、明るい画像を撮影することができます。

- **トリプルセルフタイマーモードを搭載(52ページ)**
  セルフタイマー撮影を自動的に3回繰り返すモードを搭載しています。
- **オートマクロ機能を搭載(57ページ)**
  オートフォーカスモードに設定していても、オートフォーカスモードの範囲よりも近距離に被写体があった場合は、自動的にマクロモードに切り替えます。
- **クイックシャッター機能を搭載(58ページ)**
  シャッター半押しによるオートフォーカスが完了する前に、シャッターを全押しすると、オートフォーカスを作動せずに撮影することができます。オートフォーカスにかかる時間が削減できます。
- **オートフォーカスエリアの切り替え機能を搭載(58ページ)**
  オートフォーカスのエリアを“ マルチ”に切り替えることにより、9つのポイントを同時に測距して、最適なピント位置をカメラが自動的に判断することができます。
- **ベストショット機能を搭載(66ページ)**
  煩わしい設定をカメラが自動的に行うので、簡単に綺麗な画像を撮ることができます。また、ブレ軽減、高感度などの新シーンが追加されています。本機ではワンタッチでシーンを呼び出せる【BS】(BEST SHOT)ボタンを搭載し、さらに使いやすくなっています。
- **ビジネスショット機能を搭載(72ページ)**
  名刺や書類、ホワイトボードなどを斜めから撮影しても、正面から撮影したように自動的に補正します。
- **よみがえりショット機能を搭載(74ページ)**
  古く色あせた写真を撮影／補正して、最新のデジタル写真として蘇らせることができます。
- **高画質音声付きムービー撮影機能を搭載(76ページ)**
  VGAサイズ、30fps、AVI形式、MPEG-4準拠
- **ダイレクトムービーボタンを搭載(78、82ページ)**
  【●】(MOVIE)を押すだけで、すぐに動画を撮影することができます。また、動画撮影中に【シャッター】を押せば、動画撮影中でも静止画撮影ができます。
- **さまざまな動画撮影機能を搭載(77ページ)**
  標準的な動画を撮影する「ムービー」に加え、【●】(MOVIE)を1回押すと、その前後の数秒間の動画が記録される「ショートムービー」、【●】(MOVIE)を押す約5秒前から動画が記録され、決定的瞬間の撮り逃しを防ぐことができる「パストムービー」、あらかじめ収録されているシーンの中から撮影したいシーンを選び、煩わしい設定をカメラにまかせることができる「ベストショットモード」を搭載しています。
- **モーションプリント機能を搭載(79、104ページ)**
  本機で撮影した動画から印刷に適した静止画を作ることができます。静止画のレイアウトは9コマと1コマの2種類です。

- **画像撮影後、続けて音声も録音可能な音声付き静止画撮影モードを搭載(83ページ)**
- **音声を録音することができるボイスレコード機能を搭載(84ページ)**
- **リアルタイムRGBヒストグラム機能を搭載(86ページ)**
  ヒストグラム表示を確認しながら露出の調節ができます。難しい露出条件でも、意図した露出の画像が手軽に撮影できます。
- **カレンダー表示が可能(106ページ)**
  1ヶ月分のカレンダー表示の日付上に、その日に記録した最初のファイルを表示させることができ、再生したいファイルを素早く探すことができます。
- **ワールドタイム機能を搭載(128ページ)**
  簡単に現地の時間にセットできます。世界162都市(32タイムゾーン)に対応しています。
- **拡張用メモリーカードとしてSDメモリーカードとMMC(マルチメディアカード)に対応(135ページ)**
- **DPOF(Digital Print Order Format)に対応(141ページ)**
  同規格に準じたデジタルDPEサービスを簡単に利用することが可能です。
- **PictBridge、USB DIRECT - PRINTに対応(143ページ)**
  この規格に対応したプリンタに直接接続して、画像を印刷することができます。
- **PRINT Image MatchingⅢに対応(147ページ)**
  PRINT Image MatchingⅢ対応プリンタでの出力および対応ソフトウエアでの画像処理において、撮影時の状況や撮影者の意図を忠実に反映させることが可能です。
- **DCF(Design rule for Camera File system)に対応(158ページ)**
  同規格に準じた他の機器との互換性があります。
- **Photo Loader、Photohandsを付属(164、166、173ページ)**
  好評な自動取り込み機能を備えたPhoto Loaderを付属。レタッチ機能を備えたPhotohandsも付属。更に多彩に画像を活用できます。
- **Ulead VideoStudioおまかせモードSE VCDを付属(170ページ)**
  撮影した動画ファイルをパソコンで編集したり、VideoCDを作成できるソフトウェアを付属。ソフトのアップグレードにより、DVDプレーヤーで表示できるようにファイルを変換することができます。

使用上のご注意

■ 撮影前のご注意(ためし撮りをしてください)

必ず事前にためし撮りをして、カメラに画像が正常に記録されていることを確認してください。

■ データエラーのご注意

- 本機は精密な電子部品で構成されており、以下のお取り扱いをすると内部のデータが破壊される恐れがあります。
  - カメラの動作中に電池やメモリーカードを抜いたり、USBクレードルにセットした
  - 電源を切ったときに【動作確認用ランプ】が緑色に点滅している状態で電池やメモリーカードを抜いたり、USBクレードルにセットした
  - 通信中にUSBケーブルがはずれたり、USBクレードルからカメラやACアダプターがはずれた
  - 消耗した電池を使用し続けた
  - その他の異常操作

このような場合、画面にメッセージが表示される場合があります(188ページ)。画面に対応した処置をお願いいたします。

■ 使用環境について

- 使用できる温度の範囲は、0℃～40℃です。
- 次のような場所には置かないでください。
  - 直射日光のあたる場所、湿気やホコリの多い場所
  - 冷暖房装置の近くなど極端に温度、湿度が変化する場所
  - 日中の車内、振動の多い場所

■ 結露について

- 真冬に寒い屋外から暖房してある室内に移動するなど、急激に温度差の大きい場所へ移動すると、本機の内部や外部に水滴が付く(結露)ことがあります。結露は故障の原因になりますので、ご注意ください。結露を防ぐには、温度差の大きな場所の間を移動する前に、本機をビニール袋で密封しておき、移動後に本機を周囲の温度に充分慣らしてから取り出して、電池カバーを開けたまま数時間放置してください。

■ 電源について

- 電池は、必ず専用リチウムイオン充電池NP-20をお使いください。他の電池は使用できません。
- 本機には時計専用の電池は入っておりません。電池やUSBクレードルで電源が供給されていないと、約24時間で日時がリセットされますので、その場合は再度設定してください(127ページ)。

■ レンズについて

- レンズ面は強くこすったりしないでください。レンズ面に傷が付いたり、故障の原因となります。
- レンズの特性(歪曲収差)により、撮影した画像の直線が歪む(曲がる)場合がありますが、故障ではありません。

■ カメラのお手入れについて

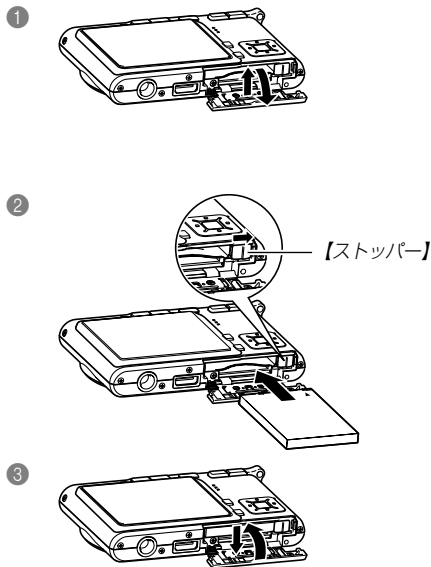
- レンズ面が指紋やゴミなどで汚れていると、カメラ本体の性能が十分に発揮できませんので、レンズ面には触れないでください。レンズ面の汚れは、ブロアー等でゴミやホコリを軽く吹き払ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。
- フラッシュ面が指紋やゴミなどで汚れていると、カメラ本体の性能が十分に発揮できませんので、フラッシュ面には触れないでください。フラッシュ面の汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。
- 本機が汚れた場合は、乾いた柔らかい布で拭いてください。

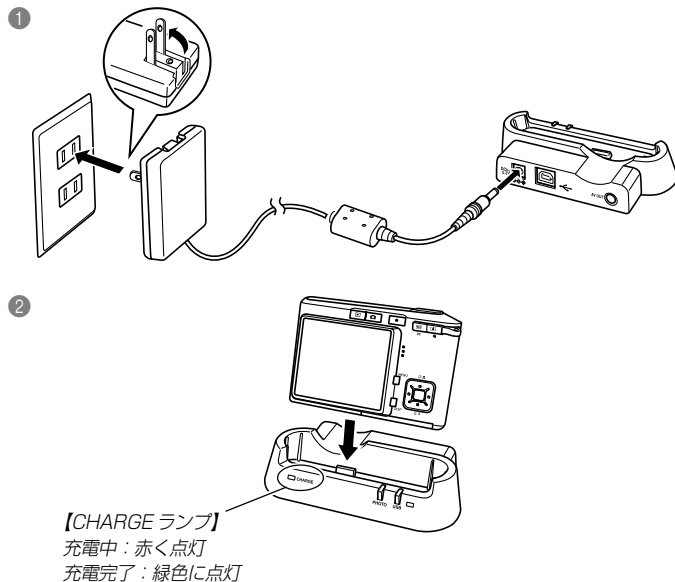
■ その他の注意

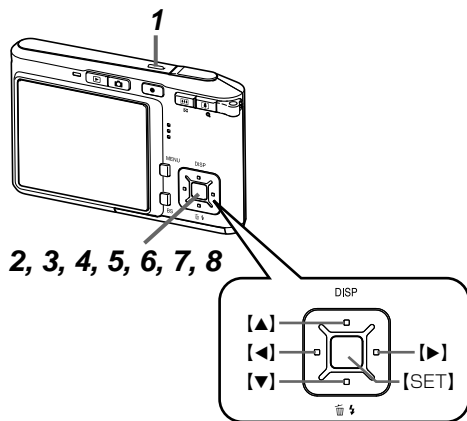
- 使用中、本機は若干熱を持ちますが、故障ではありません。

早分かりガイド

はじめに電池を充電する

1. 電池を入れます（28ページ）。

2. カメラをUSBクレードルにセットして、電池を充電します（29ページ）。

- 約2時間でフル充電されます。

画面メッセージの言語／日時を設定する

重要! • お買い上げ後、初めて撮影する前に設定してください(詳しくは38ページ参照)。

1. 【電源ボタン】を押して、電源を入れます。

2. 【▲】を押して、言語(日本語)を選び、【SET】を押します。

3. 【▲】【▼】【◀】【▶】で自宅都市のエリアを選び、【SET】を押します。

4. 【▲】【▼】で自宅都市を選び、【SET】を押します。

- 日本で使う場合は“Tokyo”を選んでください。

5. 【▲】【▼】でサマータイムの設定を選び、【SET】を押します。

- 日本で使う場合は“切”を選んでください。

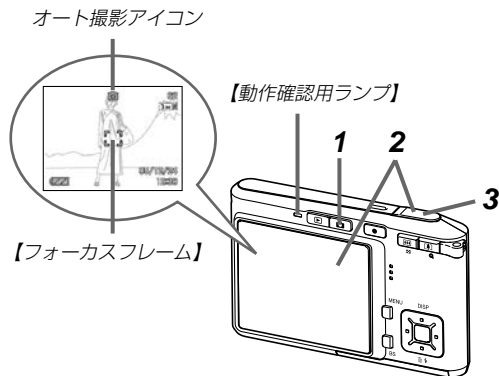
6. 【▲】【▼】で日時の表示スタイルの設定を選び、【SET】を押します。

7. 日付と時刻を合わせます。

8. 【SET】を押します。

- 設定を終了します。

撮影する

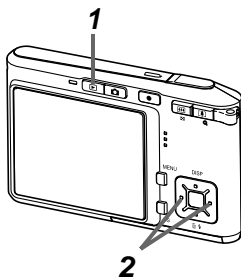
（詳しくは40ページ参照）

1. 【📷】（REC）を押します。
- RECモードになり、撮影できる状態になります。
- 【液晶モニター】に“📷”（オート撮影アイコン）が表示されます。

2. 撮影する被写体にカメラを向け、【液晶モニター】で確認しながら【シャッター】を半押ししてピントを合わせます。
- ピントが合うと【フォーカスフレーム】が緑色になり、【動作確認用ランプ】が緑色に点灯します。

3. カメラを固定し、静かに【シャッター】を押します。

市販のメモリーカードを使用する場合は、カメラでフォーマットしたメモリーカードをご使用ください。メモリーカードのフォーマットは137ページを参照してください。

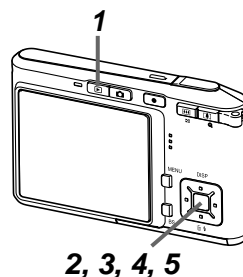
撮影したファイルを見る(再生する)

(詳しくは96ページ参照)

1. 【▶】(PLAY)を押します。

- PLAYモードになり、再生できる状態になります。

2. 【◀】【▶】を押すと、記録したファイルの戻し/送りができます。

撮影したファイルを消去する

(詳しくは116ページ参照)

1. 【▶】(PLAY)を押します。

2. 【▼】(🗑 ⚡)を押します。

3. 【◀】【▶】を押して、消去したいファイルを選びます。

4. 【▲】【▼】を押して、"消去"を選びます。

- 消去を中止したいときは、"キャンセル"を選んでください。

5. 【SET】を押します。

- ファイルが消去されます。

準備する

初めてご使用になる方は、撮影前の準備を行ってください。

本書の表記について

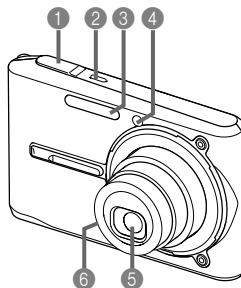
- 【　】に囲まれた単語は、本機のボタンや各部の名称です。
- “　”に囲まれた単語は、本機の液晶画面に表示されるアイコンやメッセージです。

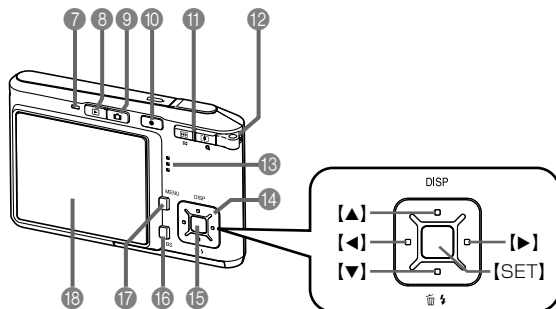
- **重要!** に記載された情報は、使用上、注意していただきたい重要な情報です。
- **参考** に記載された情報は、便利な使いかたや、参考になる情報です。

各部の名称

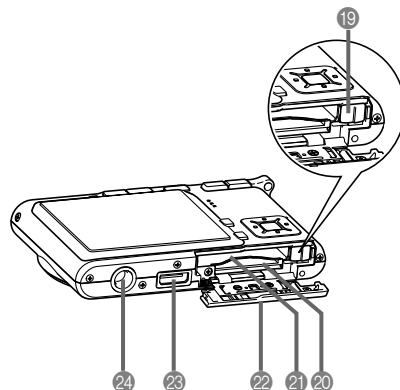
この取扱説明書では、本機の各部の名称を次のように【　】を使って表記します。

カメラ本体

■ 前面部

1【シャッター】
2【電源ボタン】
3【フラッシュ】
4【AF補助光／
　セルフタイマーランプ】
5【レンズ】
6【マイク】

■ 後面部

❼【動作確認用ランプ】
❽【▶】(PLAYモード)
❾【📷】(RECモード)
❿【●】(MOVIE)
⓫【ズームボタン】
⓬【ストラップリング】
⓭【スピーカー】
⓮【コントロールボタン】
※ 本書では、このボタンを【▲】【▼】【◀】【▶】と表記します。
⓯【SET】
⓰【BS】(BEST SHOT)
⓱【MENU】
⓲【液晶モニター】

■ 底面部

⓳【ストッパー】
⓴【メモリーカード挿入口】
㉑【電池室】
㉒【電池カバー】
㉓【クレードル接続端子】
㉔【三脚穴】
※ 三脚に取り付けるときに使用します。

USBクレードル

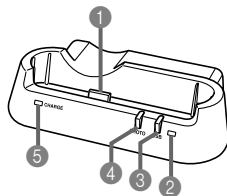
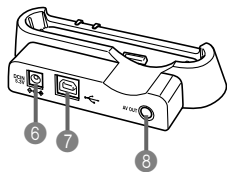
カメラをUSBクレードルにセットするだけで、次のようなことができます。

- 充電式電池を充電することができます(29ページ)。
- フォトスタンド機能を利用して、撮影した画像のスライドショーを見ることができます(107ページ)。
- テレビと接続して、撮影した画像をテレビで見ることができます(114ページ)。
- プリンタと接続してプリントすることができます(144ページ)。
- 撮影した画像を、パソコンに転送することができます(148ページ)。

重要! • 必ず同梱のUSBクレードル(CA-30)をお使いください。他のUSBクレードルでは使用できません。

■ 前面部

❶【カメラ接続端子】
❷【USBランプ】
❸【USB】
❹【PHOTO】
❺【CHARGEランプ】

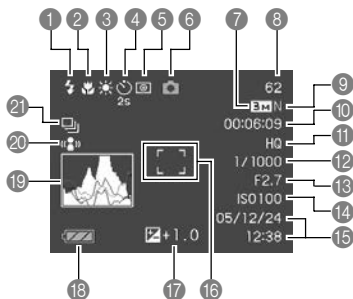
■ 後面部

❻【DC IN 5.3V】(外部電源端子)
❼【⭠】(USB端子)
❽【AV OUT】(AV接続端子)

液晶モニターの表示内容

【液晶モニター】には、さまざまな情報が表示されます。

- この章の画面は、説明に必要な内容を表示させたものですので、実際の画面とは一致しません。あらかじめご了承ください。

RECモード時

■情報表示

❶ フラッシュモード表示(48ページ)

- （フラッシュオート）
- （発光禁止）
- （強制発光）
- （赤目軽減）

- は、フラッシュオートに切り替えたとき、一時的に表示され、すぐに消えます。
- フラッシュオート時にフラッシュ発光する場合は、【シャッター】を半押ししたときにが表示されます。

❷ フォーカスモード(56ページ)

- AF （オートフォーカス）
- （マクロ）
- PF （パンフォーカス）
- ∞ （無限遠）
- MF （マニュアルフォーカス）

- AF は、キーカスタマイズ機能(88ページ)によりオートフォーカスに切り替えたとき、一時的に表示され、すぐに消えます。

❸ ホワイトバランス表示(64ページ)

- AWB （オート）
- （太陽光）
- （曇天）
- （日陰）
- N （昼白色）
- D （昼光色）
- （電球）
- MWB （マニュアル）

- AWBは、キーカスタマイズ機能(88ページ)によりオートに切り替えたとき、一時的に表示され、すぐに消えます。

❹ セルフタイマー(52ページ)

表示なし（1枚撮影）

- 10s （セルフタイマー10秒）
- 2s （セルフタイマー2秒）
- x3 （トリプルセルフタイマー）

❺ 測光方式表示(92ページ)

表示なし（マルチ測光）

- （中央重点測光）
- （スポット測光）

❻ 撮影の種類

- （オート撮影）
- BS （ベストショット）
- （ムービー）
- （ショートムービー）
- （パストムービー）
- （ボイスレコード）

- ベストショットモードでショートムービー、パストムービー、ボイスレコード以外のシーンを選んだときは、BSが表示されます。

⑦ 画像サイズ(静止画)
(54ページ)

⑧ 撮影可能枚数（静止画）
(42、190ページ)

⑨ 画質（静止画）(55ページ)
F：Fine　(高精細- F)
N：Normal　(標準- N)
E：Economy（エコノミー- E)

⑩ 残り撮影時間（動画）
(78ページ)

⑪ 画質（動画）(77ページ)
HQ　(高品位- HQ)
Normal　(標準- Normal)
LP　(長時間- LP)

⑫ シャッター速度
(42ページ)

⑬ 絞り値
(42ページ)

⑭ ISO感度（91ページ）

⑮ 日付／時刻(127ページ)

⑯ フォーカスフレーム
(41ページ)
- ピント合わせ完了時：緑色に点灯
- ピント合わせ不可時：赤色に点灯

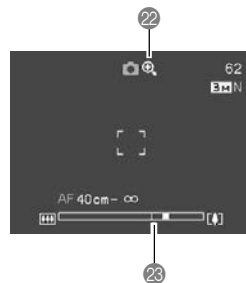
⑰ 露出補正表示(62ページ)

⑱ バッテリー残量表示
(31ページ)

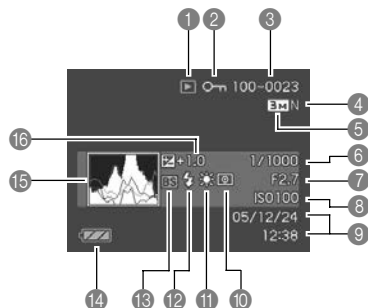
⑲ ヒストグラム(86ページ)

⑳ ブレ軽減表示(71ページ)

㉑ 連写モード(66ページ)
表示なし（1枚撮影）
（連写撮影）

参考
- 絞り値、シャッター速度、ISO感度はAE(自動露出)が適正範囲でない場合、【シャッター】を半押ししたときにオレンジ色で表示されます。
- 下記の機能を切り替えたとき、アイコンの意味(アイコンガイド)が表示されます。このガイドは表示させないこともできます(89ページ)。
フラッシュモード、フォーカスモード、ホワイトバランス、セルフタイマー、撮影の種類、露出補正

㉒ デジタルズーム表示（47ページ）

㉓ ズームバー（47ページ）
左部分が光学ズーム域
右部分がデジタルズーム域

PLAYモード時

❶ ファイル形態
（静止画）
（ムービー）
（ショートムービー）
（パストムービー）
（音声付静止画）
（ボイスレコード）

❷ プロテクト表示
（119ページ）

❸ フォルダ名／ファイル名
（118ページ）
例：メモリー内のフォルダ名が100CASIO、
ファイル名が
CIMG0023.JPGの場合
100-0023
フォルダ名　ファイル名

❹
- 静止画：画質（55ページ）
  F：Fine　（高精細- F）
  N：Normal　（標準- N）
  E：Economy（エコノミー- E）
- 動画：撮影時間（78ページ）

❺
- 静止画：画像サイズ（54ページ）
- 動画：画質（77ページ）
  HQ　（高品位- HQ）
  Normal　（標準- Normal）
  LP　（長時間- LP）

❻ シャッター速度
（42ページ）

❼ 絞り値（42ページ）

❽ ISO感度（91ページ）

❾ 日付／時刻（127ページ）

❿ 測光方式表示（92ページ）
（マルチ測光）
（中央重点測光）
（スポット測光）

⓫ ホワイトバランス表示
（64ページ）
AWB（オート）
（太陽光）
（曇天）
（日陰）
（昼白色）
（昼光色）
（電球）
MWB（マニュアル）

⓬ フラッシュモード表示
（48ページ）
（発光）
（発光禁止）
（赤目軽減）

⓭ 撮影の種類
（オート撮影）
BS（ベストショット）

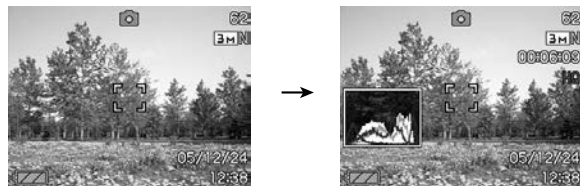
⓮ バッテリー残量表示
（31ページ）

⓯ ヒストグラム（86ページ）

⓰ 露出補正表示（62ページ）

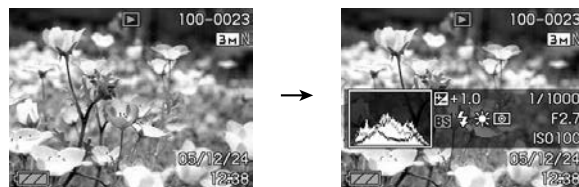
液晶モニターの表示内容を切り替える

【▲】(DISP)を使って、【液晶モニター】に表示される内容を切り替えることができます。

■ RECモード時

情報表示オン

ヒストグラム表示オン

情報表示オフ

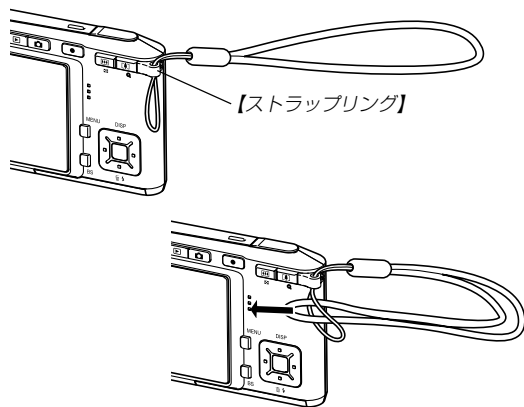
■ PLAYモード時

情報表示オン

ヒストグラム／詳細情報表示オン

情報表示オフ

重要!
- 音声付き静止画の音声待機中／記録中は、【▲】(DISP)を使って【液晶モニター】の表示内容を切り替えることはできません。
- RECモード時のボイスレコードでのみ、【▲】(DISP)を使って「液晶モニターオフ」ができます。他の撮影機能では、「液晶モニターオフ」はできません。
- RECモード時のボイスレコードでは、「情報表示オン」と「液晶モニターオフ」の切り替えのみ、PLAYモード時のボイスレコードファイルの表示では「情報表示オン」と「情報表示オフ」の切り替えのみとなります。
- 「情報表示オフ」でボイスレコードファイルを再生すると、2秒後に自動的に【液晶モニター】が非表示になります。再生が終了すると自動的に「情報表示オフ」の表示に戻ります。

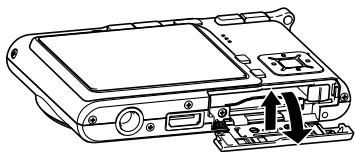
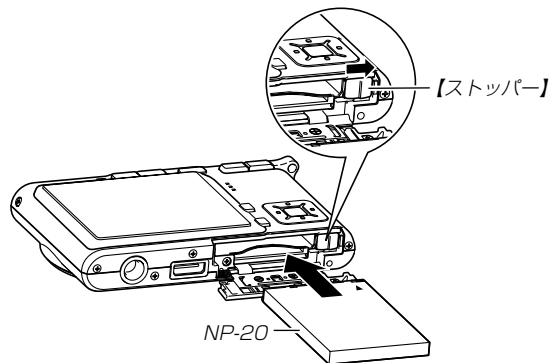
ストラップを取り付ける

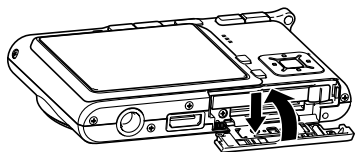
ストラップは、【ストラップリング】に取り付けます。

重要!
- 本機操作時は落下を防止するため、必ずストラップに指を通した状態で使用してください。
- 付属のストラップは本機専用です。他の用途に使用しないでください。
- ストラップを持って本機を振り回さないでください。

電源について

本機は専用リチウムイオン充電池（NP-20）を電源として利用します。

充電式電池を入れる

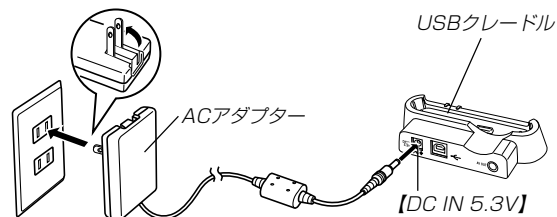
1. **本体底面の【電池カバー】を押しながら、矢印の方向にスライドさせて開きます。**

2. **電池のEXILIMのロゴのある面を上（【液晶モニター】側）にして、電池側面で【ストッパー】を矢印の方向にずらしたまま電池をセットします。**

- 電池の底の部分を押して【ストッパー】が電池にしっかりかかるのを確認してください。

3. 【電池カバー】を矢印の方向に押しつけながら、スライドして閉めます。

重要! ● 電池は、必ず専用リチウムイオン充電池(NP-20)をお使いください。他の電池は使用できません。

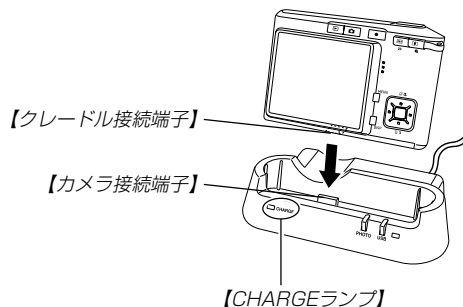
最初、電池はフル充電されていません。「充電式電池を充電する」に従って充電してください。

充電式電池を充電する

1. USBクレードルの【DC IN 5.3V】に付属のACアダプターを接続します。

2. ACアダプターの電源プラグを起こし、家庭用コンセントに接続します。

3. カメラの電源を切ります。

4. 図のようにカメラの【液晶モニター】を手前に向けて、カメラをUSBクレードルの上にセットします。

- カメラの電源を入れたまま、USBクレードルの上にセットしないでください。
- USBクレードルの【CHARGEランプ】が赤色に点灯し、充電が始まります。充電を完了すると、【CHARGEランプ】が緑色の点灯に変わります。
- 約2時間でフル充電されます。
  充電時間は、電池の容量や残量、使用環境によって変化します。

5. 充電が完了したら、USBクレードルからカメラを取りはずします。

重要!

- 専用リチウムイオン充電池（NP-20）の充電は、同梱のUSBクレードル（CA-30）または別売の専用充電器（BC-10L）をお使いください。他の充電器では使用できません。
- ACアダプターは、必ず付属のACアダプターをお使いください。それ以外のACアダプターは使用しないでください（別売品：AD-C30／C40／C620J／C630Jは使用できません）。
- カメラの【クレードル接続端子】は、USBクレードルの【カメラ接続端子】にしっかりと差し込んでください。
- カメラ使用直後や周辺温度が高温状態または低温状態で充電しようとすると、充電が開始されない場合があります（【CHARGEランプ】がオレンジ色に点灯します）。その場合は常温で放置してください。電池の温度が充電可能な温度になると、充電を開始します（【CHARGEランプ】が赤色点灯に変わります）。

- 充電中にエラーが起こったときは【CHARGEランプ】が赤色に点滅します。原因は、本体の不良、カメラや電池のセット（装着）不良、電池不良です。USBクレードルからカメラを取りはずし、カメラが動作するか確認してください。カメラが動作する場合は、電池を使い切ってから充電してください。
  動作しない場合は、電池のセット不良の可能性があります。電池をカメラからはずし、電池接点部が汚れていないか確認してください。汚れている場合は、乾いた布で拭いてください。また、ACアダプターのコンセントやプラグがはずれかけていないか確認してください。
  上記確認の後、再度USBクレードルにカメラをセットしても同じ症状になる場合は、カシオテクノ修理相談窓口にお問い合わせください。
- USBクレードル上では、フォトスタンド機能、充電、USB通信およびテレビへの画像出力以外はできません。

■ 海外でのご使用について

- ACアダプターはAC100V～240V・50/60Hzの電源に対応していますので、海外への旅行の際にもご利用できます。
  但し、使用する国によってはプラグ形状が合わないなどの問題があるため、旅行代理店などで、現地で使用可能かどうかを事前にご確認ください。
- ACアダプターをご使用時に、電圧変換器はご使用にならないでください。

■ バッテリー残量表示

電池が消耗すると【液晶モニター】に表示されているバッテリー残量表示が下記表のように変化します。[少] の状態は電池残量が少ないことを表しています。[空] の状態では撮影できません。速やかに電池を充電し直してください。

電池残量	多 ←――――――――→ 少
画面情報表示	[満] → [中] → [少] → [空]
残量表示の色	みず色 → オレンジ色 → 赤色 → 赤色

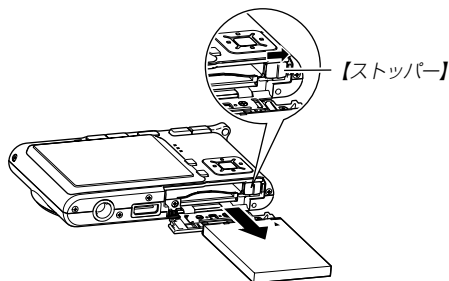
重要!
- 電池の使用時間と撮影可能枚数については、193ページをご覧ください。
- RECモードとPLAYモードの切り替えをした場合、バッテリー残量表示の状態が変わることがあります。

■ 電池を長持ちさせるために

- フラッシュを使用しないで撮影するときは、フラッシュの発光方法を[発光禁止マーク]（発光禁止）に設定してご使用いただくと、電池寿命が長くなります（48ページ）。
- オートパワーオフ機能やスリープ機能（35ページ）を使用することにより、電源の切り忘れなどのむだな消費電力をおさえることができます。
- 液晶モニターの明るさを“標準”に設定すると、電池の消耗をおさえることができます（131ページ）。

充電式電池を交換する

1. 【電池カバー】を開きます。

2. 【ストッパー】を矢印の方向にずらすと、電池が少し出てきます。

3. 出てきた電池を引き抜きます。

- 電池を落とさないようにご注意ください。

4. 新しい電池を入れます(28ページ)。

電源に関する使用上のご注意

■ 電池使用時のご注意

使用上のご注意

- この電池は、カシオデジタルカメラ専用のリチウムイオン充電池です。適応機種については、お使いのカメラの取扱説明書でご確認ください。
- 専用リチウムイオン充電池(NP-20)の充電は、同梱のUSBクレードル(CA-30)または別売の専用充電器(BC-10L)をお使いください。他の充電器では使用できません。
- 寒い場所では、電池の特性上、充分に充電された電池を使用しても、使用時間が短くなります。
- 充電は10℃～35℃の温度範囲で行ってください。範囲外の温度で充電すると、充電時間が長くなったり、充分な充電ができないことがあります。
- 充電直後でも電池の使用時間が大幅に短くなった場合は、電池の寿命と思われますので、新しいものをお買い求めください。

保存上のご注意

- リチウムイオン充電池は小型で高容量の電池ですが、充電された状態で長期間保存すると特性が劣化することがあります。
  - しばらく使わない場合は、使い切った状態で保存してください。
  - 使用しないときは必ず充電池をデジタルカメラから取りはずしてください。取り付けたままにしておくと、電源が切れていても微少電流が流れていますので、電池が消耗し、充電に時間がかかったり、こわれたりします。
  - 乾燥した涼しい場所(20℃以下)で保存してください。

充電式電池の取扱いについて

- リサイクルのお願い

不要になった電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。

<最寄りのリサイクル協力店 へ>

詳細は、有限責任中間法人JBRCのホームページをご参照ください。

- ホームページ　http://www.jbrc.com/

- 使用済み充電式電池の取扱い注意事項
  - プラス端子、マイナス端子をテープ等で絶縁してください。
  - 被覆をはがさないでください。
  - 分解しないでください。

■USBクレードル／ACアダプターご使用時のご注意

●表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。火災・故障・感電の原因となります。
●ACアダプターの電源コードを傷つけたり、破損したりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したりしないでください。電源コードが破損し、火災・事故・感電の原因となります。
●ACアダプターのコードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしないでください。火災・故障・感電の原因となります。
●濡れた手でACアダプターを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
●タコ足配線をしないでください。火災・故障・感電の原因となります。
●万一、ACアダプターの電源コードが傷んだら（芯線の露出・断線など）、販売店またはカシオテクノ修理相談窓口に連絡してください。そのまま使用すると火災・故障・感電の原因となります。

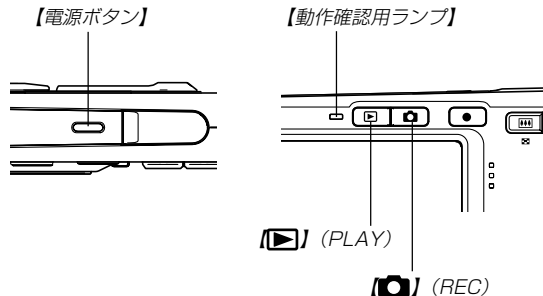
- ACアダプターを抜き差しする際は、必ずカメラをUSBクレードルから取りはずした状態で行ってください。
- 充電中、USB通信中、フォトスタンド機能使用中、ACアダプターは若干熱を持ちますが、故障ではありません。
- ご使用にならないときは、ACアダプターをコンセントから必ずはずしてください。
- ACアダプターの上に毛布などがかぶさらないようにしてください。火災の原因となります。

電源を入れる／切る

■ 電源を入れる

【電源ボタン】、【📷】（REC）または【▶】（PLAY）を押すと、【動作確認用ランプ】が緑色に一時点灯し、電源が入ります。押すボタンによって電源が入った後の状態が異なります。

REC（撮影）モードで電源を入れたいとき
：【電源ボタン】または【📷】（REC）を押す。

PLAY（再生）モードで電源を入れたいとき
：【▶】（PLAY）を押す。

参考
- 電源が入っているときに【●】(REC)を押すとRECモードに、【▶】(PLAY)を押すとPLAYモードに切り替わります。
- RECモードから【▶】(PLAY)を押してPLAYモードに切り替えると、約10秒後にレンズが収納されます。

重要!
- オートパワーオフ機能により電源が切れた場合は、再度【電源ボタン】、【●】(REC)または【▶】(PLAY)を押して電源を入れてください。
- 【電源ボタン】または【●】(REC)を押して電源を入れると、レンズが出てきます。その際にレンズを押さえたり、ぶつけたりしないようご注意ください。

■ 電源を切る

【電源ボタン】を押すと、電源が切れます。

参考
- 【●】(REC)や【▶】(PLAY)を押しても電源が入らないようにしたり、【●】(REC)や【▶】(PLAY)を押して電源を切ることができるように設定することができます。詳しくは「【●】(REC)／【▶】(PLAY)の動作を設定する」(132ページ)をご覧ください。

電池の消耗を抑えるための機能

電池の消耗を抑えるために、以下の2通りの設定ができます。

スリープ	：RECモード時に一定時間操作をしないと、【液晶モニター】のみ消灯します。ボタン操作をすると【液晶モニター】が再度点灯します。
オートパワーオフ	：一定時間操作しないと電源が切れます。

1. 電源を入れます。

2. 【MENU】を押します。

3. 【◀】【▶】で“設定”タブを選びます。

4. 【▲】【▼】で設定したい項目を選び、【▶】を押します。

スリープの設定：“スリープ”

オートパワーオフの設定：“オートパワーオフ”

- メニューのたどりかたについては36ページを参照してください。

5.【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

スリープの設定内容：“30秒”“1分”“2分”“切”

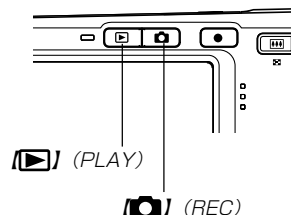
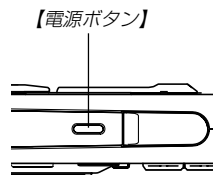
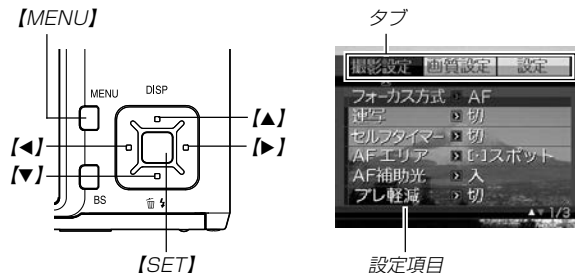
オートパワーオフの設定内容：“2分”“5分”

- PLAYモードではスリープは働きません。
- スリープ中にいずれかのボタンを押すと、スリープを解除してすぐに撮影できる状態になります。
- 以下の状態では、オートパワーオフ、スリープは働きません。
  - 本機のUSBクレードルを通じてパソコンなどと接続しているとき
  - スライドショー中
  - ボイスレコードファイル再生中
  - 動画撮影中
  - 動画再生中

メニュー画面の操作について

本機ではメニュー画面を使用してさまざまな操作を行います。この操作をまず覚えてください。【MENU】を押すと、メニュー画面が表示されます。メニューの内容はREC（撮影）モードとPLAY（再生）モードでは異なります。ここでは例としてRECモードでの代表的な操作を説明します。

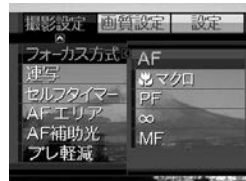
1.【電源ボタン】または【📷】（REC）を押します。

- PLAYモードにして操作を行うときは【▶】（PLAY）を押します。

2. 【MENU】を押します。

●メニュー画面で使うキーについて

【◀】【▶】	タブを選びます。【▶】は項目の決定にも使います。
【▲】【▼】	設定項目を選びます。
【SET】	選択した項目に決定します。
【MENU】	メニュー画面の操作を中断します。

3. 【◀】【▶】で設定したい項目のあるタブを選びます。

4. 【▲】【▼】で設定したい項目を選び、【▶】を押します。

- 【▶】を押す代わりに【SET】を押しても、次の画面に移ります。

例）設定項目“フォーカス方式”を選んだ場合

5. 【▲】【▼】で設定内容を選びます。

6. 選択した内容を決定します。

- 【SET】を押すと内容が決定され、メニュー画面から抜けます。
- 【◀】を押すと内容が決定され、メニュー画面に戻ります。続けて他の項目を設定することができます。
- 他のタブに移りたいときは、【◀】を押して、【▲】でタブに戻り、【◀】【▶】で他のタブに移ってください。

- メニューの内容については「メニュー一覧表」(177ページ)を参照してください。

表示言語／日時を設定する

お買い上げ後初めて撮影をする前に、下記の設定を行ってください。

- 画面のメッセージの言語設定
- 自宅の都市の設定
- 表示スタイルの設定
- 日時設定（この日時は、印刷情報などに利用されます）

重要!
- 日時を設定しないと、間違った時間で記録されてしまいますので、必ず設定してください。
- 下記のような電源が供給されない状態で約24時間放置した場合は、日時がリセットされてしまいます。
  - 充電式電池が消耗している／充電式電池を取り外している
  - 充電式電池が消耗しているか、充電式電池を取り外している状態で、クレードルから電源が供給されていない
- 日時がリセットされているときに電源を入れると、日時設定画面が表示されます。その場合は、再度日時を設定してください。
- 誤って設定してしまった場合は、表示言語／日時を設定し直すことができます。（127、131ページ）
- 日時を設定しても、画像自体に日時を入れることはできません。ただし、プリント指定時に日付を付けて印刷することはできます（146ページ）。

1. **【電源ボタン】、【📷】（REC）または【▶】（PLAY）を押して、電源を入れます。**

2. **【▲】【▼】【◀】【▶】で言語を選び、【SET】を押します。**

日本語	：日本語
English	：英語
Français	：フランス語
Deutsch	：ドイツ語
Español	：スペイン語
Italiano	：イタリア語
Português	：ポルトガル語

3. **【▲】【▼】【◀】【▶】で自分の住んでいる地域を選び、【SET】を押します。**

4. **【▲】【▼】で自分の住んでいる都市を選び、【SET】を押します。**

- 日本で使う場合は"Tokyo"を選んでください。

5. **【▲】【▼】でサマータイムの設定を選び、【SET】を押します。**

入：サマータイムになります。

切：通常の時刻になります。

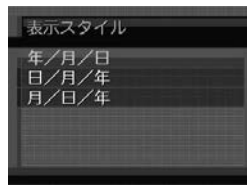
- 日本で使う場合は"切"を選んでください。

6. **【▲】【▼】で日付のスタイルを選び、【SET】を押します。**

例）2005年12月24日

年／月／日：05/12/24

日／月／年：24/12/05

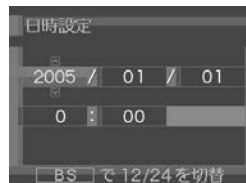
月／日／年：12/24/05

7. **日付と時刻を合わせます。**

【▲】【▼】を押す：

カーソル（選択枠）の部分の数字を変えます。

【◀】【▶】を押す：

カーソル（選択枠）を移動します。

【BS】：

12時間表示と24時間表示の切り替えができます。

8. **【SET】を押して、設定を終了します。**

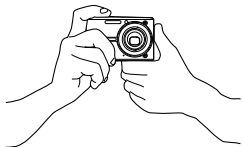
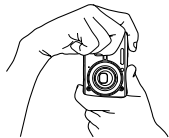
撮影する(基本編)

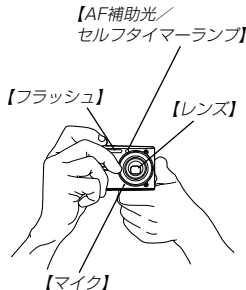
ここでは最も基本的な撮影方法について説明します。

基本的な撮影のしかた

カメラの正しい構えかた

カメラは両手でしっかりと持って、撮影してください。片手で持つと、手ブレを起こす恐れがあります。

- 横に持つ場合
- 縦に持つ場合

両手でカメラをしっかり持ち、脇をしっかり締めてください。

縦に持つ場合は、【レンズ】より【フラッシュ】が上にくるようにして、カメラをしっかり持ってください。

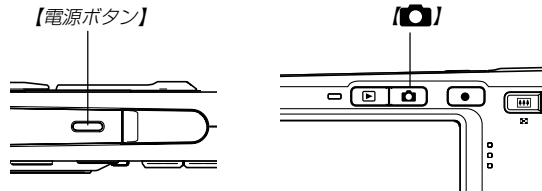
重要! • 指やストラップが、右記の部分にかからないように注意してください。

参考 • 【シャッター】を押し切った瞬間にカメラがぶれたり、オートフォーカス動作中(シャッター半押し時)にカメラがぶれると、きれいな画像が撮れません。正しく構えて、【シャッター】を静かに押し、【シャッター】を押し切った瞬間にカメラが動かないようにしてください。特に暗い場所で撮影するときは、シャッター速度が遅くなるので、注意してください。

撮影する

本機では被写体の明るさに応じてカメラがシャッター速度を自動的に調整します。撮影された画像は、順次内蔵メモリーに保存されます。

- 市販のメモリーカード(SDメモリーカードまたはMMC〈マルチメディアカード〉)に保存することもできます(135ページ)。

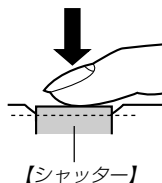
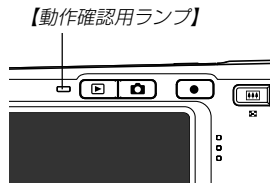
市販のメモリーカードを使用する場合は、あらかじめメモリーカードを入れて、メモリーカードのフォーマットを行ってください(137ページ)。

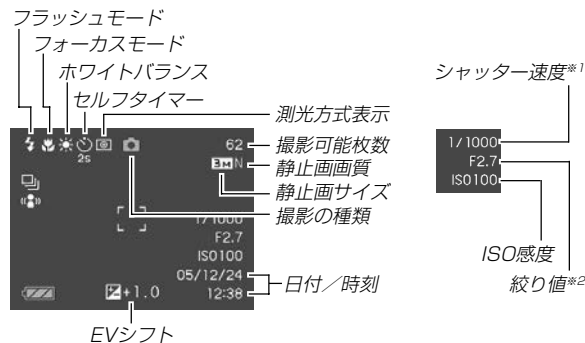
1. 【電源ボタン】または【📷】(REC)を押して、電源を入れます。

- 【液晶モニター】に画像とオート撮影アイコン"📷"が表示されます。オート撮影アイコン"📷"が表示されない場合は、67ページの操作で"オート"のシーンを選び、"📷"を表示させてください。
- RECモードになり、撮影できる状態になります。
- すでに電源が入っている状態で下記のようにPLAY(再生)モードになっている場合は、【📷】を押してREC(撮影)モードに切り替えてください。
  - 「ファイルがありません」と表示されている。
  - "▶"が【液晶モニター】の上部に表示されている。

2. 【液晶モニター】に表示されている【フォーカスフレーム】を被写体に合わせます。

- 撮影できる距離は、フォーカスモードによって異なります(56ページ)。

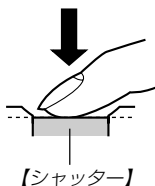
3. 【シャッター】を半押しし、ピントを合わせます。

- 【シャッター】を半押しすると、オートフォーカス機能により自動的にピントが合い、シャッター速度、絞り値、およびISO感度が表示されます。

- ピントは【フォーカスフレーム】や【動作確認用ランプ】の点灯のしかたで知ることができます。

状況	動作確認用ランプ	フォーカスフレーム
ピント合わせ完了	緑点灯	緑点灯
ピント合わせ不可	緑点滅	赤点灯

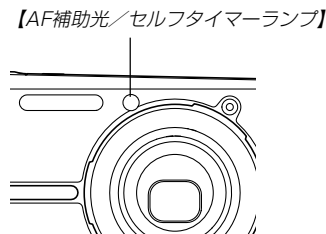
- 【液晶モニター】にはさまざまな情報が表示されます。

※1 レンズを通してCCDに当たる光の量を制限する機構(シャッター)の動作速度のことです。時間が長くなるほど光の量は増えます。本機では自動的に調整されます。

※2 レンズを通してCCDに当たる光の量を制限する機構(絞り)の開口部の大きさの値です。数値が大きくなるほど、光が通る開口部の大きさが狭くなります。本機では自動的に調整されます。

4. **ピントが合っていることを確認して【シャッター】を全押しします。**

- サイズ、画質によって撮影できる枚数が異なります(54、55、190ページ)。

重要! ● “撮影設定”の“クイックシャッター”を“入”に設定している場合(58ページ)、【シャッター】半押しによるオートフォーカスが完了する前に、【シャッター】を全押しすると、オートフォーカスが作動せずに撮影されます。シャッターチャンスを逃さずに撮影することができます。

■ AF補助光について

暗い場所などで撮影しようとしたとき、ピントを合わせやすくするために、【AF補助光/セルフタイマーランプ】で自動的に補助光を発光します。

なお、このAF補助光は発光する/しないを切り替えることができます。至近距離で人物などを撮影するときは、AF補助光は発光しないことをおすすめします。

1. **RECモードにして【MENU】を押します。**

2. **【◀】【▶】で“撮影設定”タブを選びます。**

3. **【▲】【▼】で“AF補助光”を選び、【▶】を押します。**

4. **【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。**

入：AF補助光を発光します。

切：AF補助光を発光しません。

重要!

- 【AF補助光／セルフタイマーランプ】を覗いたり、人の目に当てないように注意してください。

■ 撮影時のご注意

- 【動作確認用ランプ】が緑色に点滅している間に【電池カバー】を開けたり、カメラをUSBクレードルにセットすることは、絶対におやめください。今撮影した内容が記録されないばかりでなく、撮影済みの内容が破壊されたり、カメラが正常に動作しなくなる恐れがあります。
- メモリーカードに記録中は、メモリーカードを抜かないでください。
- 蛍光灯照明の室内で撮影する場合、本機は蛍光灯のフリッカー(人の目では感じられない、ごく微妙なちらつき)を感知してしまい、撮影するタイミングによって、微妙に撮影画像の明るさや色合いが変わる場合があります。
- ISO感度が"オート"の場合(91ページ)は、被写体の明るさに応じて感度が自動的に変化します。被写体が暗いと画像にノイズがのる場合があります。
- ISO感度が"オート"の場合(91ページ)は、被写体が暗いときに感度を上げてシャッタースピードを速くするようにしていますが、フラッシュの発光方法(48ページ)が (発光禁止)のときには手ブレに注意してください。
- 不要な光がレンズに当たる場合は、手で遮光してから撮影してください。

■ オートフォーカスのご注意

- 次のような被写体に対しては、ピントが合わないことや正確でないことがあります。
  - 階調のない壁などコントラストが少ない被写体
  - 強い逆光のもとにある被写体
  - 明るく光っている被写体
  - ブラインドなど、水平方向に繰り返しパターンのある被写体
  - カメラからの距離が異なる被写体がいくつもあるとき
  - 暗い場所にある被写体
  - 動きの速い被写体
  - 撮影範囲外の被写体
- 手ブレをしているとき、ピントが合わないことや正確でない場合があります。
- 【動作確認用ランプ】が緑色に点灯していたり、【フォーカスフレーム】が緑で表示されていてもピントが正しく合わない場合があります。
- ピントが合わない場合は、フォーカスロック（62ページ）やマニュアルフォーカス（61ページ）をご利用ください。

■ 撮影時の画面のご注意

- 撮影時、【液晶モニター】に表示される被写体の画像は、フレーム確認のための簡易画像です。撮影した内容は、選択した画質で記録されており、出力画素数は確保されています。メモリーには精細な画像で記録されています。
- 被写体の明るさにより、撮影時の【液晶モニター】の表示速度が遅くなったり、ノイズが出る場合があります。
- 極端に明るい被写体を撮影すると、【液晶モニター】上の画像に、縦に尾を引いたような光の帯が表示される場合があります（スミア現象といいます）。これはCCD特有の現象で、故障ではありません。なお、この帯は静止画には記録されませんが、動画（76ページ）にはそのまま記録されますので、ご注意ください。

ズームを使って撮影する

本機のズームには、光学ズームとデジタルズームの2種類があります。

光学ズーム

レンズの焦点距離を変えて撮影することができます。ズームの倍率は次の通りです。

倍率：1〜3倍

1. RECモードにします。

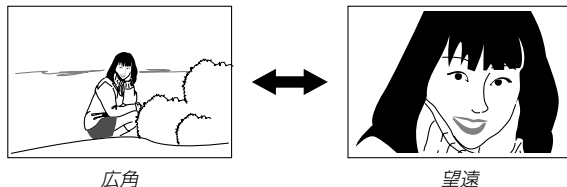
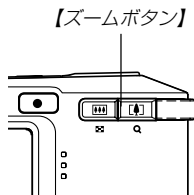
2. **【ズームボタン】を押して、ズームの倍率を変えます。**

(広角)：広角になります。

(望遠)：望遠になります。

【ズームボタン】

広角

望遠

3. **【シャッター】を押して撮影します。**

参考

- 光学ズームの倍率により、レンズの絞りの値も変わります。
- 望遠で撮影するときは、手ブレ防止のため、三脚の使用をおすすめします。
- オートフォーカス／マクロ(接写)／マニュアルフォーカス撮影時に光学ズームを行うと、画面上に撮影可能な距離の範囲が表示されます(57、59、61ページ)。
- 動画撮影中は光学ズームは動作しません。デジタルズームのみ使用できます。【 ● 】(MOVIE)を押す前であれば、光学ズームは使用できます(78ページ)。

デジタルズーム

光学ズームが最も望遠になった(3倍)状態から、さらに画面の中央を拡大して撮影することができます。デジタルズームを使ったときのズームの倍率は次の通りです。

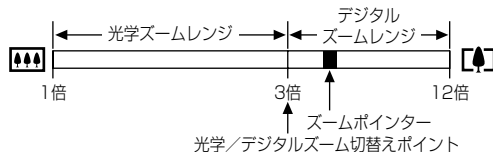
倍率：3〜12倍(光学ズーム併用)

重要! • デジタルズームを使ってズーム撮影すると、画面の中央をデジタル処理で拡大するため、光学ズームと異なり画像は粗くなります。

■デジタルズームを使って撮影する

1. RECモードにし、【ズームボタン】の[♠](望遠)側を押して、ズームの倍率を変えます。

- 【ズームボタン】を押すと、【液晶モニター】にズームバーが表示されます。この表示で現在のおおよその倍率が分かります。

2. 【ズームボタン】を押して、光学ズームが最も望遠になると(ズームポインターが光学／デジタルズーム切替えポイントにくると)、いったんズーム動作を停止します。

- ズームバーのデジタルズームレンジは、デジタルズームが"入"に設定されているときにのみ表示されます(48ページ)。

3. 続けて【ズームボタン】の[♠](望遠)側を押すと、ズームポインターがデジタルズームレンジに入り、デジタルズームに切り替わります。

- 【ズームボタン】の[♣♣♣](広角)側を押すと、ズームポインターが光学／デジタルズーム切替えポイントでいったん停止した後、光学ズームレンジに戻り、光学ズームに切り替わります。

4. 【シャッター】を押して撮影します。

■デジタルズーム機能のオン／オフを切り替える

1. **RECモードにして【MENU】を押します。**

2. **【◀】【▶】で"撮影設定"タブを選びます。**

3. **【▲】【▼】で"デジタルズーム"を選び、【▶】を押します。**

4. **【▲】【▼】で設定項目を選び、【SET】を押します。**

入：デジタルズーム機能が働きます。

切：デジタルズーム機能は働きません。

- "切"を選ぶと、ズームバーには光学ズームレンジのみが表示されます。

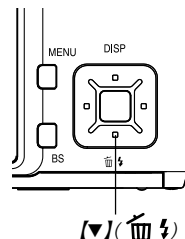
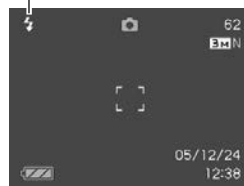
フラッシュを使って撮影する

撮影条件に合わせてフラッシュの発光方法を切り替えることができます。

- フラッシュの撮影範囲は下記の通りです。
  広角時：約0.4m〜約2.8m (ISO感度オート時)
  望遠時：約0.4m〜約1.4m (ISO感度オート時)
  ※ 光学ズームにより、撮影範囲は変化します。

1. **RECモードにします。**

2. **【▼】(⚡)を押して、フラッシュの発光方法を選びます。**

- 【▼】を押すたびに【液晶モニター】に次の順でフラッシュの発光方法が表示され、切り替わります。

フラッシュモード表示

（フラッシュオート）
：露出（光の量や明るさ）に合わせて自動的に発光します。
- は、フラッシュオートに切り替えたとき、一時的に表示され、すぐに消えます。

（発光禁止）：露出に関係なく発光しません。

（強制発光）：露出に関係なく強制的に発光します。

（赤目軽減）：フラッシュ撮影時に人の目が赤く写ることを軽減します。露出に合わせて自動的に発光します。

3.【シャッター】を押して撮影します。

重要!
- フラッシュ撮影時、フラッシュは数回発光します。最初にプリ発光（露出情報を得るための予備発光）し、最後にメイン発光（フラッシュ撮影するための発光）することにより、最適な発光量でフラッシュ撮影が行われます。メイン発光が終わるまで、カメラは動かさないでください。
- ISO感度が"オート"の場合は、感度が高くなるため、フラッシュ使用時にノイズが多くなります。ISO感度を下げると撮影範囲（フラッシュの光が届く範囲）が短くなりますが、ノイズは少なくなります（91ページ）。
- 動画撮影中に【▼】（ ）を押しても、静止画撮影でのフラッシュ発光方法を切り替えることができます（82ページ）。

■ 強制発光について

日中の撮影で、逆光などで被写体が暗くなるような場合は、フラッシュの発光方法を（強制発光）を選んで、フラッシュを発光させて撮影してください（日中シンクロ撮影）。フラッシュの光により、被写体を明るく撮影することができます。

■ 赤目軽減機能について

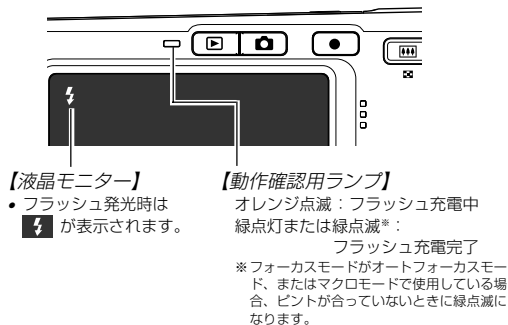
夜や暗い室内などで人物をフラッシュ撮影したとき、目が赤く写ることがあります。これは、フラッシュ光が目の網膜に反射するために起こる現象です。赤目軽減機能を使うと、フラッシュ撮影する前に赤目用プリ発光（写す人の瞳孔を小さくするためにフラッシュが発光）することにより、人の目が赤く写ることを軽減します。

重要!
- 赤目軽減機能により撮影する場合は、下記の点に注意してください。
  - 写される人がフラッシュを注視していないと効果がありません。撮影する前にフラッシュを見るように声をかけておいてください。
  - 被写体までの距離が遠いと、効果が現れにくい場合があります。

フラッシュの状態について

フラッシュの状態については【シャッター】を半押ししたときに、【液晶モニター】や【動作確認用ランプ】で確認できます。

【液晶モニター】
- フラッシュ発光時は ⚡ が表示されます。

【動作確認用ランプ】
オレンジ点滅：フラッシュ充電中
緑点灯または緑点滅※：フラッシュ充電完了
※フォーカスモードがオートフォーカスモード、またはマクロモードで使用している場合、ピントが合っていないときに緑点滅になります。

フラッシュの光量を変える

フラッシュの光量を変えることができます。

1. RECモードにして【MENU】を押します。

2. 【◀】【▶】で“画質設定”タブを選びます。

3. 【▲】【▼】で“フラッシュ光量”を選び、【▶】を押します。

4. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

+2： 強く光る
+1
0
−1
−2： 弱く光る

重要! • 被写体が遠かったり、近すぎたりする場合は、光量が変わらない場合があります。

フラッシュ撮影時の光量の不足を補う(フラッシュアシスト機能)

フラッシュの撮影範囲よりも遠い被写体を撮影したとき、撮影に必要なフラッシュ光量が得られずに、被写体が暗く写ってしまう場合があります。そのような場合、この機能を使うと、撮影した被写体の明るさを補正し、フラッシュの光がより遠くへ届いたときと似たような効果を得ることができます。

フラッシュアシスト機能未使用

フラッシュアシスト機能使用

1. **RECモードにして【MENU】を押します。**

2. **【◀】【▶】で"画質設定"タブを選びます。**

3. **【▲】【▼】で"フラッシュアシスト"を選び、【▶】を押します。**

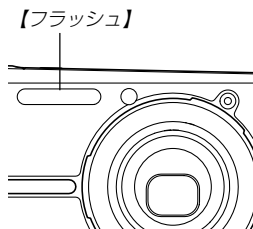
4. **【▲】【▼】で"オート"を選び、【SET】を押します。**

- "切"を選ぶと、フラッシュアシスト機能は働きません。

重要!

- 被写体によっては、思ったような効果が得られないことがあります。
- 下記のような操作を行ったとき、フラッシュアシスト機能を使用した撮影結果にほとんど変化が表れない場合があります。
  - フラッシュ光量を切り替えたとき(50ページ)
  - 露出補正(EVシフト)を行ったとき(62ページ)
  - ISO感度を切り替えたとき(91ページ)
  - コントラストの設定を切り替えたとき(94ページ)
- フラッシュアシスト機能動作時、ノイズが増える場合があります。

■ フラッシュ使用時のご注意

- 【フラッシュ】が指で隠れないようにしてください。隠れてしまうとフラッシュ本来の効果が得られなくなります。
- 被写体までの距離が遠かったり、近かったりする場合は適切な効果が得られません。
- フラッシュの充電時間は、そのときの使用条件（電池の状態や温度等）により異なります。
  数秒～8秒程度（フル充電の場合）
- 電池が消耗するとフラッシュの充電ができなくなることがあり、フラッシュが正常に発光せずに適正な露出が得られないことがあります。速やかに電池を充電してください。
- 暗い場所で撮影するときにフラッシュを（発光禁止）に設定すると、シャッター速度が遅くなるので、手ブレを防ぐために、カメラを三脚などで固定するようにしてください。なお、このとき撮影した画像は多少ざらついた感じ（ノイズが発生した画像）になる場合があります。
- （赤目軽減）では露出に合わせて自動的に発光するため、明るい場所ではフラッシュは発光しません。
- フラッシュを使用した場合は、外光や蛍光灯など他の光源があると色味が変わることがあります。

セルフタイマーを使って撮影する

【シャッター】を押してから約10秒または約2秒後に撮影することができます。また、3枚連続でセルフタイマー撮影する（トリプルセルフタイマー）こともできます。

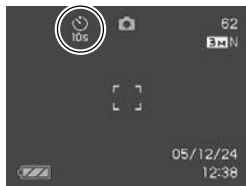
1. **RECモードにして【MENU】を押します。**

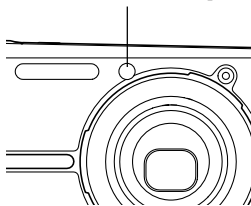
2. **【◀】【▶】で“撮影設定”タブを選びます。**

3. **【▲】【▼】で“セルフタイマー”を選び、【▶】を押します。**

4. **【▲】【▼】でセルフタイマーの種類を選び、【SET】を押します。**

10秒：10秒後に撮影されます。
2秒：2秒後に撮影されます。
×3：10秒後に1枚、その後撮影準備完了の1秒後に1枚、さらに撮影準備完了の1秒後に1枚と、合計3枚撮影されます（トリプルセルフタイマー）。
切：セルフタイマーは使用できません。

- 【液晶モニター】にセルフタイマーの種類が表示されます。

5. 【シャッター】を押して撮影します。

- 【AF補助光/セルフタイマーランプ】が点滅し、約10秒、または2秒後に撮影されます。
- カウントダウン中に【シャッター】を押すと、セルフタイマーを解除することができます。

参考

- シャッター速度が遅いときにセルフタイマーの2秒の設定を使用すると手ブレ防止になります。
- トリプルセルフタイマーでは、次の撮影準備が終わると"1sec"と表示され、約1秒後に撮影されます。撮影準備完了までの時間は、画像の"サイズ"や"画質"とメモリーカードの有無またはフラッシュの充電の有無によって異なります。
- 動画撮影中の静止画撮影では、セルフタイマーは使用できません。
- 下記の撮影では、トリプルセルフタイマーは使用できません。
  ベストショット撮影(名刺や書類、ホワイトボード、古い写真)、動画撮影

画像サイズを変更する

画像サイズとは、カメラが記録する撮影画像の大きさを画素数（pixels）で表したものです。この画素数は1枚の画像を構成する粒子のきめ細かさを示している数値で、数字が大きいほど、印刷したときにきめが細かく美しい仕上がりになります。

- この設定は静止画の撮影時のみ有効です。動画のサイズについては、77ページをご覧ください。

1. RECモードにして【MENU】を押します。

2. 【◀】【▶】で"画質設定"タブを選びます。

3. 【▲】【▼】で"サイズ"を選び、【▶】を押します。

4. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

- 画像サイズを選択している際に、画素数とプリントサイズを切り替えて表示します。プリントサイズは、選んだ画素数に対して、プリント時に最適な用紙のサイズを示しています。

	画素数（pixels）		プリントサイズ
大きい	6M※	2816×2112	A3プリント
↑	6M (3:2)	2816×1872 (3:2)	A3プリント ※横縦比が3:2になります。
	4M	2304×1728	A4プリント
	3M	2048×1536	A4プリント
↓	2M	1600×1200	L判プリント
小さい	VGA	640×480	Eメール ※Eメールで画像を送りたい場合に最適です。

※ Mはメガ（100万）の意味です。

- 「プリントサイズ」は、あくまでも参考のサイズとお考えください（印刷解像度が200dpiの場合）。
- 本機の持つ画質を最大限に活かすために、できるだけ最大画素数（6M）で撮影することをおすすめします。なお、残り撮影枚数が少ないときや、より多くの枚数の画像を撮影したい場合は、画素数を小さく設定してください。
- "2816×1872（3：2）"を選ぶと、プリント紙の横縦比3：2に合うように、画像を3：2の比率で撮影します。

画質を変更する

画質とは、画像を記録する際のデータ圧縮率を表したものです。用途に合わせて画質を変更してください。

- この設定は静止画の撮影時のみ有効です。動画の画質については、77ページをご覧ください。

1. RECモードにして【MENU】を押します。

2. 【◀】【▶】で"画質設定"タブを選びます。

3. 【▲】【▼】で" 画質"を選び、【▶】を押します。

4. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

設定内容		選択時の目安
高画質	高精細-F	画質を優先したいとき
↕	標準-N	通常の撮影をするとき
低画質	エコノミー-E	撮影枚数を優先したいとき

重要!
- 撮影した画像によってファイルサイズが異なるため、実際の撮影可能枚数と画面上の表示枚数が一致しない場合があります(24、190ページ)。

撮影する（応用編）

ピント合わせの方法を変える

ピント合わせの方法には、オートフォーカス、マクロ、パンフォーカス、無限遠、マニュアルフォーカスの5種類があります。これらをフォーカスモードといいます。

1. RECモードにして【MENU】を押します。

2. “撮影設定”タブ→“フォーカス方式”と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

AF（オートフォーカス）：自動的にピントを合わせます。

マクロ（接写）：近くのものを撮影するときに使用します。

PF（パンフォーカス）：ある被写体距離にピントが合うようにフォーカスが調整されます。

∞（無限遠）：遠景を撮影するときに使用します。

MF（マニュアルフォーカス）：手動でピントを合わせるときに使用します。

- 【液晶モニター】に、設定したフォーカスモードが表示されます。

重要!
- 動画撮影時のオートフォーカスモードとマクロモードは固定焦点となります。
- キーカスタマイズ機能を使うと、静止画撮影時や動画撮影中に【◀】【▶】を押すだけでフォーカスモードを切り替えることができます（88ページ）。

自動でピントを合わせる(オートフォーカス)

オートフォーカスでは自動的にピントを合わせることができます。【シャッター】を半押しすると、オートフォーカス機能が働き、自動的にピント調整を始めます。ピントを合わせることができる範囲は下記の通りです。

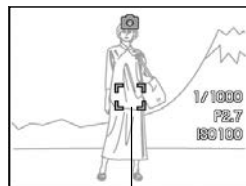
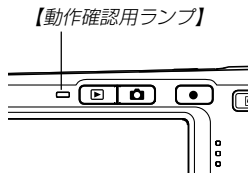
範囲：約40cm～∞(無限遠)
※ 光学ズームにより、範囲は変化します。

1. **RECモードにして【MENU】を押します。**

2. **"撮影設定"タブ→"フォーカス方式"と選び、【▶】を押します。**

3. **【▲】【▼】で"AF"を選び、【SET】を押します。**

4. **ピントを合わせたい被写体を【フォーカスフレーム】の中に入れて、【シャッター】を半押しします。**

- 【動作確認用ランプ】と【フォーカスフレーム】の点灯のしかたによってピントの状況を知ることができます。

状況	動作確認用ランプ	フォーカスフレーム
ピント合わせ完了	緑点灯	緑点灯
ピント合わせ不可	緑点滅	赤点灯

5. **【シャッター】を全押しして撮影します。**

参考
- 被写体がオートフォーカスの範囲よりも近距離にあり、ピントが合わない場合には、自動的にマクロ(59ページ)の範囲までピント調整を行います(オートマクロ)。
- オートフォーカス撮影時に光学ズーム(46ページ)を行うと、画面上に下記のような撮影可能な距離の範囲が表示されます。
  例：AF ○○cm - ∞
  ※ ○○には数字が入ります。

重要!
- 動画撮影時のオートフォーカスモードは固定焦点となります。

■ クイックシャッター機能について

クイックシャッター機能を使うと、【シャッター】半押しによるオートフォーカスが完了する前に、【シャッター】を全押しすることで、オートフォーカスを作動せずに撮影することができます。シャッターチャンスを逃さずに撮影することができます。

1. **RECモードで【MENU】を押します。**

2. **“撮影設定”タブ→“クイックシャッター”と選び、【▶】を押します。**

3. **【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。**

入：クイックシャッターが機能します。
切：クイックシャッターが機能しません。

■ オートフォーカスの測定範囲（AFエリア）を変える

オートフォーカスモード、マクロモードでは、オートフォーカス（AF）の測定範囲を変更することができます。設定によって【フォーカスフレーム】の形状も変わります。

1. **RECモードにして【MENU】を押します。**

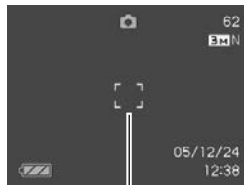
2. **“撮影設定”タブ→“AFエリア”と選び、【▶】を押します。**

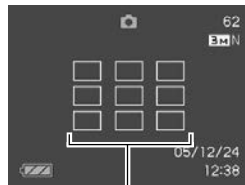
3. **【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。**

[・] スポット：中央のごく狭い部分を測定します。フォーカスロック（62ページ）を活用した撮影に便利です。

[⁝⁝⁝] マルチ：【シャッター】を半押しすると、9つの測距点の中でピントが合った場所の【フォーカスフレーム】がすべて緑色に点灯します。

参考
- “[⁝⁝⁝] マルチ”に設定すると、幅広い【フォーカスフレーム】が表示されます。【シャッター】を半押しすると、ピントが合った測距点が（複数）緑色に点灯します。

“[・] スポット”の場合

【フォーカスフレーム】

“[⁝⁝⁝] マルチ”の場合

【フォーカスフレーム】

近くを撮影する(マクロ)

近くのものにピントを合わせて撮影します。ピントが合う距離は下記の通りです。

範囲:約15cm〜50cm
※ 光学ズームにより、範囲は変化します。

1. RECモードにして【MENU】を押します。

2. "撮影設定"タブ→"フォーカス方式"と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で"マクロ"を選び、【SET】を押します。

4. 【シャッター】を押して撮影します。

- ピントの合わせかた、撮影のしかたはオートフォーカスモードと同じです。

参考

- 被写体がマクロの範囲より遠距離にあり、ピントが合わない場合には、自動的にオートフォーカス(57ページ)の範囲までピント調整を行います(オートマクロ)。
- マクロ(接写)撮影時に光学ズーム(46ページ)を行うと、画面上に下記のような撮影可能な距離の範囲が表示されます。
  例:○○cm - ○○cm
  ※ ○○には数字が入ります。

重要!

- マクロ(接写)でフラッシュ撮影すると、フラッシュの光がレンズ部にさえぎられて、画像にレンズ部の影が映し込まれることがありますので、ご注意ください。
- 動画撮影時のマクロモードは固定焦点となります。

ピントを固定して撮影する(パンフォーカス)

パンフォーカスモードでは、ある被写体距離にピントが固定されますので、オートフォーカスの動作を行わずに撮影することができます。オートフォーカスが難しい状況での撮影や、オートフォーカスの動作音が気になる静かな環境などでの撮影に便利です。

1. RECモードにして【MENU】を押します。

2. “撮影設定”タブ→“フォーカス方式”と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で“PF”を選び、【SET】を押します。

4. 【シャッター】を押して撮影します。

参考

- 【シャッター】を半押しすることで、【液晶モニター】にピントが合う範囲が表示されます。
  例：○○m - ○○m
  ※ ○○には数字が入ります。

遠くを撮影する(無限遠)

無限遠では∞(無限遠)にピントが固定されます。景色など遠景を撮影するときに使用します。

1. RECモードにして【MENU】を押します。

2. “撮影設定”タブ→“フォーカス方式”と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で“∞”を選び、【SET】を押します。

4. 【シャッター】を押して撮影します。

手動でピントを合わせる(マニュアルフォーカス)

マニュアルフォーカスでは手動でピントを合わせることができます。ピントを合わせることができる範囲は下記の通りです。

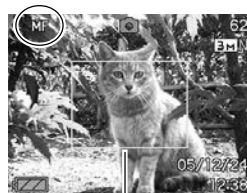
光学ズーム倍率	範囲
1倍	約15cm〜∞
3倍	約40cm〜∞

※ 光学ズームにより、範囲は変化します。

1. RECモードにして【MENU】を押します。

2. "撮影設定"タブ→"フォーカス方式"と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で"MF"を選び、【SET】を押します。

- 手順5で拡大表示される範囲が枠で囲まれます。

枠

4. 【SET】を押します。

5. 【液晶モニター】で確認しながら【◀】【▶】を押してピントを合わせます。

【◀】: 近い側にピントを合わせる

【▶】: 遠い側にピントを合わせる

- ピントを合わせている間は表示が拡大表示になり、ピントの確認がしやすくなります。

マニュアルフォーカスの位置

- ピントを合わせずにしばらく放置すると、手順3の表示に戻ります。再度ピントを合わせたい場合は、【SET】を押してください。

6. 【シャッター】を押して撮影します。

参考

- マニュアルフォーカス撮影時に光学ズーム(46ページ)を行うと、画面上に下記のような撮影可能な距離の範囲が表示されます。
  例:MF ○○cm - ∞
  ※ ○○には数字が入ります。

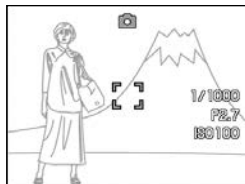
フォーカスロック

【フォーカスフレーム】に入らない被写体にピントを合わせる場合は、フォーカスロックを使います。フォーカスロックはオートフォーカスモード、マクロモード（🌷）で使用できます。

1. **ピントを合わせたい被写体をフォーカスフレームに入れて、【シャッター】を半押しします。**

ピントを合わせたい被写体

【フォーカスフレーム】

2. **【シャッター】を半押ししたまま、撮影したい構図を決めます。**

3. **【シャッター】を全押しして撮影します。**

参考　• フォーカスロックと同時に露出（AE）もロックされます。

露出を補正する（EVシフト）

本機は撮影時の明るさに応じて、露出値（EV値）を下記の値に手動で補正することができます。逆光での撮影、間接照明の室内、背景が暗い場合の撮影などに利用すると、より良好な画像が得られます。

露出補正値：－2.0EV～＋2.0EV
補正単位　：1/3EV

1. **RECモードにして【MENU】を押します。**

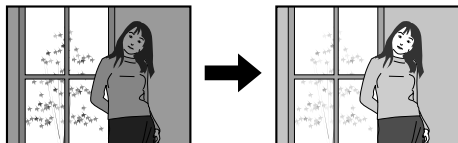
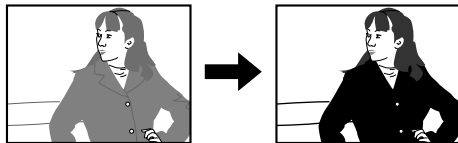
2. **"画質設定"タブ→"EVシフト"と選び、【▶】を押します。**

露出補正表示

3.【▲】【▼】で露出補正値を選び、【SET】を押します。

- これで露出補正値が設定されました。

露出補正表示

【▲】: +方向に補正されます。白い物の撮影や逆光での撮影のときに押します。

【▼】: −方向に補正されます。黒い物の撮影や晴天の野外などのときに押します。

- 露出補正値を元に戻したいときは、反対方向に露出補正して“0.0”に合わせてください。

4.【シャッター】を押して撮影します。

重要!
- 明るすぎたり、暗すぎたりするときは、露出補正ができない場合があります。

参考
- 測光方式をマルチパターン測光(画面全体を分割し、それぞれのエリアの測光データを元に露出を決めます)に設定しているときに露出補正を行うと、測光方式が自動的に中央重点測光(中央部を重点的に測光します)に切り替わります。露出補正値を“0.0”に戻すとマルチパターン測光に戻ります(92ページ)。
- キーカスタマイズ機能を使うと、【◀】【▶】を押すだけで露出値を補正することができます(88ページ)。ヒストグラム表示(86ページ)を確認しながらの撮影に便利です。

ホワイトバランスを変える

被写体は、太陽光や電球の光など光源の波長によって色味が異なっています。ホワイトバランスとは、被写体を自然な色合いで撮影できるように白を基準に色味を調整することです。

1. **RECモードにして【MENU】を押します。**

2. **“画質設定”タブ→“ホワイトバランス”と選び、【▶】を押します。**

3. **【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。**

オート　：自動的にホワイトバランスを調整します。
太陽光　：晴天時の野外での撮影用
曇天　：薄雲～雨天の野外や木陰などの撮影用
日陰　：ビルの陰など極端に色温度が高いところでの撮影用
N 昼白色：白色・昼白色蛍光灯下での色かぶりを抑えた撮影用
D 昼光色：昼光色蛍光灯下での色かぶりを抑えた撮影用
電球　：電球の雰囲気を消した撮影用
マニュアル　：その場の光源に合わせて手動で設定します。詳しくは「マニュアルホワイトバランスを設定する」(65ページ)を参照してください。

参考

- ホワイトバランスの“オート”では、被写体の中から白色点を自動的に判断します。被写体の色や光源の状況によってはカメラが白色点の判断に迷い、適切なホワイトバランスに調整されないことがあります。このような場合は、太陽光、曇天など光源を指定する固定モードをご使用ください。
- キーカスタマイズ機能を使うと、【◀】【▶】を押すだけでホワイトバランスを変更することができます(88ページ)。
- キーカスタマイズ機能で“オート”を選ぶときにアイコンガイド(89ページ)を使用している場合は、“AWBオートWB”を選んでください。

マニュアルホワイトバランスを設定する

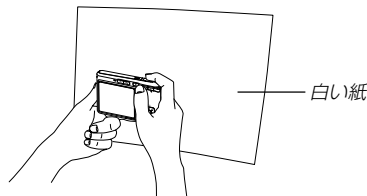
ホワイトバランスの“オート”や太陽光、曇天など光源を指定する固定モードでは、複数の光源下など難しい環境において調整できる範囲に限界があります。マニュアルホワイトバランスを使うと、さまざまな光源下で適正な色に調整することができます。マニュアルホワイトバランスの設定のために、白い紙を用意しておいてください。

1. RECモードにして【MENU】を押します。

2. **“画質設定”タブ→“ホワイトバランス”と選び、【▶】を押します。**

3. **【▲】【▼】で“マニュアル”を選びます。**

- 【液晶モニター】には、前回調整したバランスで被写体が表示されます。この設定で使う場合は、操作5に進んでください。

4. **画面全体に白い紙などを写した状態で【シャッター】を押します。**

- “完了”と表示されたらホワイトバランスの調整は完了です。

5. **【SET】を押します。**

- ホワイトバランスを決定し、撮影ができる画面に戻ります。

- 一度設定したマニュアルホワイトバランスは、新たにマニュアルホワイトバランスを設定し直さない限り、電源を入／切しても保持されたままとなります。

連続撮影する(連写モード)

【シャッター】を押すたびに1枚だけ撮影する1枚撮影と異なり、【シャッター】を押し続けている間、メモリーの空き容量いっぱいまで連続撮影ができます。

1. **RECモードにして【MENU】を押します。**

2. **"撮影設定"タブ→"連写"と選び、【▶】を押します。**

3. **【▲】【▼】で"入"を選び、【SET】を押します。**

- 【液晶モニター】に"▣"が表示されます。
- "切"を選ぶと、通常の一枚撮影になります

4. **【シャッター】を押して撮影します。**

- 【シャッター】を押し続けている間、連続撮影します。【シャッター】から指を離すと、撮影は終了します。

重要!
- 連写の速度は、使用するカードの種類によって異なります。内蔵メモリーを使用すると連写の速度は遅くなります。
- 電源を切ると、連写モードは自動的に"切"に設定されます。

さまざまなシーンを選んで静止画または動画を撮影する(ベストショットモード)

あらかじめ収録されているシーンの中から撮影したいシーンを選ぶと、自動的にそのシーンに最適な設定になります。

■シーンのサンプル画像例

- 人物を写します

- 風景を写します

- 夜景を写します

- 夜景と人物を写します

1. RECモードにして【BS】(BEST SHOT)を押します。

- ベストショットモードに設定すると、12個のシーンのサンプル画像一覧が表示されます。
- 内蔵シーンには、静止画と動画の両方で利用できるシーン、静止画専用のシーン、動画専用のシーン、音声記録（ボイスレコード）専用のシーンの4種類があります。
- サンプル画像は左上から順に画像が表示されます。

2. **【▲】【▼】【◀】【▶】で撮影したいシーンを選び、【SET】を押します。**

- 【▲】【▼】【◀】【▶】を押して、枠が画面の左上端または右下端まで行くと、次の12個のサンプル画像一覧を表示します。
- 【MENU】を押すと、枠が先頭のシーン（“オート”）へジャンプします。
- 【BS】を押すと、別のシーンを選び直すことができます。また、現在選ばれているシーンを、確認することもできます。
- “オート”のシーンを選ぶと、撮影の種類は静止画のオート撮影（“📷”点灯）になります（41ページ）。

3. **静止画を撮影するときは、【シャッター】を押します。動画を撮影するときは、【●】(MOVIE)を押します。**

- 動画撮影を終了させたいときは、もう一度【●】(MOVIE)を押してください。

重要!
- シーンに使用されているサンプル画像は本機で撮影されたものではありません。イメージ画像です。
- 名刺や書類、ホワイトボードのシーンでは、動画撮影ができません。
  ショートムービー、パストムービーのシーンでは、静止画撮影ができません。
  ボイスレコードのシーンでは、動画撮影と静止画撮影の両方ができません。
- 選んだシーンによっては、静止画が撮れない場合や動画が撮れない場合があります。
- 被写体の条件によっては、充分な効果が得られなかったり、正しく撮影されない場合があります。
- 選んだシーンの各種設定内容は変更することができますが、シーンを選び直したり、電源を入れ直すと、設定内容は初期状態に戻ります。変更した内容を、再度使用したい場合、カスタム登録をご利用ください。

- 夜景や花火のシーンなどシャッター速度が遅くなる撮影では、撮影した画像にノイズが発生するため、自動的にノイズ低減処理を行っています。このノイズ低減処理のために、撮影が終了するまでの時間がシャッター速度に比べて長くなります。その間はキー操作を行わないでください。
- 夜景や花火のシーンなどシャッター速度が遅くなる撮影では、手ブレを防ぐために、三脚の使用をおすすめします。

参考
- ベストショットモードで電源を入れたとき、約2秒間、操作ガイドと現在選ばれているシーンのサンプル画像が表示されます。

1つの画面に、1つのシーンのサンプル画像を表示する

ベストショットモードで内蔵しているシーンのサンプル画像を1つずつ表示させて、撮影したいシーンを選ぶことができます。撮影条件を画面上で確認することができます。

1. **RECモードにして【BS】(BEST SHOT)を押します。**

2. **【ズームボタン】を押します。**

- 12個のサンプル画像一覧表示から、最後に選んだサンプル画像のシーンに切り替わります。

- 再度【ズームボタン】を押すと、1つのシーンのサンプル画像から12個のサンプル画像一覧表示に戻ります。

3. **【◀】【▶】で撮影したいシーンを選び、【SET】を押します。**

- 【MENU】を押すと、シーンのサンプル画像は先頭のシーン(“オート”)に切り替わります。

4. **【シャッター】を押して撮影します。**

撮影したいシーンを登録する（カスタム登録）

今まで撮影した静止画または動画の設定内容をベストショットモードに登録して、同じ設定で撮影することができます。

1. **RECモードにして【BS】(BEST SHOT)を押します。**

2. **【▲】【▼】【◀】【▶】で“新規登録”のシーンを選び、【SET】を押します。**

3. **【◀】【▶】を押して、登録したい静止画または動画を選びます。**

4. **【▲】【▼】で“登録”を選び、【SET】を押します。**

- 登録が完了し、撮影できる状態になります。以降、67ページと同じ操作により、この設定を選んで撮影することができます。

重要!
- 本機内蔵のシーンのあとに“マイベストショット”（カスタム登録したシーン）の順番でシーンが登録されます。
- 静止画を登録すると静止画専用のシーンに、動画を登録すると動画専用のシーンになります。それぞれ静止画を撮るとき、動画を撮るときにのみ有効となります。
- カスタム登録した静止画のシーンを選ぶと、画像の右上に「SUn（n＝1～）」と表示されます。
  カスタム登録した動画のシーンを選ぶと、画像の右上に「MUn（n＝1～）」と表示されます。
- 内蔵メモリーをフォーマット（133ページ）すると、カスタム登録したベストショットモードのシーンファイルは消えてしまいます。

参考
- 静止画で登録される設定内容は下記の通りです。
  フォーカスモード、EVシフト、ホワイトバランス、フラッシュモード、ISO感度、測光方式、フラッシュ光量、フラッシュアシスト、フィルター、シャープネス、彩度、コントラスト
  また、動画で登録される設定内容は下記の通りです。
  フォーカスモード、EVシフト、ホワイトバランス、フィルター、シャープネス、彩度、コントラスト
- 登録できるのは本機で撮影された静止画および動画だけです。
- 登録可能件数は最大999件です。
- 各シーンの設定状態はメニューをたどり、各機能の設定内容を表示させることにより、確認できます。
- カスタム登録した静止画用のシーンは、内蔵メモリー内の「SCENE」フォルダに保存されます。また、カスタム登録した動画用のシーンは、内蔵メモリー内の「MSCENE」フォルダに保存されます。ファイル名は、「US600nnn.JPE（n＝0〜9）」となります。

登録したシーンを削除する

自分で登録（カスタム登録）したシーンを削除することができます。

1. RECモードにして【BS】(BEST SHOT)を押します。

2. 【ズームボタン】を押して、1つのシーンのサンプル画像表示に切り替えます。

3. 【◀】【▶】で削除したいシーンを選びます。

4. 【▼】（🗑 ⚡）を押します。

5. 【▲】【▼】で“解除”を選び、【SET】を押します。

6. 別のシーンを選び、【SET】を押します。
- 撮影できる状態に戻ります。

手ブレや被写体ブレを軽減する

遠くの被写体を望遠で撮影したり、動きの速い被写体を撮影したり、薄暗い場所で撮影したりするときに起きやすい手ブレや被写体ブレを軽減することができます。

- 動画を撮影するときも、手ブレを軽減しながら撮影することができます。ただし、ブレ軽減できるのは手ブレだけで、被写体ブレには効果がありません(76ページ)。

1. 次のどちらかの操作により、ブレ軽減撮影状態に設定します。

- ベストショットモードから設定する場合
  ① RECモードにして【BS】(BEST SHOT)を押します。
  ② 【▲】【▼】【◀】【▶】で"ブレ軽減"のシーンを選び、【SET】を押します。
- メニュー画面から設定する場合
  ① RECモードにして【MENU】を押します。
  ② "撮影設定"タブ→"ブレ軽減"と選び、【▶】を押します。
  ③ 【▲】【▼】で"オート"を選び、【SET】を押します。
- ブレ軽減撮影状態に設定すると、【液晶モニター】にブレ軽減アイコン" "が表示されます(24ページ)。

2. 【シャッター】を押して撮影します。

重要!
- ISO感度を"オート"以外に設定すると、ブレ軽減機能は働かなくなりますので、ブレ軽減で撮影するときは、必ずISO感度を"オート"に設定してください(91ページ)。
- ブレ軽減で撮影した画像は、多少ざらついた感じがしたり解像感が劣る場合があります。
- 手ブレや被写体ブレが大きい場合、ブレを軽減できない場合があります。
- シャッター速度が遅くなる撮影をした場合、手ブレによるブレを軽減できない場合があります。その場合は、三脚を使用してください。
- フラッシュが自動で発光した場合、または強制発光に設定した場合、ブレ軽減アイコン" "は表示されていますが、ブレ軽減機能は働きません。

感度を上げて撮影する（高感度撮影）

通常では露出不足で撮影できないような暗い場所で撮影するときに、感度を上げて、フラッシュ発光しなくても明るく撮影することができます。

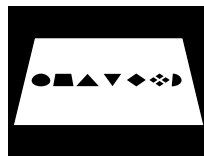
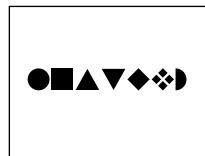
1. **RECモードにして【BS】（BEST SHOT）を押します。**

2. **【▲】【▼】【◀】【▶】で“高感度”のシーンを選び、【SET】を押します。**

3. **【シャッター】を押して撮影します。**

重要!
- ISO感度を“オート”以外に設定すると、高感度撮影機能は働かなくなりますので、高感度で撮影するときは、必ずISO感度を“オート”に設定してください（91ページ）。
- “高感度”のシーンで撮影した画像は、多少ざらついた感じがしたり解像感がやや劣る場合があります。
- 極端に暗い環境では、思ったように明るく撮影できない場合があります。
- シャッター速度が遅くなる撮影をした場合、手ブレを防ぐために三脚を使用してください。
- フラッシュが自動で発光した場合、または強制発光に設定した場合、高感度撮影機能は働きません。

名刺や書類などを撮影する（ビジネスショット機能）

名刺や書類、ホワイトボードなどの撮影時に、撮影の立ち位置の都合によって正面からは撮影できない場合があります。ビジネスショットでは、斜めから撮影した画像を自動的に正面から撮影したかのように補正して撮影することができます。

補正処理前　　補正処理後

■ ビジネスショット用シーン

- 名刺や書類を写します

- ホワイトボードなどを写します

C

ビジネスショット機能で撮影する前に

- 被写体が【液晶モニター】に収まるような構図で撮影してください。
- 被写体と背景の境界がはっきりするような構図で撮影してください。

- 名刺や書類の撮影時に、被写体に対してカメラが傾いていると、「台形歪み」（長方形の被写体が遠近の関係で台形として写ってしまう状態）が生じます。本機は台形歪みが生じた画像を自動的に補正するため、撮影時の多少の台形歪みを気にする必要はありません。

ビジネスショット機能で撮影する

1. **RECモードにして【BS】(BEST SHOT)を押します。**

2. **【▲】【▼】【◀】【▶】でビジネスショット用のシーンを選び、【SET】を押します。**

3. **【シャッター】を押して撮影します。**

- 補正確認画面を表示し、続けて撮影した元画像を保存します。ただし、補正候補が検出できない場合は、補正確認画面が表示されず、エラーメッセージが表示されます（188ページ）。

4. **【◀】【▶】で補正候補を選びます。**

5. **【▲】【▼】で“補正”を選び、【SET】を押します。**

- “キャンセル”を選ぶと、補正せずに撮影した元画像を保存します。

重要!
- ビジネスショット機能で撮影中は、デジタルズームは使用できません。光学ズームのみ使用できます。
- 下記の場合は、被写体の認識ができません。
  －被写体が【液晶モニター】からはみ出した場合
  －被写体と背景が同色の場合
- ビジネスショットでは、大きな撮影サイズに設定しても1600×1200pixelsの画像として撮影されます。ただし、撮影サイズの設定が1600×1200pixelsよりも小さい場合には、設定されている通りのサイズで撮影されます。

古く色あせた写真を蘇らせる(よみがえりショット機能)

古く色あせた写真を撮影し、あせた色を補正することにより、古い写真を最新のデジタル写真として蘇らせることができます。

よみがえりショット機能で撮影する前に

- 古い写真が【液晶モニター】に収まるような構図で撮影してください。
- 写真と背景の境界がはっきりするような構図で、できるだけ画面いっぱいに撮影してください。
- 写真表面の光の反射が写り込まないように注意して撮影してください。
- 縦向きで撮影された古い写真は、必ず写真が横向き(横長の状態)になるような構図で撮影してください。

参考
- 古い写真をカメラで撮影時に、被写体に対してカメラが傾いていると、「台形歪み」(長方形の被写体が遠近の関係で台形として写ってしまう状態)が生じます。本機は写真の輪郭を検出し、画像を自動的に補正するため、撮影時の多少の台形歪みを気にする必要はありません。

よみがえりショット機能で撮影する

1. RECモードにして【BS】(BEST SHOT)を押します。

2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で"古い写真を写します"のシーンを選び、【SET】を押します。

3. 【シャッター】を押して、古い写真を撮影します。

- 写真の輪郭確認画面を表示し、続けて撮影した元画像を保存します。ただし、写真の輪郭が検出できない場合は輪郭確認画面が表示されず、エラーメッセージが表示されます(188ページ)。

4. 【◀】【▶】で写真の輪郭候補を選びます。

5. 【▲】【▼】で"決定"を選び、【SET】を押します。

- 画像の一部を切り抜く操作(トリミング)に入り、【液晶モニター】に画像を切り抜くための枠が表示されます。
- "キャンセル"を選ぶと、補正せずに撮影した元画像を保存します。

6. 【ズームボタン】を押して、枠を拡大／縮小します。

7. 【▲】【▼】【◀】【▶】で切り抜きたい部分に枠を移動し、【SET】を押します。

- 自動的にあせた色を補正し、画像を保存します。
- 画像の周囲に余白を付けたくない場合は、撮影した写真よりも小さい枠で画像を切り抜いてください。
- 【MENU】を押すとトリミングを中止し、撮影した元画像を保存します。

重要!
- よみがえりショット機能で撮影中は、デジタルズームは使用できません。光学ズームのみ使用できます。
- 下記の場合は、撮影した古い写真の認識ができません。
  －撮影した写真が【液晶モニター】からはみ出した場合
  －古い写真と背景が同色の場合
- よみがえりショットでは、大きな撮影サイズに設定しても1600×1200pixelsの画像として撮影されます。ただし、撮影サイズの設定が1600×1200pixelsよりも小さい場合には、設定されている通りのサイズで撮影されます。
- 写真の退色度合いにより、補正の効果が表れない場合があります。

動画を撮影する

メモリー容量いっぱいに、音声付き高画質動画を撮影することができます。用途に応じて画質を選ぶことができます。また、さまざまな動画撮影機能を選ぶことができます。

● ファイル形式：AVI形式、MPEG-4準拠

● 撮影可能なムービーの時間
一度に撮影可能な最長時間：メモリー容量による

● 動画ファイルサイズ(1分間録画時)
約28.4MB(画質"高品位-HQ"設定時)
約14.9MB(画質"標準-Normal"設定時)
約5.3MB(画質"長時間-LP"設定時)

●動画撮影の種類について

- ムービー
  標準的な動画を撮影します(78ページ)。
- ショートムービー
  【 ● 】(MOVIE)を1回押すと、その前後の数秒間の動画が記録されます(78ページ)。
- パストムービー
  【 ● 】(MOVIE)を押す約5秒前から動画が記録されます。決定的瞬間の撮り逃しを防ぐことができます(80ページ)。
- ショートムービー、パストムービー以外のベストショットモードでの動画撮影
  簡単に綺麗な動画を撮影したいときに設定します。あらかじめ収録されているシーンの中から撮影したいシーンを選び、煩わしい設定をカメラにまかせることができます(66ページ)。

参考

- 撮影した動画ファイルは、Windows Media Player9を使用して、パソコン上で再生することもできます。
- MacintoshにCASIO AVI Importer componentをインストールすれば、QuickTimeを使用して、撮影した動画ファイルを再生することができます(174ページ)。

動画の画質を設定する

撮影前に、動画撮影時の画質を設定します。動画の画質とは、再生したときの画像のきめ細かさや滑らかさ、美しさを示す目安です。画質を高品位にすると美しく撮影できますが、記録できる撮影時間は短くなります。

1. **RECモードにして【MENU】を押します。**

2. **【◀】【▶】で“画質設定”タブを選びます。**

3. **【▲】【▼】で“ 画質”を選び、【▶】を押します。**

4. **【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。**

設定内容		転送レート	フレームレート
高画質	高品位－HQ (640×480 pixels)	約4.0メガビット/秒	30フレーム/秒
↕	標準－Normal (640×480 pixels)	約2.1メガビット/秒	30フレーム/秒
低画質	長時間－LP (320×240 pixels)	約745キロビット/秒	15フレーム/秒

標準的な動画を撮影する(ムービー)

1. **RECモードにして、撮影する被写体にカメラを向けます。**

2. **【●】(MOVIE)を押します。**

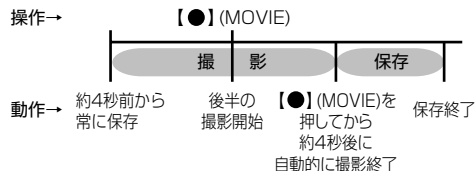
- 動画の撮影が始まります。
- 撮影中は“●REC”が表示されます。
- 残りのメモリー容量の範囲内で撮影することができます。

3. **動画撮影を終了させたいときは、もう一度【●】(MOVIE)を押してください。**

- 動画撮影が終了すると、動画ファイルがカメラのメモリーに保存されます。

短時間の動画を撮影する(ショートムービー)

【●】(MOVIE)を1回押すと、その前後の短い数秒間(最短で2秒間、最長で8秒間)の動画が記録されます。撮影時間は前後独立して設定することができます。また、モーションプリント機能(104ページ)により動画の保存と同時に動画の内容を1枚の静止画に記録することもできます。

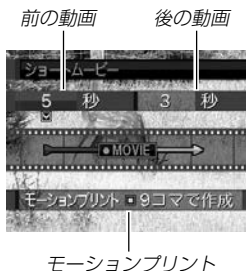
- 前の動画を4秒、後の動画を4秒に設定した場合

1. **RECモードにして【BS】(BEST SHOT)を押します。**

2. **【▲】【▼】【◀】【▶】で“ショートムービー”のシーンを選び、【SET】を押します。**

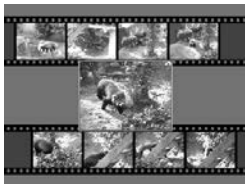
- “ショートムービー”のシーンを選ぶと、【液晶モニター】に“[アイコン]”が表示されます。

3. **【SET】を押します。**

4. **【▲】【▼】で【 ● 】(MOVIE)を押す前に何秒間撮影するかを設定し、【▶】を押します。**

- 設定できる時間は前後の合計で最短2秒間、最長8秒間で1秒単位で設定できます。前または後を0秒にすることもできます。
- 前の動画は5秒まで設定できます。

5. **【▲】【▼】で【 ● 】(MOVIE)を押した後に何秒間撮影するかを設定し、【▶】を押します。**

6. **【▲】【▼】でモーションプリントの設定をし、【SET】を押します。**

9コマで作成：
【 ● 】(MOVIE)を押した瞬間の静止画を最も大きくレイアウトした9コマの静止画が記録されます。

1コマで作成：
【 ● 】(MOVIE)を押した瞬間の静止画が記録されます。

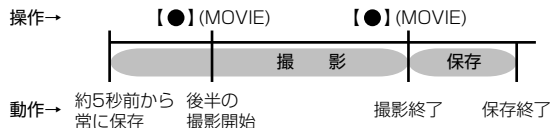
切：静止画は記録されません。

7. **撮影する被写体にカメラを向け、【 ● 】(MOVIE)を押します。**

- 設定した時間の動画が記録され、自動的に撮影は終了します。
- 動画撮影を途中で終了させたいときは、もう一度【 ● 】(MOVIE)を押してください。

重要! • 【 ● 】(MOVIE)を押す前から、動画の撮影は始まっています。設定した「【 ● 】(MOVIE)を押す前の撮影時間」はしっかりとカメラを構えていてください。また「【 ● 】(MOVIE)を押した後の撮影」が始まると、設定した時間が4, 3, 2, 1・・・とカウントダウン表示されます。この表示が消えるまでは撮影が続いています。

決定的瞬間の動画を撮影する(パストムービー)

【●】(MOVIE)を押す約5秒前から動画が記録されます。決定的瞬間の撮り逃しを防ぐことができます。

1. **RECモードにして【BS】(BEST SHOT)を押します。**

2. **【▲】【▼】【◀】【▶】で“パストムービー”のシーンを選び、【SET】を押します。**

- “パストムービー”のシーンを選ぶと、【液晶モニター】に“ ”が表示されます。

3. **撮影する被写体にカメラを向け、【●】(MOVIE)を押します。**

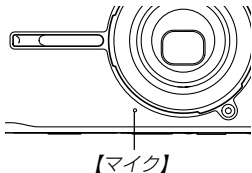
- 【●】(MOVIE)を押す約5秒前と【●】(MOVIE)を押した後の動画を、残りのメモリー容量の範囲内で撮影することができます。

4. **動画撮影を終了させたいときは、もう一度【●】(MOVIE)を押してください。**

重要!
- 【●】(MOVIE)を押す前から、動画の撮影は始まっています。設定した「【●】(MOVIE)を押す前の撮影時間」はしっかりとカメラを構えていてください。

■動画撮影時のご注意

- 本機では音声も同時に記録されますので、次の点に注意してください。
  - 指などで【マイク】をふさがないようにご注意ください。
  - 録音の対象がカメラから遠くに離れると、きれいに録音されません。
  - 撮影中にボタン操作をすると、操作音が入ることがあります。

  - 音声はモノラルで録音されます。
- 極端に明るい被写体を撮影すると、【液晶モニター】上の画像に、縦に尾を引いたような光の帯が表示される場合があります(スミア現象といいます)。これはCCD特有の現象で、故障ではありません。なお、この帯は静止画には記録されませんが、動画にはそのまま記録されますので、ご注意ください。
- 内蔵メモリーでは撮影可能な時間が非常に短いので、動画を撮影する際はメモリーカードを使用することをおすすめします(135ページ)。
- 使用するメモリーカードによっては、記録時間がかかるため、コマ落ちする場合があります。このとき、とが●REC点滅します。メモリーカードは、最大転送速度が10MB/s以上のSDメモリーカードの使用をおすすめします。

- 動画撮影中は光学ズームは動作しません。デジタルズームのみ使用できます。【●】(MOVIE)を押す前であれば、光学ズームは使用できます(46ページ)。
- 動画撮影中に手ブレを軽減することができます。詳しい操作方法については「手ブレや被写体ブレを軽減する」(71ページ)をご覧ください。
- ブレ軽減状態で動画を撮影すると、約10%ほど画像をズームしたような状態になります。
- アップで撮影したり、高倍率ズームにしたとき、被写体のブレが目立つため手振れにご注意ください。三脚を使用することをおすすめします。
- 撮影範囲外ではピントが合わず、ぼけた画像になります。
- オートフォーカスモードとマクロモードは固定焦点となります。
- 次のベストショットシーンでは、動画撮影はできません(66ページ)。
  名刺や書類、ホワイトボード、古い写真、ボイスレコード

動画撮影中に静止画を撮影する(スチル イン ムービー)

動画撮影の最中にも静止画を撮影することができます。

1. 撮影する被写体にカメラを向け、【●】(MOVIE)を押します。

- 動画撮影が始まります。

2. 静止画を撮りたい場面になったら、【シャッター】を押します。

- 静止画を撮影した後、動画撮影に戻ります。
- 動画撮影を終了させたいときは、もう一度【●】(MOVIE)を押してください。

重要!
- 次のベストショットシーンでは、動画撮影中に静止画撮影はできません(66ページ)。
  ショートムービー、パストムービー
- 静止画を撮影した瞬間、動画撮影(映像と音声)は数秒間途切れます。

参考
- 動画撮影中に【▼】(🗑 ⚡)を押して、静止画撮影でのフラッシュ発光方法を切り替えることができますので、静止画撮影前に必要に応じてフラッシュの発光方法を切り替えてください(48ページ)。
- キーカスタマイズ機能を使うと、静止画撮影時や動画撮影中に、【◀】【▶】により割り当てた機能を設定することができます(88ページ)。

音声を記録する

画像に音声を加えて記録する（音声付き静止画撮影モード）

画像撮影後に、音声を録音することができます。

● 画像形式：JPEG形式
画像を効率よく圧縮するための画像フォーマットです。
拡張子は“.JPG”となります。

● 録音形式：WAVE/ADPCM記録形式
音声を録音するためのWindows標準フォーマットです。
拡張子は“.WAV”となります。

● 録音時間：1画像につき最長約30秒間

● 音声ファイルサイズ：
約165KB（約5.5KB／秒で30秒間録音時）

参考
- 音声付き静止画撮影モードで録音したファイルは、Windows Media Playerを使用して、パソコン上で再生することもできます。

1. RECモードにして【MENU】を押します。

2. “撮影設定”タブ→“音声付静止画”と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で“入”を選び、【SET】を押します。
- 音声付き静止画撮影モードになります。
- “切”を選ぶと、通常の静止画撮影になります。

4. 【シャッター】を押して、画像を撮影します。
- 画像を撮影した後、音声録音スタンバイ状態になります（今、撮影した画像が表示され、♪が表示されます）。
- 音声録音スタンバイ状態で【MENU】を押すと、音声録音を解除することができます。

録音可能時間

5. 【シャッター】を押して、音声を録音します。
- 録音中は【動作確認用ランプ】が緑色に点滅します。

6. 【シャッター】を押すか約30秒経つと、録音を終了します。

重要!
- 次の撮影では、音声付き静止画撮影はできません(音声の録音ができません)。
  セルフタイマー撮影の“×3”(トリプルセルフタイマー)、動画撮影中の静止画撮影

音声のみ記録する(ボイスレコード)

音声のみを録音することができます。

●録音形式:WAVE/ADPCM記録形式
音声を録音するためのWindows標準フォーマットです。
拡張子は“.WAV”となります。

●録音時間:内蔵メモリー使用時で最長約25分

●音声ファイルサイズ:
約165KB(約5.5KB/秒で30秒間録音時)

参考
- ボイスレコードで録音したファイルは、Windows Media Playerを使用して、パソコン上で再生することもできます。

1. RECモードにして【BS】(BEST SHOT)を押します。

2. **【▲】【▼】【◀】【▶】で“ボイスレコード”のシーンを選び、【SET】を押します。**

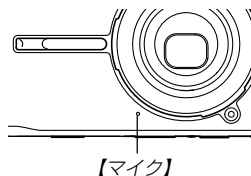
- “ボイスレコード”のシーンを選ぶと、【液晶モニター】に“🎙”が表示されます。

3. **【シャッター】を押して、音声を録音します。**

- 録音中は【液晶モニター】に“録音時間”を表示します。また、【動作確認用ランプ】が緑色に点滅します。
- 録音中に【▲】(DISP)を押すと、【液晶モニター】が消灯します。
- 録音中に【SET】を押すと、録音位置を記憶したマークを付けることができます。

4. **【シャッター】を押すかメモリーがいっぱいになるか、または電池が消耗すると録音を終了し、音声を記録します。**

■ 音声記録時のご注意

- 指などで【マイク】をふさがないようにご注意ください。

- 録音の対象がカメラから遠くに離れると、きれいに録音されません。
- 録音中に【電源ボタン】を押したり【▶】(PLAY)を押すと、録音は中止となり、その時点までの音声が記録されます。
- 撮影済みの静止画像に、後から音声を追加(アフターレコーディング機能)することができます。また、録音済みの音声を記録し直すこともできます(111ページ)。

ヒストグラムを活用する

【▲】(DISP)を押して【液晶モニター】上にヒストグラムを表示させることにより、露出(光の量や明るさ)をチェックしながら撮影することができます(26ページ)。再生モードでは撮影された画像のヒストグラムを見ることができます。

ヒストグラム(輝度成分分布表)とは、画像の明るさのレベルをピクセル数によりグラフ化したものです。縦軸がピクセル数、横軸が明るさを表します。ヒストグラムを見ると、補正するために充分な画像のディテールが画像のシャドウ(左側)、中間調(中央部分)、ハイライト(右側)に含まれているかどうかを確認することができます。もしもヒストグラムが片寄っていた場合は、EVシフト(露出補正)を行うと、ヒストグラムを左右に移動させることができます。なるべくグラフが中央に寄るように補正をすることによって、適正露出に近づけることができます。さらにR(赤)、G(緑)、B(青)の色成分が独立したヒストグラムも同時に表示されますので、色ごとに「赤成分がオーバー」「青成分がアンダー」のように各色の分布状況も直感的に把握することができます。

- キーカスタマイズ機能で“EVシフト”の切り替えを【◀】【▶】に割り当てると(88ページ)、ヒストグラムを確認しながら【◀】【▶】でEVシフトを行って撮影することができます(62ページ)。

- ヒストグラムが左の方に寄っている場合は、暗いピクセルが多いことを示しています。
  全体的に暗い画像はこのようなヒストグラムになります。また、あまり左に寄り過ぎていると、黒つぶれを起こしている可能性もあります。

- ヒストグラムが右の方に寄っている場合は、明るいピクセルが多いことを示しています。
  全体的に明るい画像はこのようなヒストグラムになります。また、あまり右に寄り過ぎていると、白飛びを起こしている可能性もあります。

- ヒストグラムが中央に寄っている場合、明るいピクセルから暗いピクセルまで適度に分布していることを示しています。
  全体的に適度な明るさの画像はこのようなヒストグラムになります。

重要!

- 前記のヒストグラムはあくまでも例であり、被写体によってはヒストグラムの形が例のようにならない場合もあります。
- 撮影したい画像を意図的に露出オーバーやアンダーにする場合もあるので、必ずしも中央に寄ったヒストグラムが適正となる訳ではありません。
- 露出補正には限界がありますので、調整しきれない場合があります。
- フラッシュ撮影など、撮影したときの状況によっては、ヒストグラムによりチェックした露出とは異なる露出で撮影される場合があります。
- RGB(色成分)ヒストグラムは、静止画にのみ表示されます。

各種機能を設定する

RECモードでは、下記の機能を設定することができます。

- 左右キー設定
- グリッド表示のオン／オフ
- 撮影レビュー
- アイコンガイド
- 各種設定の記憶(モードメモリ)
- ISO感度
- 測光方式
- フィルター
- シャープネス
- 彩度
- コントラスト
- 各種設定のリセット

左右キーに機能を割り当てる(キーカスタマイズ)

【◀】【▶】に5つの中のどれか1つの機能の操作を割り当てることにより、操作しやすくすることができます。

1. RECモードにして【MENU】を押します。

2. "撮影設定"タブ→"左右キー設定"と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で割り当てる機能を選び、【SET】を押します。

- 【◀】【▶】を押すだけで、割り当てた機能を設定することができるようになります。

フォーカス	:(56ページ)
EVシフト	:(62ページ)
ホワイトバランス	:(64ページ)
ISO感度	:(91ページ)
セルフタイマー	:(52ページ)
切	:【◀】【▶】に操作を割り当てません。

重要! • 静止画撮影と動画撮影中に、【◀】【▶】により割り当てた機能を設定することができるようになります。ただし、動画撮影中はセルフタイマーの設定はできません。

グリッドを表示する

撮影時、【液晶モニター】に方眼を表示します。カメラを水平や垂直に保つのに便利です。

1. RECモードにして【MENU】を押します。

2. "撮影設定"タブ→"グリッド表示"と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

入:グリッドを表示します。
切:グリッドは表示しません。

撮影した画像を確認する(撮影レビュー)

撮影した直後に撮影した画像を【液晶モニター】で確認することができます。

1. RECモードにして【MENU】を押します。

2. "撮影設定"タブ→"撮影レビュー"と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で設定項目を選び、【SET】を押します。

入:撮影した画像が約1秒間表示されます。

切:撮影した画像は表示されません。

画面上のアイコンの意味を確認する(アイコンガイド機能)

RECモード時に【液晶モニター】上でアイコンの意味を確認しながら操作することができます(24ページ)。

- アイコンの意味を確認できる機能は、次の通りです。
  フラッシュモード、フォーカスモード、ホワイトバランス、セルフタイマー、 撮影の種類、露出補正
  ただし、ホワイトバランス、セルフタイマー、露出補正のアイコンの意味は、キーカスタマイズ機能(88ページ)を"ホワイトバランス"、"セルフタイマー"、"露出補正"に設定したときにのみ表示されます。

1. RECモードにして【MENU】を押します。

2. "撮影設定"タブ→"アイコンガイド"と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

入:各種撮影機能を切り替えたとき、切り替えた機能を示すアイコンの近くに、アイコンの意味が表示されます。

切:アイコンの意味を表示しません。

重要!

- アイコンガイドを"切"に設定すると、下記のアイコンも表示されません。
  - フラッシュモードの"⚡A"(49ページ)
  - フォーカスモードの"AF"(56ページ)
  - ホワイトバランスの"AWB"(64ページ)

各種設定を記憶させる(モードメモリ)

モードメモリとは、電源を切ったときでも直前の状態を記憶しておく機能です。電源の入/切で毎回設定をし直す手間がはぶけます。

●モードメモリで設定できる機能

BS ベストショット、フラッシュ、フォーカス方式、ホワイトバランス、ISO感度、AFエリア、測光方式、セルフタイマー、フラッシュ光量、デジタルズーム、MF位置、ズーム位置

1. RECモードにして【MENU】を押します。

2. "撮影設定"タブ→"モードメモリ"と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で設定したい機能を選び、【▶】を押します。

4. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

入:電源を切ったときにその時点の設定を記憶します。

切:電源を切ったときに初期設定に戻ります。

機 能	入	切
BS ベストショット※1	最後の状態	ベストショット状態を解除して起動
フラッシュ		オート
フォーカス方式		オート
ホワイトバランス		オート
ISO感度		オート
AFエリア		[・] スポット
測光方式		マルチ
セルフタイマー		切
フラッシュ光量		0
デジタルズーム		入
MF位置		MFに切り替える前の位置
ズーム位置※2		ワイド端

※1 ベストショットのシーン選択状態のまま起動するかどうかを設定します。「入」の場合はベストショットの前回使用したシーンで起動しますが、「切」にすると必ず「オート」の状態で起動します。

※2 ズーム位置では光学ズームの位置のみ記憶します。

重要! ● ベストショットモードでは、シーンの選択をしたり、電源のオン/オフを行うと、モードメモリが入/切のどちらに設定されていても、撮影設定("ズーム位置"以外)は各シーンの初期設定値となります。

ISO感度を変える

暗い場所で撮影するときやシャッター速度を速くしたいとき、ISO感度が変更できます。使用目的に応じてISO感度を設定してください。

- ISO感度とは、光に対する感度をISO(写真フィルムの感度単位)の数値で表したものです。数値が大きいほど感度が高くなり、暗い場所での撮影に強くなります。

1. RECモードにして【MENU】を押します。

2. "画質設定"タブ→"ISO感度"と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

オート　：撮影条件により自動調整します。
ISO 50　：感度が低い
ISO 100　↕
ISO 200
ISO 400　：感度が高い

重要!
- 同じ撮影条件下でISO感度を上げるとシャッター速度は早くなりますが、画像は多少ざらついた感じ(ノイズが増加した画像)になりますので、きれいに撮りたいときはなるべくISO感度を下げてください。
- ISO感度を上げてフラッシュ撮影すると、近くの被写体の明るさが適正にならない場合があります。
- 動画撮影では、ISO感度がどこに設定されていても、常に"オート"に設定されます。

参考
- キーカスタマイズ機能を使うと、【◀】【▶】を押すだけでISO感度を変更することができます(88ページ)。

測光方式を変える

測光方式とは、被写体のどの部分の露出を測るかを決定する方式のことです。本機では測光方式が変更できます。

1. **RECモードにして【MENU】を押します。**

2. **"画質設定"タブ→"測光方式"と選び、【▶】を押します。**

3. **【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。**

マルチ(マルチパターン):

画面の全体を分割し、それぞれのエリアについて測光します。測光結果の明暗パターンによって撮影環境をカメラが自動的に判断し、露出を決定します。さまざまなシーンで失敗の少ない露出が得られます。

中央重点:

中央部を重点的に測光します。カメラ任せではなく、自分である程度露出をコントロールしたいときに使います。

スポット:

センターのごく狭い部分を測光します。周囲の影響を受けずに、写したい被写体に露出を合わせることができます。

重要!

- "マルチ"設定時にEVシフト(62ページ)を行うと、測光方式が自動的に"中央重点"に切り替わります。EVシフトを"0.0"に戻すと、元の測光方式に戻ります。
- "マルチ"設定時は、RECモードの情報表示に戻ったときにアイコンが表示されません(23ページ)。

色を変える(フィルター)

フィルター機能を使用して、撮影時の画像の色彩効果を変更することができます。

1. **RECモードにして【MENU】を押します。**

2. **“画質設定”タブ→“フィルター”と選び、【▶】を押します。**

3. **【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。**

切/白黒/セピア/赤/緑/青/黄/ピンク/紫

参考

- フィルター機能を使うと、色彩効果用のレンズフィルターを装着して撮影したような画像になります。

シャープネスを変える

撮影される画像の鮮鋭度を設定できます。

1. **RECモードにして【MENU】を押します。**

2. **“画質設定”タブ→“シャープネス”と選び、【▶】を押します。**

3. **【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。**

+2: 鮮鋭度が高い
+1
0
−1
−2: 鮮鋭度が低い

彩度を変える

撮影される画像の色の鮮やかさを設定できます。

1. RECモードにして【MENU】を押します。

2. “画質設定”タブ→“彩度”と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

+2： 色の鮮やかさが高い
+1 ↑
0
−1 ↓
−2： 色の鮮やかさが低い

コントラストを変える

撮影される画像の明暗の差を設定できます。

1. RECモードにして【MENU】を押します。

2. “画質設定”タブ→“コントラスト”と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

+2： 明暗がクッキリする
+1 ↑
0
−1 ↓
−2： 明暗が平坦になる

各種設定をリセットする

本機の設定内容を初期値に戻すことができます。初期値については「メニュー一覧表」（177ページ）をご覧ください。

1. 【MENU】を押します。

2. “設定”タブ→“リセット”と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で“リセット”を選び、【SET】を押します。

- リセットしない場合は“キャンセル”を選びます。

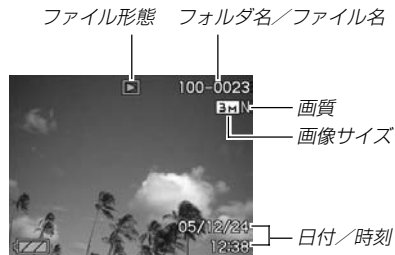
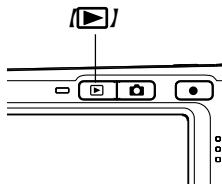
再生する

本機は【液晶モニター】を備えていますので、記録されているファイルを本機だけで確認することができます。

基本的な再生のしかた

記録されているファイルを順次送ったり戻したりしながら見ることができます。

1.【▶】(PLAY)を押します。

- PLAYモードになり、再生できる状態になります。
- 【液晶モニター】に画像またはメッセージが表示されます。

2.【◀】【▶】でファイルを見ていきます。

【▶】を押す：進みます。

【◀】を押す：戻ります。

参考
- 【◀】【▶】を押し続けると、ファイルは早送りされます。
- 初めに表示される画像は簡易画像のため、粗い表示になっていますが、すぐ後に精細な画像が表示されます。ただし、他のデジタルカメラからコピーした画像は、この限りではありません。

音声付き画像を再生する

音声付きの画像(♪が表示される画像)を見るときは、下記のように操作してください。

1. **PLAYモードにして【◀】【▶】で音声付き画像を表示させます。**

2. **【SET】を押します。**

- 画像に録音された音声がスピーカーから再生されます。

- 音声再生中に、次のような操作ができます。

音声を早戻し／早送りする .... 【◀】【▶】を押し続ける
再生と一時停止を切り替える .... 【SET】を押す
音量を調整する .... 【▼】を押した後、【▲】【▼】を押す
表示内容を切り替える .... 【▲】(DISP)を押す
再生を中断する .... 【MENU】を押す

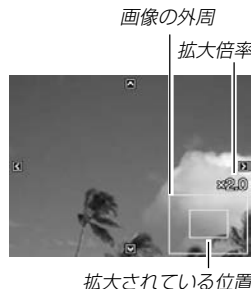
重要! • 音声付き画像の音量調整は、再生／一時停止中に可能です。

画像を拡大して表示する

撮影した画像を8倍まで拡大して表示させることができます。

1. **PLAYモードにして【◀】【▶】で拡大したい画像を表示させます。**

2. **【ズームボタン】の🔍側を押して、画像を拡大します。**

- 画像の右下に拡大されている位置が表示されます。
- 【BS】を押すと、倍率などの表示のオン／オフができます。

3. **【▲】【▼】【◀】【▶】で拡大した画像を上下左右にスクロールすることができます。**

4. **【MENU】を押すと、画像は元の大きさに戻ります。**

重要! • 画像のサイズによっては、8倍までの拡大表示ができない場合があります。

画像サイズを変える(リサイズ)

撮影した静止画像を、3種類のサイズに変えることができます。

1. PLAYモードにして【MENU】を押します。

2. “再生機能”タブ→“リサイズ”と選び、【▶】を押します。

- 静止画が【液晶モニター】に表示されているときのみ操作することができます。

3. 【◀】【▶】でサイズを変えたい画像を表示させます。

4. 【▲】【▼】でリサイズ内容を選び、【SET】を押します。

- 画像サイズを選択している際に、画素数とプリントサイズを切り替えて表示します。プリントサイズは、選んだ画素数に対して、プリント時に最適な用紙のサイズを示しています。

画素数(pixels)			プリントサイズ
大きい	3M※	2048×1536	A4プリント
↕	2M	1600×1200	L判プリント
小さい	VGA	640×480	Eメール ● Eメールで画像を送りたい場合に最適です。

※ Mはメガ(100万)の意味です。

- リサイズを中止したいときは、“キャンセル”を選びます。

重要!
- リサイズした画像は、リサイズする前の画像とは別に最新ファイルとして保存されます。
- 次の画像はリサイズできません。
  - 画像サイズが640×480pixels以下の画像
  - 動画、ボイスレコードファイルのアイコン
  - モーションプリント機能により作成した画像
  - このカメラで撮影した画像以外の画像
- リサイズした画像を保存できるだけのメモリー容量が残っていない場合は、リサイズできません。
- リサイズした画像をカメラで表示した場合、日付はリサイズした日付ではなく、撮影した日付が表示されます。
- リサイズした画像をカレンダー表示した場合、画像はリサイズした日付上に表示されます(106ページ)。

画像の一部を切り抜く(トリミング)

拡大した画像から必要な箇所を切り抜くことができます。

1. **PLAYモードにして【◀】【▶】でトリミングしたい画像を表示させます。**

2. **【MENU】を押します。**

3. **"再生機能"タブ→"トリミング"と選び、【▶】を押します。**

- 画像の右下に切り抜かれる部分の位置が表示されます。

画像の外周
拡大倍率
切り抜かれる部分

4. **【ズームボタン】を押して、画像を拡大/縮小します。**

- 【液晶モニター】に表示されている画像部分が切り抜かれる部分となります。

5. **【▲】【▼】【◀】【▶】で切り抜きたい部分を上下左右にスクロールします。**

6. **【SET】を押します。**

- トリミングを中止する場合は【MENU】を押します。

重要!
- トリミングした画像は、トリミングする前の画像とは別に最新ファイルとして保存されます。
- 次の画像はトリミングできません。
  - 動画、ボイスレコードファイルのアイコン
  - モーションプリント機能により作成した画像
  - このカメラで撮影した画像以外の画像
- トリミングした画像を保存できるだけのメモリー容量が残っていない場合は、トリミングできません。
- トリミングした画像をカメラで表示した場合、日付はトリミングした日付ではなく、撮影した日付が表示されます。
- トリミングした画像をカレンダー表示した場合、画像はトリミングした日付上に表示されます(106ページ)。

動画を再生／カットする

動画を再生する

撮影した動画を再生することができます。

1. PLAYモードにして【◀】【▶】で再生したい動画を表示させせます。

2. 【SET】を押します。

- 動画が再生されます。
- 動画再生中に、次のような操作ができます。

  早戻し／早送りする .... 【◀】【▶】を押す

  －押す毎に早戻し、早送りのスピードが早くなります。

  －【SET】を押すと通常の再生に戻ります。

  再生と一時停止を切り替える ... 【SET】を押す

  一時停止中にコマ送りする ...... 【◀】【▶】を押す

  再生を中断する .... 【MENU】を押す

  音量を調整する .... 【▼】を押した後、【▲】【▼】を押す

  表示のオンオフを切り替える ... 【▲】(DISP)を押す

  拡大する .... 【ズームボタン】の 🔍 側を押す

  －拡大中は【▲】【▼】【◀】【▶】で拡大部分の移動ができます。

重要!
- 動画の音量調整は、再生中のみ可能です。
- 動画は4.5倍まで拡大表示できます。
- このカメラで撮影した動画以外は、再生できない場合があります。

手ブレを補正しながら動画を再生する

撮影時の手ブレを補正しながら動画を再生することができます。カメラとテレビをつないだときなどに、手ブレを補正した状態で鑑賞できるので便利です。

1. **PLAYモードにして【◀】【▶】で手ブレを補正したい動画を表示させせます。**

2. **【 ● 】(MOVIE)を押して、手ブレ補正を“入”に設定します。**

- 【 ● 】(MOVIE)を押すごとに、手ブレ補正の“入”/“切”が切り替わります。
- 手ブレ補正が“入”に設定されると、【液晶モニター】に手ブレ補正アイコン“ ”が表示されます。

3. **【SET】を押して、動画を再生します。**

参考

- 動画再生中/一時停止中も【 ● 】(MOVIE)を押すことで、手ブレ補正の“入”/“切”を切り替えることができます。
- 次のように操作しても、手ブレ補正の“入”/“切”を切り替えることができます。
  ① 動画再生中に【MENU】を押します。
  ② “再生機能”タブ→“ 手ブレ補正”と選び、【▶】を押します。
  ③【▲】【▼】で“入”を選び、【SET】を押します。
- 手ブレ補正を“入”に設定すると、【液晶モニター】に表示される再生画面の表示範囲が若干狭まります。

動画をカットする(ムービーカット機能)

動画のカット(削除)編集ができます。

- カット(前カット)：選択した場面から前をカットします。
- カット(中カット)：選択した場面と場面の間をカットします。
- カット(後カット)：選択した場面から後をカットします。

重要!
- この操作では再生中の画像そのものをカットしますので、カット後に消してしまった場面をもとに戻すことはできません。
- このカメラで撮影した動画以外は、ムービーカットできません。
- 5秒未満の短い動画は、ムービーカットできません。
- 録画時間の長い動画の場合、カット編集処理に若干時間がかかります。
- カット編集しようとしている動画ファイルよりも残りメモリー容量が少ない場合は、ムービーカットできません。その場合は不要なファイルを消去するなどして、残りメモリー容量を増やしてください。
- 動画を二つに分けたり、二つの動画を一つにすることはカメラ上ではできません。ただし、同梱のソフト「Ulead VideoStudioおまかせモードSE VCD」を使えば、パソコン上では可能です。

■前カットと後カットのしかた

1. 動画再生中に【SET】を押します。

- 動画が一時停止します。

2. 【▼】を押します。

※ PLAYモードにして【MENU】を押し、“再生機能”タブ→“ムービーカット”と選んで【▶】を押しても、同じ表示になります。

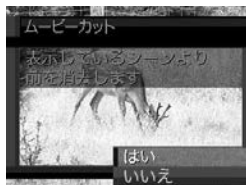
3. 【▲】【▼】で“ カット(前カット)”または“ カット(後カット)”を選び、【SET】を押します。

- “キャンセル”を選ぶとカットを中止します。

4. 下記のボタンでカットしたい地点(境界のコマ)を探します。

早戻し／早送りする .... 【◀】【▶】を押す
再生と一時停止を切り替える .... 【SET】を押す
一時停止中にコマ送りする .... 【◀】【▶】
カットを中止する .... 【MENU】を押す

- バー表示の赤くなっている部分がカットされる部分です。

5. カットしたい地点(コマ)を表示したら【▼】を押します。

6. 【▲】【▼】で“はい”を選び、【SET】を押します。

- “処理中です　しばらくお待ちください”と表示され、この表示が消えるとカットは完了します。
- “いいえ”を選ぶとカットを中止します。

■中カットのしかた

1. 動画再生中に【SET】を押します。

- 動画が一時停止します。

2. 【▼】を押します。

※ PLAYモードにして【MENU】を押し、“再生機能”タブ→“ムービーカット”と選んで【▶】を押しても、同じ表示になります。

3. 【▲】【▼】で“ カット(中カット)”を選び、【SET】を押します。

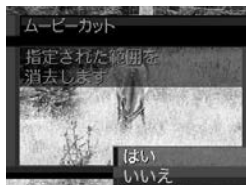
- “キャンセル”を選ぶとカットを中止します。

4. 下記のボタンでカットしたい地点(境界のコマ)を探します。

早戻し／早送りする .... 【◀】【▶】を押す
再生と一時停止を切り替える .... 【SET】を押す
一時停止中にコマ送りする .... 【◀】【▶】
カットを中止する .... 【MENU】を押す

5. **カットする始めの場面(コマ)を表示したら【▼】を押します。**

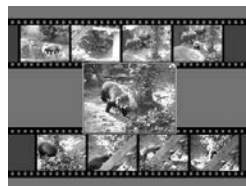
6. **操作4と同様に操作し、カットする終わりの場面が表示されたら【▼】を押します。**

- バー表示の赤くなっている部分がカットされる部分です。

7. **【▲】【▼】で"はい"を選び、【SET】を押します。**

- "処理中です　しばらくお待ちください"と表示され、この表示が消えるとカットは完了します。
- "いいえ"を選ぶとカットを中止します。

動画から静止画を作成する(モーションプリント機能)

本機で撮影した動画から印刷に適した静止画を作ることができます。静止画のレイアウトは9コマと1コマの2種類です。画像サイズは選んだレイアウトによって決まっています。

- 9コマで作成
  (1600×1200pixels)
  - 選んだ場面を最も大きくレイアウトした9コマの静止画が1枚に記録されます。

- 1コマで作成(640×480pixels)

1. **PLAYモードにして【◀】【▶】で素材にしたい動画を表示させます。**

2. **【MENU】を押します。**

3. **“再生機能”タブ→“モーションプリント”と選び、【▶】を押します。**

4. **【▲】【▼】で作成したいレイアウトを選びます。**

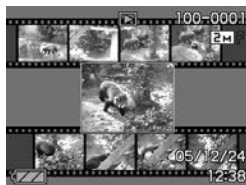
- “キャンセル”を選ぶと作成を中止します。

5. **【◀】【▶】で静止画にしたい場面を探します。**

- 押し続けると早送り、早戻しができます。

6. **最も良いと思うコマを選んで、【SET】を押します。**

- 作成された画像が表示されます。
- “9コマで作成”を選んだ場合は、ここで選んだコマが最も大きく中央にレイアウトされます。

- “1コマで作成”を選んだ場合は、ここで選んだコマが静止画になります。

重要! • このカメラで撮影した画像以外は、モーションプリントできません。

1つの画面に9つの画像を表示する

撮影した内容を9つまで同時に一覧表示させることができます。

1. **PLAYモードにして【ズームボタン】の▦側を押します。**

- 9つの画像が表示され、最後に表示されていた画像が枠が付いた状態で中央に表示されます。
- 画像の総数が9枚以下の場合は、左上から順に画像が表示されます。枠は直前まで【液晶モニター】に表示されていた画像に付きます。
- 【◀】【▶】を押して、枠が画面の左端または右端まで行くと、次の9枚を表示します。
- ムービーファイル(159ページ)には画面の上下に ▪▪▪ の帯が表示されます。
- ボイスレコードファイル(159ページ)には🎤が表示されます。
- このカメラで表示できないデータの場合は?が表示されます。

2.【▲】【▼】【◀】【▶】で画像を見ていきます。

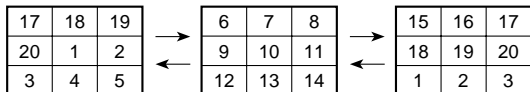
例：画像の総数が20枚で、1番目の画像を最初に表示していた場合

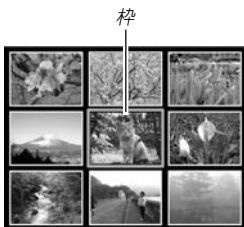
17	18	19
20	1	2
3	4	5

→ ←

6	7	8
9	10	11
12	13	14

→ ←

15	16	17
18	19	20
1	2	3

- 通常表示（1画面表示）で見たいときは、目当ての画像に枠を移動して【▲】【▼】【◀】【▶】以外のボタンを押します。

枠

3.【▲】【▼】【◀】【▶】以外のボタンを押すと、9画面表示は終了します。

カレンダー表示をする

1ヶ月分のカレンダー表示の日付上に、その日に記録した最初のファイルを表示させて、再生したいファイルを素早く探すことができます。

1. PLAYモードにして【ズームボタン】の▦側を2回押します。

枠　年／月

- 年／月の表示は"表示スタイル"の設定（128ページ）に従って表示されます。
- 各日付上にその日に記録した最初のファイルが表示されます。
- カレンダー表示を終えるには【MENU】または【BS】を押します。
- ボイスレコードファイル（159ページ）には 🎙 が表示されます。
- このカメラで表示できないデータの場合は ? が表示されます。

2.【▲】【▼】【◀】【▶】で見たいファイルのある日付に枠を移動し、【SET】を押します。

- その日に記録した最初のファイルが表示されます。

画像を自動的にページめくりさせる(スライドショー)

撮影した内容を自動的に次々とページめくりさせる機能(スライドショー)です。ページめくりの間隔を設定することもできます。

 → →

1. **PLAYモードにして【MENU】を押します。**

2. **“再生機能”タブ→“スライドショー”と選び、【▶】を押します。**

3. **表示させる画像の種類や時間を設定します。**

項目	内容
表示画像	• 全画像 メモリー内のすべてのファイルを表示 • [静止画アイコン] のみ 静止画、音声付静止画のみ表示 • [動画アイコン] のみ 動画のみ表示 • 1枚画像 ファイルを1枚選んで表示 【◀】【▶】で目的の画像を表示させ【SET】を押します。 • お気に入り お気に入りフォルダにあるファイルを表示
時間	再生したい時間を【◀】【▶】で選ぶ(1～5、10、15、30、60分)
間隔	スライドショーの間隔を決める • 【◀】【▶】で“最速”と“1～30秒”の中から設定 • “最速”での動画は、先頭のコマだけ表示
エフェクト	画像の表示方法を5種類の中から選ぶ • パターン1～3 あらかじめ設定された独自の動きをしながら画像を表示 • ランダム パターン1～3をランダムに切り替えて画像を表示 • 切 エフェクト表示をしない

4. **【▲】【▼】で“開始”を選び、【SET】を押します。**

- 指定した条件でスライドショーが始まります。

5. **もう一度【SET】を押すと、スライドショーが終了します。**

- 【MENU】、【▲】【▼】【◀】【▶】以外のボタンを押してもスライドショーは終了します。
- “時間”で設定した時間が経過すると自動的に終了します。

重要!
- 画面の切り替わり中はボタン操作が効かなくなります。画面が静止しているときにボタン操作をしてください。ボタンが効かない場合は、しばらくボタンを押し続けてください。
- スライドショー再生中に【◀】【▶】を押すと、画像を送ることができます。
- 動画は音声とともに1回再生します。
- ボイスレコードファイルと音声付き静止画は音声を1回再生します。
- “表示画像”を“1枚画像”にしたときに動画を選ぶと、動画は設定された時間内で繰り返し再生します。
- スライドショーの“間隔”を“最速”に設定した場合は動画、音声付き静止画、ボイスレコードの音声は再生されません。“最速”以外に設定している場合は何秒に設定しても動画と音声(音声付き静止画、ボイスレコード)は最後まで再生されます。
- 音声再生中に【▼】を押した後、【▲】【▼】を押すことにより、音量を調整することができます。
- スライドショーの“表示画像”を“ のみ”または“お気に入り”に設定した場合、またはスライドショーの“間隔”を“最速”、“1秒”、“2秒”に設定した場合、エフェクトの設定は無効となります。
- パソコンからコピーした画像や、他のデジタルカメラの画像では、設定した間隔より長くなる場合があります。
- 【▲】(DISP)を押すことで、画面の表示内容を切り替えることができます(26ページ)。

USBクレードルにセットしたままスライドショーさせる(フォトスタンド機能)

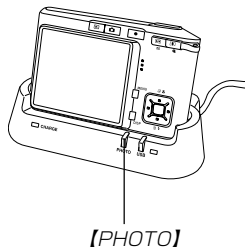
カメラをUSBクレードルにセットしたままスライドショーができます。電池の消耗を気にせずに、フォトスタンドのように画像を見ることができます。フォトスタンド機能はスライドショーの設定にしたがって表示します。あらかじめスライドショーの設定を行ってください(107ページ)。

1. カメラの電源を切り、カメラをUSBクレードルにセットします。

2. USBクレードルの【PHOTO】を押します。

- スライドショーが始まります。
- 【MENU】を押すと、スライドショーの各設定項目が設定できます。スライドショーを再開するには、メニュー表示中に【MENU】を押すか、“開始”を選んで【SET】を押してください。

【PHOTO】

- 音声再生中に【▼】を押した後、【▲】【▼】を押すことにより、音量を調整することができます。

3. 【PHOTO】を押すと、スライドショーが終了します。

重要! • スライドショー中は電池の充電ができません。充電する場合はスライドショーを終了してください。

回転表示させる

画像の回転情報(向き)を画像ファイルに書き込むことができます。再生時には回転情報をもとに画像を表示することができます。縦置きで撮影した画像に使用すると便利です。

1. PLAYモードにして【MENU】を押します。

2. "再生機能"タブ→"回転表示"と選び、【▶】を押します。

• 静止画が【液晶モニター】に表示されているときのみ操作することができます。

3. 【◀】【▶】で回転させたい画像を表示させます。

4. 【▲】【▼】で"回転"を選び、【SET】を押します。

• "回転"を選んだ状態で【SET】を押すたびに、90°ごとに右まわりに回転します。

5. 【MENU】を押して、設定を終了します。

重要!
- メモリープロテクトをかけたファイルを回転させることはできません。メモリープロテクトを解除してから操作してください(119ページ)。
- 他のデジタルカメラで撮影した画像は、回転できない場合があります。
- 次の画像は回転表示できません。
  - 動画、ボイスレコードファイルのアイコン
  - 拡大表示された画像
  - モーションプリント機能により作成した画像
- 下記の場合は回転表示を設定しても、回転させる前の画像が表示されます。
  - 9画面表示内の画像※
  - カレンダー表示中の画像

  ※1枚を表示した場合は回転表示します。

画像ルーレット機能を使う

カメラ内の画像を【液晶モニター】でルーレットのように送りながら1枚の画像を選択していく機能です。最後に選択される画像がどれになるかはわかりません。全く規則性がありません。

1. **電源が切れている状態で、【◀】を押したまま【▶】(PLAY)を押して電源を入れます。**
- 【◀】は【液晶モニター】が表示されるまで押し続けてください。
- 画像ルーレットが開始され、最後に1枚の画像が選択され止まります。

2. **【◀】【▶】を押すと、画像ルーレットを再開します。**

3. **RECモードにするか、【電源ボタン】を押して電源を切ると、画像ルーレット機能は終了します。**

重要!
- 動画やボイスレコードファイルは画像ルーレットの対象となりません。
- 静止画が１枚だけの場合は、画像ルーレット機能に入りません。
- 回転表示させた画像は、回転させる前の画像が表示されます(109ページ)。
- カメラで撮影した画像がルーレットの対象となります。他の画像が入っていると、画像ルーレット機能が動作しない場合があります。
- 画像が停止してから約１分以上、次の画像ルーレットを開始しないと、通常のPLAYモードになります。
- 画像ルーレット機能は“REC／PLAY”の動作設定(132ページ)が“パワーオン”または“パワーオン／オフ”の場合に使用できます。

画像に音声を追加する（アフターレコーディング機能）

アフターレコーディング機能(アフレコ)により、撮影済みの画像に音声を追加することができます。また、音声付き画像(♪が表示される画像)に録音された音声を、記録し直すことができます。

- 録音形式：WAVE/ADPCM記録形式
  音声を録音するためのWindows標準フォーマットです。
  拡張子は“.WAV”となります。
- 録音時間：1画像につき最長約30秒間
- 音声ファイルサイズ：
  約165KB(約5.5KB／秒で30秒間録音時)

1. **PLAYモードにして【◀】【▶】で音声を追加したい画像を表示させます。**

2. **【MENU】を押します。**

3. **“再生機能”タブ→“アフレコ”と選び、【▶】を押します。**

4. **【シャッター】を押して、音声を録音します。**

5. **【シャッター】を押すか約30秒経つと録音を終了し、音声を記録します。**

音声を記録し直す

1. **PLAYモードにして【◀】【▶】で音声を記録し直したい画像を表示させます。**

2. **音声追加(アフレコ)の手順2〜3と同じ操作により“アフレコ”を選び、【▶】を押します。**

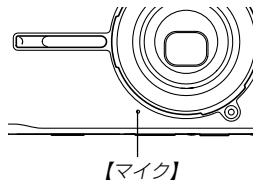
3. **【▲】【▼】で“消去”を選び、【SET】を押します。**

- 音声を消すだけにしたいときは、上の手順3操作後に【MENU】を押してください。

4. **音声追加(アフレコ)の手順4〜5と同じ操作により、音声を録音します。**

- 前に録音していた音声は消え、新しい音声が録音されます。

重要!

- 指などで【マイク】をふさがないようにご注意ください。
- 録音の対象がカメラから遠くに離れると、きれいに録音されません。

- 音声を追加した画像には、♪(音声アイコン)が表示されます。
- メモリー容量が少ないときは、録音できない場合があります。
- 次の画像は音声を追加することはできません。
  - 動画
  - モーションプリント機能により作成した画像
  - メモリープロテクトがかかっている画像
- 音声を記録し直した場合または音声を消去した場合、前に録音していた音声は消え、二度と元に戻すことはできません。音声を記録し直す際は、よく確かめてから行ってください。

音声を再生する

ボイスレコードファイルに録音した音声を再生します。

1. **PLAYモードにして【◀】【▶】で再生したい音声が録音されたボイスレコードファイル（🎙が表示される画像）を表示させます。**

2. **【SET】を押します。**

- ボイスレコードファイルの音声がスピーカーから再生されます。

- 音声再生中に、次のような操作ができます。

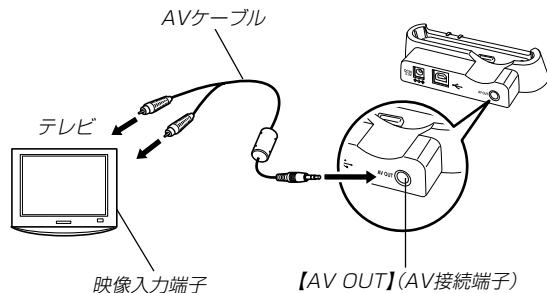
音声を早戻し／早送りする ...... 【◀】【▶】を押し続ける
再生と一時停止を切り替える ... 【SET】を押す
音量を調整する .... 【▼】を押した後、【▲】【▼】を押す
表示のオンオフを切り替える ... 【▲】(DISP)を押す
再生を終了する .... 【MENU】を押す

重要!
- ボイスレコードファイルの音量調整は、再生／一時停止中に可能です。
- 録音時にマークを付けたボイスレコードファイルでは、一時停止中に【◀】【▶】を押すことにより、マークを付けた位置まで再生位置を移動させることができます。続けて【SET】を押すと、マークを付けた位置から再生を始めることができます。

テレビに画像を映し出す

カメラで撮影した内容を、テレビの画面に映すことができます。テレビの画面に映すには、USBクレードルを介して本機と映像入力端子を備えたテレビを付属のAVケーブルで接続します。

1. 付属のAVケーブルでUSBクレードルの【AV OUT】(AV接続端子)とテレビの映像入力端子を接続します。

- AVケーブルの黄色プラグをテレビの映像入力端子(黄色)に、AVケーブルの白色プラグをテレビの音声端子(白色)に接続してください。

2. カメラの電源を切り、カメラをUSBクレードルにセットします。

3. テレビの映像入力を“ビデオ入力”に切り替えます。

4. カメラの【▶】(PLAY)を押してカメラの電源を入れます。以降、本機で再生の操作を行ってください。

重要!
- テレビに画像を映し出すとき、カメラの【●】(REC)／【▶】(PLAY)ボタンの動作は必ず“パワーオン”または“パワーオン／オフ”に設定しておいてください(132ページ)。
- 【液晶モニター】に表示されるアイコンなどは、そのままテレビ画面に表示されます。
- 音声はモノラルとなります。
- テレビに画像を映し出すと、カメラの【液晶モニター】は消灯します。
- USBクレードルの【PHOTO】を押して、テレビの画面でフォトスタンドのように画像を見ることができます(108ページ)。
- テレビ画面の大きさによっては、撮影した画像の一部が表示されない場合があります。
- テレビに画像を映し出したとき、動画や音声の再生音量は最大で出力されます。音量の調整はテレビのボリュームなどで行ってください。

ビデオ出力の方式を変更する

テレビのビデオ方式に合わせて、カメラの出力信号を変更することができます。ビデオ方式には、NTSCとPALの2種類があります。

1. RECモードまたはPLAYモードにして【MENU】を押します。

2. “設定”タブ→“ビデオ出力”と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

NTSC ：日本やアメリカなどで使用している方式です。

PAL ：ヨーロッパなどで使用している方式です。

重要!
- ビデオ方式が異なると、正しく表示されません。
- 本機は、NTSC方式とPAL方式のみに対応しております。その他の方式のテレビ(モニター)では、画像が正しく表示されません。

消去する

ファイルを消去するには次の2つの方法があります。

1ファイル　：1ファイルずつ消去する。
全ファイル：すべてのファイルを消去する。

重要!
- 一度消去してしまった記録内容は、二度と元に戻すことはできません。消去の操作を行う際は、本当に不要なファイルかどうかをよく確かめてから行ってください。特に全ファイル消去の操作では、記録したすべての内容を一度に消去してしまいますので、内容をよく確かめてから操作してください。
- メモリープロテクトのかかったファイルは消去できません。メモリープロテクトを解除してから操作してください(119ページ)。
- すべてのファイルがメモリープロテクト(120ページ)されている状態では、消去は実行できません。
- 音声付き静止画を消去すると、画像ファイルと音声ファイルの両方を消去します。

1ファイルずつ消去する

1. **PLAYモードにして【▼】(🗑 ⚡)を押します。**

2. **【◀】【▶】で消去したいファイルを表示させせます。**

3. **【▲】【▼】で“消去”を選びます。**
- 消去を中止したいときは、“キャンセル”を選んでください。

4. **【SET】を押して、表示しているファイルを消去します。**
- 手順2～4を繰り返して、他のファイルを消去することができます。

5. **【MENU】を押して、消去操作を終了します。**

すべてのファイルを消去する

1. PLAYモードにして【▼】(⚡)を押します。

2. 【▲】【▼】で"全ファイル消去"を選び、【SET】を押します。

3. 【▲】【▼】で"はい"を選びます。

- 消去を中止したいときは、"いいえ"を選んでください。

4. 【SET】を押して、すべてのファイルを消去します。

- すべてのファイルが消去されると、"ファイルがありません"と表示されます。

ファイルの管理について

本機では画像の撮影や再生の他、ファイルの消去防止等の設定ができます。

フォルダの分類について

本機は内蔵メモリーやメモリーカード内に、フォルダを自動的に作成します。

メモリー内のフォルダ／ファイルについて

撮影した画像は連番を名前としたフォルダの中に自動的に記録されます。フォルダは最大900作成されます。フォルダ名は次の通りです。

例：連番100のフォルダ名

100CASIO

連番（3桁）

各フォルダには最大9,999番までのファイルが登録できます。10,000枚以上撮影した場合は、次の連番のフォルダが自動的に作成されます。ファイル名は次の通りです。

例：26番目に記録したファイル名

- このフォルダ名、ファイル名はパソコンで見ることができます。カメラでの表示については25ページを参照してください。
- 保存できるフォルダ数、ファイル数はサイズや画質、またはメモリーカードの容量によって異なります。
- 詳しいフォルダ構造に関しては「メモリー内のフォルダ構造」（159ページ）をご覧ください。

記録したファイルにメモリープロテクト（消去防止）をかける

大事なファイルを誤って消去してしまうことを防止する機能（メモリープロテクト）がついています。メモリープロテクトをかけたファイルは、消去操作（116ページ）により消去することはできません。メモリープロテクトのかけかたには、1ファイル単位、全ファイルの2通りがあります。

重要! • メモリープロテクトをかけたファイルでも、内蔵メモリーのフォーマット操作（133ページ）やメモリーカードのフォーマット操作（137ページ）を行うと、消去されてしまいます。

1ファイル単位でメモリープロテクトをかける

1. PLAYモードにして【MENU】を押します。

2. “再生機能”タブ→“プロテクト”と選び、【▶】を押します。

3. 【◀】【▶】でメモリープロテクトをかけたいファイルを表示させます。

4. 【▲】【▼】で“オン”を選び、【SET】を押します。

- メモリープロテクトがかかり、🔑が画面上に表示されます。
- メモリープロテクトを解除するときは、“オフ”を選んでください。

5. 【MENU】を押して、メモリープロテクトを終了します。

全ファイルにメモリープロテクトをかける

1. PLAYモードにして【MENU】を押します。

2. “再生機能”タブ→“プロテクト”と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で“全ファイル　オン”を選び、【SET】を押します。

- メモリープロテクトを解除するときは、“全ファイル　オフ”を選んでください。

4. 【MENU】を押して、メモリープロテクトを終了します。

お気に入りフォルダを使う

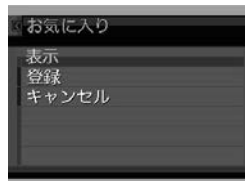
記録した思い出の風景や家族の写真など好きな静止画を「記録フォルダ」（159ページ）から内蔵メモリーの「お気に入りフォルダ（“FAVORITE”フォルダ）」（159ページ）にコピーすることができます。通常の再生では表示されないので、プライベートな画像を持ち歩くのに便利です。メモリーカードを入れ替えても画像は消えませんので、いつでも見ることができます。

お気に入りフォルダにファイルをコピー（登録）する

1. PLAYモードにして【MENU】を押します。

2. “再生機能”タブ→“お気に入り”と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で“登録”を選び、【SET】を押します。

- 内蔵メモリーまたはメモリーカード内のファイル名が表示されます。

4. **【◀】【▶】でお気に入りフォルダに登録したいファイルを選びます。**

5. **【▲】【▼】で“登録”を選び、【SET】を押します。**

- 内蔵メモリー内のお気に入りフォルダにファイルを登録します。

6. **設定を終えるには【▲】【▼】で“キャンセル”を選び、【SET】を押します。**

参考
- 画像は、320×240pixelsのQVGAサイズにリサイズしてコピーされます。
- 登録したファイルには、連番(0001～9999)がファイル名として自動的に付けられます。ただし、登録できるファイル数は画質等により異なり、内蔵メモリーの空き容量の範囲内となります。

重要!
- お気に入りフォルダにリサイズしてコピーされたファイルは、元の画像サイズに戻すことはできません。
- お気に入りフォルダに登録されているファイルは、メモリーカードにコピーすることはできません。

お気に入りフォルダのファイルを表示する

1. **PLAYモードにして【MENU】を押します。**

2. **“再生機能”タブ→“お気に入り”と選び、【▶】を押します。**

3. **【▲】【▼】で“表示”を選び、【SET】を押します。**

- お気に入りフォルダにファイルが登録されていないときは、“お気に入りのファイルがありません”と表示されます。

4. **【◀】【▶】でお気に入りフォルダに登録したファイルを見ていきます。**

ファイル名

お気に入りフォルダアイコン

5. **表示を終えるには【MENU】を2回押します。**

重要! • お気に入りフォルダ（"FAVORITEフォルダ"）は内蔵メモリーにのみ作成されるため、パソコン上でお気に入りフォルダのファイルを表示するときは、カメラからメモリーカードを取り出した状態でUSBクレードルにセットして、USB通信を行ってください（137、148ページ）。

お気に入りフォルダから1ファイルずつ消去する

1. PLAYモードにして【MENU】を押します。

2. "再生機能"タブ→"お気に入り"と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で"表示"を選び、【SET】を押します。

4. 【▼】（🗑 ⚡）を押します。

5. 【◀】【▶】でお気に入りフォルダから消去したいファイルを選びます。

6. 【▲】【▼】で"消去"を選び、【SET】を押します。
- 消去を中止したいときは"キャンセル"を選んでください。

7. 消去を終えるには【▲】【▼】で"キャンセル"を選び、【SET】を押します。

重要! • お気に入りフォルダのファイルは、116ページの消去操作により消去することはできません。ただし、フォーマット操作（133ページ）を行うと、消去されてしまいます。

お気に入りフォルダの全ファイルを消去する

1. PLAYモードにして【MENU】を押します。
2. “再生機能”タブ→“お気に入り”と選び、【▶】を押します。
3. 【▲】【▼】で“表示”を選び、【SET】を押します。
4. 【▼】（🗑 ⚡）を押します。
5. 【▲】【▼】で“全ファイル消去”を選び、【SET】を押します。

重要! • お気に入りフォルダのファイルは、116ページの消去操作により消去することはできません。ただし、フォーマット操作（133ページ）を行うと、消去されてしまいます。

その他の設定について

カメラの音を設定する

4種類の音(起動音／ハーフシャッター音／シャッター音／操作音)とその音量を設定することができます。

4種類の音を設定する

1. 【MENU】を押します。

2. “設定”タブ→“操作音”と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で設定したい音を選び、【▶】を押します。

4. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

サウンド1～5 ：内蔵されたサンプル音が鳴ります。
切 ：音は鳴りません。

操作音量を設定する

1. 【MENU】を押します。

2. “設定”タブ→“操作音”と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で“ 操作音”を選びます。

4. 【◀】【▶】で再生したい音量を選び、【SET】を押します。

- 音量は「0」(小)～「7」(大)の8段階の間で設定できます。
- 音量を「0」に設定すると、音は鳴りません。

重要! • 操作音の設定はビデオ出力時(114ページ)音量に反映されます。

再生音量を設定する

操作音とは別に、動画や音声付き静止画の音量を設定することができます。

1. 【MENU】を押します。

2. “設定”タブ→“操作音”と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で“🔊 再生音”を選びます。

4. 【◀】【▶】で再生したい音量を選び、【SET】を押します。

- 音量は「0」(小)～「7」(大)の8段階の間で設定できます。
- 音量を「0」に設定すると、音は鳴りません。

重要! • 再生音の設定はビデオ出力時(114ページ)音量に反映されません。

起動画面のオン／オフを切り替える

RECモードで電源を入れたとき、カメラが記録している画像を起動画面として、【液晶モニター】に表示するかどうかを切り替えることができます。

1. 【MENU】を押します。

2. “設定”タブ→“起動画面”と選び、【▶】を押します。

3. 【◀】【▶】で設定したい起動画面を表示させます。

4. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

入： 設定時に表示していた画像を起動画面として表示します。

切： 起動画面は表示しません。

参考
- 設定可能な画像は、下記の通りです。
  - 内蔵されている専用画像
  - 静止画
  - 音声付き静止画（音声は再生されません）
- 起動画面は、1つだけ登録できます。起動画面を別の撮影画像に変更すると、メモリー内の画像は上書きされますので、変更する前の撮影画像に戻すときは、変更する前の画像データが必要となります。
- 登録した起動画像は、内蔵メモリーのフォーマット操作（133ページ）を行うと消去されます。

ファイルの連番のカウント方法を切り替える

撮影時にファイル（画像データ）に付く連番（118ページ）のカウント方法を切り替えることができます。

1. **【MENU】を押します。**

2. **"設定"タブ→"ファイルNo."と選び、【▶】を押します。**

3. **【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。**

メモリする：今まで撮影したファイルの連番を記憶します。ファイルを消去したり、メモリーカードを交換しても、記憶した連番からファイル名を付けます。

メモリしない：ファイルをすべて消去したり、メモリーカードを交換すると、ファイルの連番を継続せずに、0001番からファイル名を始めます。

日時を設定し直す

日時を設定し直したいときは、ホームタイムの都市を設定してから、日時の設定を行います。ホームタイムの都市の変更が必要のない方は、「ホームタイムの日時を設定し直す」の操作のみで日時の設定を行うことができます。

重要! • 日時の設定を行う前にホームタイムを自分の住んでいる地域に正しく設定しないと、ワールドタイム(128ページ)の日時が正しく表示されませんのでご注意ください。

ホームタイムの都市を設定し直す

1. **【MENU】を押します。**

2. **“設定”タブ→“ワールドタイム”と選び、【▶】を押します。**
- 現在設定されている内容が表示されます。

3. **【▲】【▼】で“自宅”を選び、【▶】を押します。**

4. **【▲】【▼】で“都市”を選び、【▶】を押します。**

5. **【▲】【▼】【◀】【▶】で自宅の地域を選び、【SET】を押します。**

6. **【▲】【▼】で自宅の都市を選び、【SET】を押します。**
- 日本で使う場合は“Tokyo”を選んでください。

7. **【SET】を押して、設定を完了します。**

ホームタイムの日時を設定し直す

1. **【MENU】を押します。**

2. **“設定”タブ→“日時設定”と選び、【▶】を押します。**

3. **日付と時刻を合わせます。**

【▲】【▼】：カーソル(選択枠)の部分の数字を変えます。
【◀】【▶】：カーソル(選択枠)を移動します。
【BS】　：12時間表示と24時間表示の切り替えができます。

4. **【SET】を押して、設定を終了します。**

日付の表示スタイルを切り替える

画面に表示される日付の表示スタイルを3通りの中から選ぶことができます。

1. 【MENU】を押します。

2. "設定"タブ→"表示スタイル"と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

例）2005年12月24日
年／月／日：05/12/24
日／月／年：24/12/05
月／日／年：12/24/05

ワールドタイムを表示する

購入時に設定した自宅の日時とは別に、海外旅行などで訪問する都市の日時を1都市選んで表示することができます。世界162都市（32タイムゾーン）に対応しています。

ワールドタイムを表示させる

1. 【MENU】を押します。

2. "設定"タブ→"ワールドタイム"と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で"訪問先"を選びます。

自宅　：購入時に設定した自宅の日時を表示します。
訪問先：訪問先として設定した都市の日時を表示します。

4. 【SET】を押して、設定を終了します。

ワールドタイムを設定する

1. 【MENU】を押します。

2. “設定”タブ→“ワールドタイム”と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で“訪問先”を選び、【▶】を押します。

4. 【▲】【▼】で“都市”を選び、【▶】を押します。

- サマータイムを設定するときは“サマータイム”を選び、“入”、“切”を設定します。
- サマータイムとは、夏の一定期間、日照時間を有効に使うため、通常の時刻から1時間進める夏時間制度のことです。
- サマータイムの採用時期は国や地域によって異なります（日本では採用されていません）。

5. 【▲】【▼】【◀】【▶】で訪問先の地域を選び、【SET】を押します。

6. 【▲】【▼】で訪問先の都市を選び、【SET】を押します。

7. 【SET】を押して、設定を終了します。

撮影画像の日時情報を修正する

すでに撮影した画像の日時情報(撮影日／撮影時刻)をカメラで修正することができます。次のようなときに便利です。

- 日時設定(38ページ)をしないで、誤った日時のままで撮影してしまったとき
- 旅行中にワールドタイム(128ページ)の訪問先を変更しないで、撮影してしまったとき

1. PLAYモードにして【◀】【▶】で日時を修正したい画像を表示させます。

2. 【MENU】を押します。

3. "再生機能"タブ→"日時編集"と選び、【▶】を押します。

4. 日付と時刻を修正します。

【▲】【▼】：カーソル(選択枠)の部分の数字を変えます。
【◀】【▶】：カーソル(選択枠)を移動します。
【BS】　：12時間表示と24時間表示の切り替えができます。

5. 【SET】を押して、修正を終了します。

- 修正後は、画面を表示して、日時が正しく修正されたかどうかを確認してください。

重要!
- 次のファイルは日付を修正できません。
  - 動画、ボイスレコード
  - モーションプリント機能により作成した画像
- メモリープロテクトのかかったファイルは、日時を修正できません。メモリープロテクトを解除してから、日時を修正してください。
- 入力できる日付は、1980年1月1日～2049年12月31日となります。
- 日付修正したデータは、カレンダー表示(106ページ)では反映されません。修正前のファイル日付で表示されます。

表示言語を切り替える

画面のメッセージを7言語の中から選ぶことができます。

1. 【MENU】を押します。

2. "設定"タブ→"Language"と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】【◀】【▶】で設定内容を選び、【SET】を押します。

液晶モニターの明るさを切り替える

液晶モニターの明るさを切り替えることができます。

1. 【MENU】を押します。

2. "設定"タブ→"液晶設定"と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で設定値を選び、【SET】を押します。

オート：周囲の環境を判断して、自動的に液晶の明るさを切り替えます。液晶の明るさを固定したい場合は"明"または"標準"に設定してください。

明：屋外などの明るい場所で使用する場合の設定です。「標準」に比べて液晶が明るくなり、見やすくなります。反面、消費電力が大きくなります。

標準：屋内などの明るすぎない場所で使用する場合の設定です。

USB端子の通信方法を切り替える

パソコンやプリンタなどの外部機器と接続するときの、USB端子の通信方法を切り替えることができます。接続する機器にあわせて切り替えてください。

1. **【MENU】を押します。**

2. **"設定"タブ→"USB"と選び、【▶】を押します。**

3. **【▲】【▼】で使用する機器にあわせて設定を選び、【SET】を押します。**

- Mass Storage (USB DIRECT - PRINT):

  パソコンやUSB DIRECT - PRINT対応(143ページ)のプリンタを接続する場合、こちらを選びます。パソコンにカメラを外部記憶装置として認識させる方法です。通常、パソコンへの画像の保存の操作時(付属のソフト「Photo Loader」使用時)はこちらを選んでください。

- PTP (PictBridge):

  PictBridge対応(143ページ)のプリンタを接続する場合、こちらを選びます。画像データを外部接続機器に簡単に転送するための接続方法です。

【📷】(REC)/【▶】(PLAY)の動作を設定する

【📷】(REC)や【▶】(PLAY)を押しても電源が入らないようにしたり、【📷】(REC)や【▶】(PLAY)を押して電源を切ることができるように設定することができます。

1. **【MENU】を押します。**

2. **"設定"タブ→"REC/PLAY"と選び、【▶】を押します。**

3. **【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。**

パワーオン	:	【📷】(REC)や【▶】(PLAY)を押すと、電源が入ります。
パワーオン/オフ	:	【📷】(REC)や【▶】(PLAY)を押して、電源を入れたり切ったりできます。
切	:	【📷】(REC)や【▶】(PLAY)を押しても、電源は入りません。

重要!
- “パワーオン/オフ”に設定しているときは、RECモードで【📷】(REC)を押した場合とPLAYモードで【▶】(PLAY)を押した場合に電源が切れます。
- RECモードで【▶】(PLAY)を押したときはPLAYモードに、PLAYモードで【📷】(REC)を押したときはRECモードに切り替わります。
- テレビに画像を映し出す場合は、“切”以外を設定する必要があります。

参考
- 初期設定は、“パワーオン”となります。

内蔵メモリーをフォーマットする

内蔵メモリーをフォーマットすると、内蔵メモリーの内容がすべて消去されます。

重要!
- 内蔵メモリーをフォーマットすると、二度とデータを元に戻すことはできません。フォーマット操作を行う際は、本当にフォーマットしてもよいかどうかをよく確かめてから行ってください。
- 次の画像も同時に消去されます。
  - メモリープロテクトされた画像
  - お気に入りフォルダの画像
  - ベストショットモードでカスタム登録した内容
  - 起動画面に設定した画像
- フォーマット操作は、充分に充電された電池を使用してください。フォーマット中に電源が切れると、正しくフォーマットされず、カメラが正常に動作しなくなる恐れがあります。
- フォーマット中に【電池カバー】を開けたりすることは、絶対におやめください。カメラが正常に動作しなくなる恐れがあります。

1. 本機にメモリーカードが入っていないことを確認します。

- メモリーカードが入っている場合は、取り出してください（137ページ）。

2. 【MENU】を押します。

3. “設定”タブ→“フォーマット”と選び、【▶】を押します。

4. 【▲】【▼】で“フォーマット”を選び、【SET】を押します。

- フォーマットを実行しないときは、“キャンセル”を選んでください。
- フォーマットが完了すると、PLAYモードの場合は“ファイルがありません”と表示されます。

メモリーカードを使用する

本機は、市販のメモリーカード（SDメモリーカードまたはMMC〈マルチメディアカード〉）を使用することにより、記録用のメモリーを拡張することができます。また、内蔵メモリーからメモリーカードに、またはメモリーカードから内蔵メモリーにファイルをコピーすることもできます。

- 撮影画像などのファイルが記録されるメモリーは、次のように自動的に切り替わります。

メモリーカードを入れていないときは	→	内蔵メモリーに記録されます。
メモリーカードを入れているときは	→	メモリーカードに記録されます。

- メモリーカードを入れた状態で内蔵メモリーを使用することはできません。

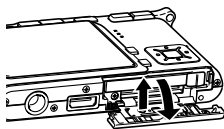
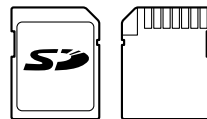
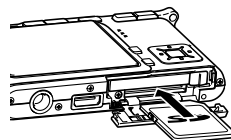
重要!

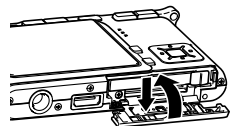
- メモリーカードは必ずSDメモリーカードまたはMMC（マルチメディアカード）を使用してください。他のメモリーカードをお使いの場合は動作保証できません。
また、動作確認を行ったメモリーカードについては、カシオデジタルカメラオフィシャルWebサイト（http://dc.casio.jp/）をご覧ください。
- メモリーカードを使う際はメモリーカードの取扱説明書もあわせてお読みください。
- カードの種類によって処理速度が遅くなる場合があります。特に、高品位（HQ）の動画は正常に記録できない場合があります。また、使用するメモリーカードによっては、記録時間がかかるため、動画撮影時にコマ落ちする場合があります。このとき、［カメラ］と［●REC］が点滅します。メモリーカードは、最大転送速度が10MB/s以上のSDメモリーカードの使用をおすすめします。
- SDメモリーカードには、書き込み禁止スイッチがあります。誤って消去する不安があるときは使用してください。ただし、撮影・フォーマット・消去時は解除しないと各操作が実行できません。
- 静電気、電気的ノイズ等により記録したデータが消失または破壊することがありますので、大切なデータは別のメディア（CD-R、CD-RW、MOディスク、ハードディスクなど）にバックアップして控えをとることをおすすめします。

メモリーカードを使う

重要!
- メモリーカードの抜き差しは、電源を切った状態で行ってください。
- カードには、表裏、前後の方向があります。無理に入れようとすると破損の恐れがあります。

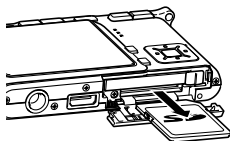
メモリーカードを入れる

1. 本体底面の【電池カバー】を押しながら、矢印の方向にスライドさせて開きます。

2. メモリーカードの表面を上（【液晶モニター】側）にして、【メモリーカード挿入口】に「カチッ」と音がするまでしっかり押し込みます。

表面　　裏面

3. 【電池カバー】を図のように矢印の方向に押しつけながら、スライドして閉めます。

メモリーカードを交換する

1. メモリーカードを押すと、メモリーカードが少し出てきます。

2. メモリーカードを引き抜きます。

3. 別のメモリーカードを入れます。

重要!
- 故障の原因となりますので、絶対に【メモリーカード挿入口】にはSDメモリーカードおよびMMC(マルチメディアカード)以外のものは入れないでください。
- 万一異物や水がメモリーカード挿入部に入り込んだ場合は、本機の電源を切り、電池を抜いて、販売店またはカシオテクノ修理相談窓口にご連絡ください(200ページ)。
- 【動作確認用ランプ】が緑色に点滅している間にメモリーカードを取り出さないでください。撮影された画像がメモリーカードに記録されなかったり、メモリーカードを破壊する恐れがあります。

メモリーカードをフォーマットする

メモリーカードをフォーマットすると、メモリーカードの内容がすべて消去されます。

重要!
- メモリーカードは必ずカメラでフォーマットしてください。パソコンでフォーマットすると処理速度が著しく遅くなります。またSDメモリーカードの場合、SD規格非準拠となり、互換性・性能等で問題が生じる場合があります。
- メモリーカードをフォーマットすると、二度とデータを元に戻すことはできません。フォーマット操作を行う際は、本当にフォーマットしてもよいかどうかをよく確かめてから行ってください。
- ファイルデータにメモリープロテクト(119ページ)をかけていても、メモリーカードをフォーマットすると、すべてのデータが消去されます。

1. 本機にメモリーカードを入れます。

2. 電源を入れ、【MENU】を押します。

3. “設定”タブ→“フォーマット”と選び、【▶】を押します。

4. 【▲】【▼】で“フォーマット”を選び、【SET】を押します。
- フォーマットを実行しないときは、“キャンセル”を選んでください。
- フォーマットが完了すると、PLAYモードの場合は“ファイルがありません”と表示されます。

■ メモリーカードのご注意

- 万一メモリーカードの異常が発生した場合は、メモリーカードのフォーマット操作で復帰できますが、外出先などでこの操作を行えない場合に備えて複数枚のメモリーカードを持たれることをおすすめします。
- 異常と思われる画像を撮影したり、新たにメモリーカードをご購入された場合は、一度フォーマット(初期化)してお使いいただくことをおすすめいたします。
- SDメモリーカードは撮影／消去を繰り返すとデータ処理能力が落ちてきますので、定期的にフォーマットすることをおすすめします。
- フォーマット操作は、フル充電状態の電池を使用してください。フォーマット中に電源が切れると、正しくフォーマットされず、メモリーカードが正常に動作しなくなる恐れがあります。
- フォーマット中に【電池カバー】を開けたりすることは、絶対におやめください。メモリーカードが正常に動作しなくなる恐れがあります。

ファイルをコピーする

内蔵メモリーとメモリーカードの間で、ファイルをコピーすることができます。

重要!

- コピーできるのはカメラで撮影した静止画、動画、音声付き静止画、ボイスレコードファイルだけです。その他のファイルはコピーできません。
- お気に入りフォルダに登録されているファイルは、コピーできません。
- 音声付き画像は画像ファイルと音声ファイルの両方をコピーします。

内蔵メモリーからメモリーカードにファイルをコピーする

すべての画像がまとめてコピーされます。

1. **本機にメモリーカードを入れます。**

2. **電源を入れ、PLAYモードにして【MENU】を押します。**

3. **“再生機能”タブ→“コピー”と選び、【▶】を押します。**

4. **【▲】【▼】で“内蔵→カード”を選び、【SET】を押します。**

- コピーが始まり、“処理中です　しばらくお待ちください”と表示されます。
- コピーが終わると、コピーしたフォルダの一番最後にあるファイルを表示します。

重要! • すべてのファイルをコピーできるだけの容量がメモリーカードに残っていない場合は、コピーできません。

メモリーカードから内蔵メモリーにファイルをコピーする

ファイルは１枚ずつコピーします。一度にまとめてコピーすることはできません。

1. **「内蔵メモリーからメモリーカードにファイルをコピーする」の手順1～3と同じ操作を行います。**

2. **【▲】【▼】で“カード→内蔵”を選び、【SET】を押します。**

3. **【◀】【▶】でコピーしたいファイルを選びます。**

4. **【▲】【▼】で“コピー”を選び、【SET】を押します。**

- コピーが始まり、“処理中です　しばらくお待ちください”と表示されます。
- コピーが終わると、コピー前に表示していたファイルに戻ります。
- 手順3～4を繰り返して、他の画像をコピーすることができます。

5. **【MENU】を押して、コピーの操作を終了します。**

参考 • ファイルは内蔵メモリー内の一番大きい番号のフォルダにコピーされます。

プリント(印刷)する

プリント(印刷)するには

デジタルカメラで撮影した画像は、さまざまな方法でプリント(印刷)することができます。プリント方法は大きく分けて下記の3つになります。ご使用されている環境にあわせてプリントしてください。

■ お店でプリントする場合

DPOF 機能を利用することで、希望の画像を希望の枚数でプリントを依頼することができます。

→「DPOF 機能について」(141ページ)

参考

- お店でプリントをする場合、DPOF機能を利用できない場合や、他の方法でプリントを受け付けている場合があります。その際は、店頭のサービスに従ってプリントをご依頼ください。

■ カードスロット付/デジタルカメラ接続対応プリンタでプリントする場合

DPOF 機能を利用することで、希望の画像を希望の枚数でプリントすることができます。また、PictBridgeまたはUSB DIRECT - PRINT に対応しているプリンタでは、カメラを直接プリンタに接続してプリントすることができます。

→「DPOF 機能について」(141ページ)
→「PictBridge/USB DIRECT - PRINT について」(143ページ)

■ パソコンソフトを使用してプリントする場合

Windows では、パソコンにカメラを接続して、付属のソフト(Photo LoaderとPhotohands)をインストールすることで、画像の取り込み、管理、プリントをすることができます。

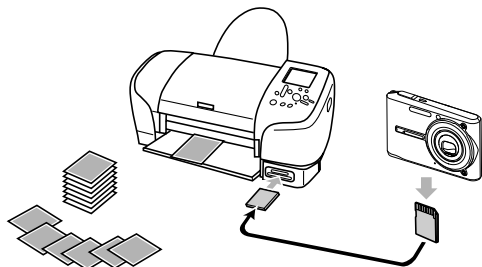
→お持ちのパソコンがWindowsの場合(148、161ページ)

Macintosh では、パソコンにカメラを接続して、付属のソフト(Photo Loader)をインストールすることで、画像の取り込み、管理ができます。ただし、プリントはできません。市販のプリント用ソフトをご利用ください。

→お持ちのパソコンがMacintoshの場合(154、172ページ)

DPOF機能について

DPOF(Digital Print Order Format)とはデジタルカメラで撮影した中からプリントしたい画像や枚数などの設定情報をメモリーカードなどの記録媒体に記録するためのフォーマットです。DPOF対応の家庭用プリンタやサービスラボでプリントすることができます。
本機では撮影された画像ファイル名などを意識することなく、【液晶モニター】で確認しながらプリントしたい画像の設定を行うことができます。

- 設定可能な内容
  画像／枚数／日付

1画像単位で印刷設定する

1. PLAYモードにして【MENU】を押します。

2. “再生機能”タブ→“DPOF”と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で“選択画像”を選び、【▶】を押します。

4. 【◀】【▶】で印刷したい画像を表示させせます。

5. 【▲】【▼】で印刷する枚数を決めます。

- 印刷設定できる枚数は99枚までです。印刷したくない場合は“00”にしてください。

6. **日付を印刷したい場合は、【BS】を押して“あり”を表示させせます。**

- “あり”は日付印刷が設定されたことを表します。
- 日付が不要なときは、【BS】を押して“なし”を表示させてください。
- 他の画像を印刷する場合は、操作4〜6を繰り返してください。

7. **【SET】を押します。**

- 印刷する枚数が設定されます。

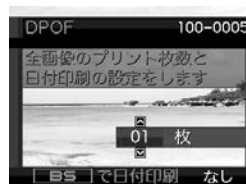
全画像に印刷設定する

1. **PLAYモードにして【MENU】を押します。**

2. **“再生機能”タブ→“DPOF”と選び、【▶】を押します。**

3. **【▲】【▼】で“全画像”を選び、【▶】を押します。**

4. **【▲】【▼】で印刷する枚数を決めます。**

- 印刷設定できる枚数は99枚までです。印刷したくない場合は“00”にしてください。

5. **日付を印刷したい場合は、【BS】を押して“あり”を表示させせます。**

- “あり”は日付印刷が設定されたことを表します。
- 日付が不要なときは、【BS】を押して“なし”を表示させてください。

6. **【SET】を押します。**

- 印刷する枚数が設定されます。

重要!
- 印刷が完了してもDPOFの設定は自動的に解除されません。次回印刷時にも前回設定した画像がある場合、同じ画像が印刷されてしまいます。以前印刷した画像を印刷しない場合は、一度「全画像に印刷設定する」(142ページ)の操作で、全画像印刷の枚数設定を“00”にしてから、あらためて印刷枚数の設定をしてください。
- お店にプリントを注文する場合は、注文時に「DPOFでプリントする画像、枚数、日付を設定済みです」とお伝えください。お伝えいただかないと、設定された内容(画像、枚数、日付)が反映されず、すべての画像が印刷されたり、日付が印刷されなかったりしてしまうことがあります。
- プリントをするお店によってはDPOF機能に対応していない場合がありますので、あらかじめご確認ください。
- プリンタによっては日付の設定が無効になったり、DPOFに対応していない場合がありますので、プリンタの取扱説明書に従って操作してください。

PictBridge／USB DIRECT - PRINTについて

本製品はPictBridgeまたは、USB DIRECT - PRINT対応プリンタに直接接続し、デジタルカメラのモニター上で写真選択や印刷開始を指示することができます。DPOF機能(141ページ)で指定した画像も印刷することができます。

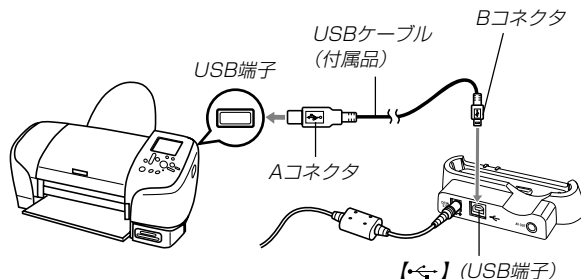
本製品は下記の規格に対応しています。
- PictBridge(ピクトブリッジ):
  カメラ映像機器工業会(CIPA)制定の規格です。
- USB DIRECT - PRINT:
  セイコーエプソン株式会社提唱の規格です。

1. 【MENU】を押します。

2. "設定"タブ→"USB"と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で使用するプリンタにあわせて設定を選び、【SET】を押します。

- Mass Storage (USB DIRECT - PRINT)：
  ご使用のプリンタがUSB DIRECT - PRINT対応の場合、こちらを選びます。パソコンにカメラを外部記憶装置として認識させる方法です。通常、パソコンへの画像の保存の操作時はこちらを選んでください。
- PTP（PictBridge）：
  ご使用のプリンタがPictBridge対応の場合、こちらを選びます。画像データを外部接続機器に簡単に転送するための接続方法です。

4. 付属のUSBケーブルでUSBクレードルとプリンタのUSB端子を接続します。

- USBクレードルにはACアダプターも接続しておいてください。
- ACアダプターを使用せずに、カメラの電池のみで使用して接続する場合は、充分に充電された電池を使用してください。
- USBクレードルに付属のAVケーブルが接続されていると、カメラの【液晶モニター】は表示されませんので、必ずAVケーブルはUSBクレードルからはずしてください。

5. カメラの電源を切り、カメラをUSBクレードルにセットします。

6. プリンタの電源を入れます。

7. プリンタの印刷用紙をセットします。

8. USBクレードルの【USB】ボタンを押します。

- カメラにプリントメニュー画面が表示されます。

9. 【▲】【▼】で "用紙サイズ"を選び、【▶】を押します。

10. 【▲】【▼】で プリントする用紙サイズを選び、【SET】を押します。

- 用紙サイズは次の通りです。
  L判、2L判、はがき、A4、Letter、プリンタで設定
- "プリンタで設定"を選ぶと、プリンタ側で設定した用紙サイズでプリントされます。
- 用紙について設定できる内容は、接続したプリンタによって異なります。詳しくはプリンタの取扱説明書をご覧ください。

11. 【▲】【▼】でプリントの方法を指定します。

- 1枚ずつプリントする場合：
  "1枚プリント"を選び、【SET】を押します。続けて【◀】【▶】でプリントしたい画像を選びます。
- 複数の画像やすべての画像をプリントする場合：
  "DPOFプリント"を選び、【SET】を押します。DPOF機能で設定した画像が印刷されます。設定方法については141ページをご覧ください。
- 【BS】を押すことで、日付印刷の"あり"／"なし"を切り替えることができます。"あり"を表示させると、日付がプリントされます。

12. 【▲】【▼】で"プリント"を選び、【SET】を押します。

- プリントを開始すると"処理中です　しばらくお待ちください"と【液晶モニター】に表示されます。しばらくすると表示が消えますが、印刷は終了していません。カメラの何かボタンを押すことで、プリントの状況を【液晶モニター】に再表示させることができます。
- プリントが終了すると、プリントメニュー画面が表示されます。
- "1枚プリント"で別の画像を印刷する場合は、手順11から同様の操作を行ってください。

13. **プリントが終了したらUSBクレードルの【USB】ボタンを押して、カメラの電源を切ります。**

日付プリントについて

本機で日付設定をすると、以下のような方法で画像に撮影時の日付を入れてプリントすることができます。

- 本機のＤＰＯＦ機能設定時に、日付印刷を設定してください（142ページ）。
  - −プリンタによっては日付の設定が無効になったり、DPOF機能に対応していない場合がありますので、プリンタの取扱説明書に従って操作してください。
  - −プリントをするお店によってはDPOF機能に対応していない場合がありますので、あらかじめご確認ください。
- 付属のソフト「Photohands」で日付印刷を設定してください。
  - −Photohandsの取扱説明書（PDFファイル）の27ページをお読みください（PDFファイルは付属のCD-ROM内に収録されています）。
- お店にプリントを注文する場合は、日付プリントすることを指定してください。
  - −プリントするお店によっては日付をプリントできない場合がありますので、あらかじめご確認ください。

■ プリントについてのご注意

- 印刷品位や用紙の設定についてはプリンタの取扱説明書をご覧ください。
- PictBridgeやUSB DIRECT-PRINT対応プリンタの機種名やプリンタのバージョンアップ等については、プリンタメーカーへお問い合わせください。
- 印刷中はケーブルを抜いたり、カメラやUSBクレードルの操作を行わないでください。プリンタがエラーを起すことがあります。

PRINT Image MatchingⅢについて

本製品はPRINT Image MatchingⅢに対応しています。PRINT Image MatchingⅢ対応プリンタでの出力及び対応ソフトウエアでの画像処理において、撮影時の状況や撮影者の意図を忠実に反映させることが可能です。

PRINT Image Matching及びPRINT Image MatchingⅢに関する著作権はセイコーエプソン株式会社が所有しています。

Exif Printについて

Exif Print (Exif2.2) は、対応プリンタをお使いの場合に画像ファイルに記録された撮影情報を印刷出力に反映させることを可能にします。

- Exif Print対応プリンタの機種名やプリンタのバージョンアップ等については、各プリンタメーカーへお問い合わせください。

パソコンでファイルを見る

このカメラは、USBクレードルを介してUSB端子を備えたパソコンと接続して、パソコンでファイルを見たり、保存することができます。USB接続を行うには、使用するパソコンによっては付属のCD-ROM（カシオデジタルカメラアプリケーションソフトウェア）からUSBドライバをパソコンにインストールする必要があります。

- お手持ちのパソコンがMacintoshの場合は、154ページからご覧ください。

お持ちのパソコンがWindowsの場合

パソコンにファイルを取り込むためには次の手順で操作します。

1. Windows 98SE/98を使っている場合はUSBドライバをパソコンにインストールする。
   - 初めて使用するときだけ必要です。
   - Windows XP/2000/Meの場合はインストールの必要はありません。

2. カメラとパソコンをUSBクレードルで接続する。

3. 画像ファイルを見る／コピーする。

具体的な操作方法は以降に記載されていますので、手順に従って操作してください。また、接続するパソコンの取扱説明書もあわせてお読みください。

重要!
- ACアダプターを使用しないで、パソコンとの通信を行った場合、電池が消耗していると、通信中にカメラの電源が切れる可能性があります。パソコンとの通信時には、専用のACアダプターを使用することをおすすめいたします。
- ACアダプターを使用せずに、カメラの電池のみで使用して接続する場合は、充分に充電された電池を使用してください。
- 内蔵メモリーに保存されているファイルデータをパソコンに転送する場合は、カメラからメモリーカードを取り出した状態でUSBクレードルにセットしてください。
- このカメラは、USB2.0 Hi-Speedに対応しています。USB1.1対応のパソコンでもご使用できますが、USB2.0 Hi-Speedに対応したパソコンに接続することにより、より高速な転送が行えます。ただし、機器の構成やUSBハブのご使用等により、転送速度が遅くなったり、正常に動作しない場合があります。

USBドライバをインストールする前に、カメラをパソコンに接続しないでください。パソコンがカメラを認識しなくなります。

- Windows 98SE/98をお使いの場合は、USBドライバのインストールが必要です。この場合、インストール前にカメラをパソコンに接続しないでください。
- Windows XP/2000/Meをお使いの場合は、USBドライバのインストールは不要です。

1. **Windows 98SE/98をお使いの場合は、操作2へ進んでください。Windows XP/2000/Meをご使用の場合は、USBドライバをインストールする必要はありませんので、操作5に進んでください。**

- この操作手順はWindows98をもとに制作されています。

2. **付属のCD-ROM(カシオデジタルカメラアプリケーションソフトウェア)をパソコンのCD-ROMドライブにセットします。**

- 日本語のMENU画面がパソコンに表示されます。
- MENU上の「English」をクリックすると英語のMENU画面が表示され、英語版のソフトをインストールすることができますが、通常は日本語版のソフトのみインストールしてください。

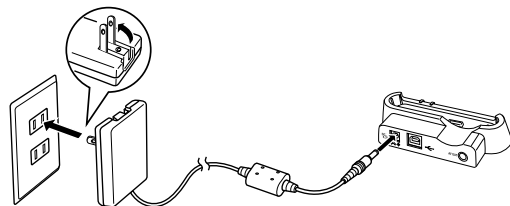
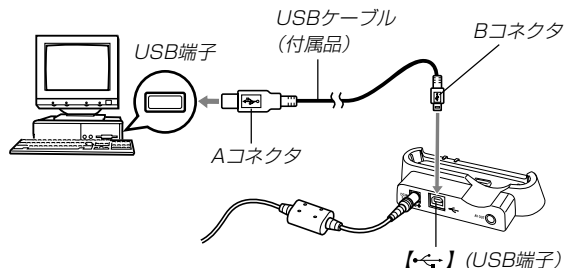
3. **「USB driver B」の「インストール」をクリックします。**

- インストールが開始されます。
- ダイアログの指示に従って「次へ」を選択してください。

4. **セットアップ完了の画面が表示されると、ご使用のOSによってはパソコンの再起動を要求されることがあります。その場合は、再起動させます。**

- この操作が終わったら、「終了」をクリックしてメニューを終了してからCD-ROMを取り出してください。
- パソコンが自動的に再起動した場合は、再起動後にCD-ROMのメニューが表示される場合があります。「終了」をクリックしてメニューを終了してからCD-ROMを取り出してください。

5. **付属のACアダプターをUSBクレードルの【DC IN 5.3V】と家庭用コンセントに接続します。**

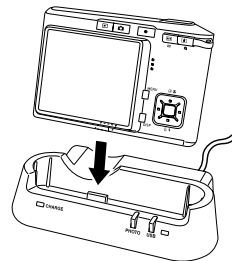
- ACアダプターを使用せずに、カメラの電池のみで使用して接続する場合は、充分に充電された電池を使用してください。

6. 付属のUSBケーブルでUSBクレードルとパソコンのUSB端子を接続します。

- USBケーブルをパソコンとUSBクレードルに接続するときは、それぞれの機器のUSB端子の形状とケーブルの接続端子の形状を合わせて接続してください。
- USBコネクタは奥まで確実に差し込んでください。正しく接続されないと、正常に動作しません。

7. カメラの【電源ボタン】を押して電源を入れ、【MENU】を押します。

8. "設定"タブ→"USB"と選び、【▶】を押します。

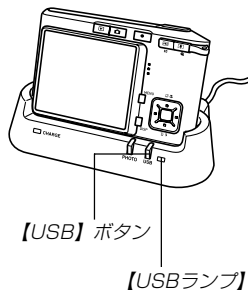
9. 【▲】【▼】で"Mass Storage"を選び、【SET】を押します。

10. カメラの【電源ボタン】を押して電源を切ってから、カメラをUSBクレードルの上にセットします。

- カメラの電源を入れたまま、USBクレードルの上にセットしないでください。

11. USBクレードルの【USB】ボタンを押します。

- カメラ内のメモリーカードまたは内蔵メモリーが認識されます。次回からはパソコンとカメラをUSBクレードルを介して接続するだけで、カメラ内のメモリーカードまたは内蔵メモリーを認識します。
- 【USB】ボタンを押すとUSBモードになり、USBクレードルの【USBランプ】が緑色に点灯します（181ページ）。
- パソコンのOSの環境によっては、「リムーバブルディスク」ガイダンスが表示されることがあります。この場合は、ガイダンスを閉じてください。

【USB】ボタン

【USBランプ】

12. 「マイコンピュータ」をダブルクリックします。

- Windows XPでは、画面上の「スタート」→「マイコンピュータ」の順でクリックします。

Windows 98/98SE/Me/2000の場合

Windows XPの場合

13. 「リムーバブルディスク」をダブルクリックします。

- メモリーカードまたは内蔵メモリーは、「リムーバブルディスク」として認識されています。

リムーバブルディスク

Windows 98/98SE/Me/2000の場合

リムーバブルディスク

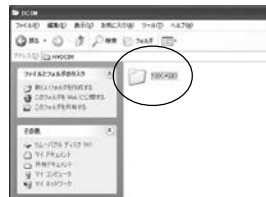
Windows XPの場合

14. 「Dcim」フォルダをダブルクリックします。

Dcim　　Dcim

Windows 98/98SE/Me/2000の場合　　*Windows XPの場合*

15. 見たい画像の入ったフォルダをダブルクリックします。

Windows 98/98SE/Me/2000の場合

Windows XPの場合

16. 見たい画像ファイルをダブルクリックして、画像を見ます。

Windows 98/98SE/Me/2000の場合

Windows XPの場合

- ファイル名については「メモリー内のフォルダ構造」(159ページ)を参照ください。

参考

- 回転表示させた画像を「リムーバブルディスク」から見たりコピーした場合は、回転させる前の画像が表示されます(109ページ)。

17. ファイルを保存する場合は、次のように操作します。

- Windows 2000/Me/98SE/98の場合：
  ①「リムーバブルディスク」内の「Dcim」フォルダを右ボタンでクリックします。
  ②メニューの「コピー」をクリックします。
  ③「マイドキュメント」をダブルクリックして開きます。
  ④「マイドキュメント」のメニューで「編集」→「貼り付け」の順でクリックします。
  – これで「Dcim」フォルダ（画像ファイルが保存されているフォルダ）が「マイドキュメント」フォルダにコピーされます。

- Windows XPの場合：
  ①「リムーバブルディスク」内の「Dcim」フォルダを右ボタンでクリックします。
  ②メニューの「コピー」をクリックします。
  ③「スタート」→「マイドキュメント」の順でクリックします。
  ④「マイドキュメント」メニューで「編集」→「貼り付け」の順でクリックします。
  – これで「Dcim」フォルダ（画像ファイルが保存されているフォルダ）が「マイドキュメント」フォルダにコピーされます。

参考
- この操作は2回目から「Dcim」フォルダを上書きしてしまいますので、フォルダ名“Dcim”を変更するなどを行ってから操作することをおすすめします。

重要!
- カメラ内やメモリーカード内の画像に対して、パソコンで修正・削除・移動・名前の変更などを行わないでください。パソコンで修正・削除・移動・名前の変更などを行った場合は、画像管理データと整合性がとれず、カメラで再生できなくなったり、撮影枚数が極端に変わったりします。修正・削除・移動・名前の変更などはパソコンにコピーした画像で行ってください。

18. USB接続を終えます。

- Windows XP/98SE/98の場合：
  USBクレードルの【USB】ボタンを押し、【USBランプ】が消灯したのを確認してから、カメラをUSBクレードルから取りはずします。

- Windows 2000/Meの場合：
  パソコン画面上のタスクトレイのカードサービスを左クリックし、カメラに割り当てられているドライブ番号の停止を選択します。その後、USBクレードルの【USB】ボタンを押し、【USBランプ】が消灯したのを確認してから、カメラをUSBクレードルから取りはずします。

■ USB接続時のご注意

- パソコンのモニターに同一の画像を表示して放置しておくことはおやめください。残像現象(画面焼け)を起す場合があります。
- 通信中にケーブルを抜いたり、カメラやクレードルの操作を行わないでください。データが破壊される恐れがあります。

お持ちのパソコンがMacintoshの場合

Macintoshにファイルを取り込むためには次の手順で操作します。

重要! • Mac OS 8.6以前、またはMac OS Xの10.0ではご使用できません。Mac OS 9、X(10.1、10.2、10.3、10.4)のみで使用できます(OS標準のUSBドライバを使用)。

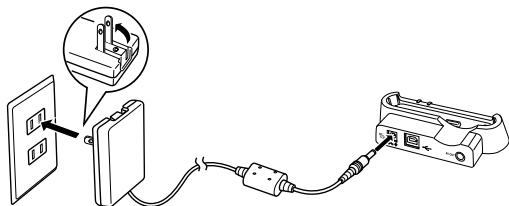
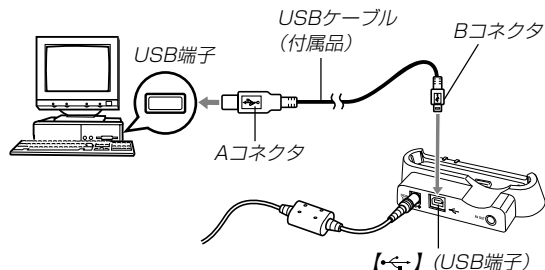
1. カメラとMacintoshをUSBクレードルで接続する。

2. 画像ファイルを見る／コピーする。

具体的な操作方法は以降に記載されていますので、手順に従って操作してください。また、接続するパソコンの取扱説明書もあわせてお読みください。

重要!
- 内蔵メモリーに保存されているファイルデータをパソコンに転送する場合は、カメラからメモリーカードを取り出した状態でUSBクレードルにセットしてください。
- このカメラは、USB2.0 Hi-Speedに対応しています。USB1.1対応のパソコンでもご使用できますが、USB2.0 Hi-Speedに対応したパソコンに接続することにより、より高速な転送が行えます。ただし、機器の構成やUSBハブのご使用等により、転送速度が遅くなったり、正常に動作しない場合があります。

1. 付属のACアダプターをUSBクレードルの【DC IN 5.3V】と家庭用コンセントに接続します。

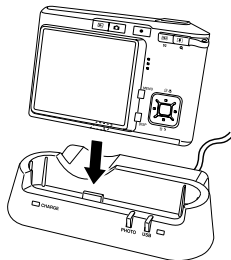
- ACアダプターを使用せずに、カメラの電池のみで使用して接続する場合は、充分に充電された電池を使用してください。

2. 付属のUSBケーブルでUSBクレードルとパソコンのUSB端子を接続します。

- USBケーブルをパソコンとUSBクレードルに接続するときは、それぞれの機器のUSB端子の形状とケーブルの接続端子の形状を合わせて接続してください。
- USBコネクタは奥まで確実に差し込んでください。正しく接続されないと、正常に動作しません。

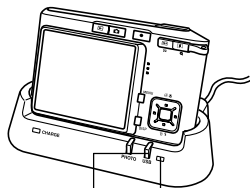
3. カメラの【電源ボタン】を押して電源を入れ、【MENU】を押します。

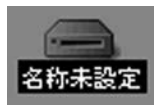
4. "設定"タブ→"USB"と選び、【▶】を押します。

5. 【▲】【▼】で"Mass Storage"を選び、【SET】を押します。

6. カメラの【電源ボタン】を押して電源を切り、カメラをUSBクレードルの上にセットします。

- カメラの電源を入れたまま、USBクレードルの上にセットしないでください。

7. USBクレードルの【USB】ボタンを押します。

- 【USB】ボタンを押すとUSBモードになり、USBクレードルの【USBランプ】が緑色に点灯します(181ページ)。

【USB】ボタン　【USBランプ】

8. カメラ内のメモリーカードまたは内蔵メモリーが「ドライブ」として認識されます。

- Mac OSのバージョンにより、表示されるアイコンが異なる場合があります。
- 次回からはMacintoshとカメラをUSBクレードルを介して接続するだけで、カメラ内のメモリーカードまたは内蔵メモリーを「ドライブ」として認識します。

9. 表示されたドライブ→「DCIM」フォルダ→見たい画像の入ったフォルダの順でダブルクリックします。

10. 見たい画像ファイルをダブルクリックして、画像を見ます。

- ファイル名については「メモリー内のフォルダ構造」(159ページ)を参照ください。

参考

- 回転表示させた画像を「ドライブ」から見たりコピーした場合は、回転させる前の画像が表示されます(109ページ)。

11. ファイルを保存する場合は「DCIM」フォルダを保存したいフォルダにドラッグアンドドロップします。

- 「DCIM」フォルダがMacintosh内のフォルダにコピーされます。

参考 ● ドラッグアンドドロップとは、マウスのポインタ（矢印）が画像ファイルのアイコン上に重なった状態でマウスのボタンを押し、そのままマウスを移動（ドラッグ）させて、別の場所でマウスのボタンを離す（ドロップ）操作のことをいいます。

重要! ● カメラ内やメモリーカード内の画像に対して、パソコンで修正・削除・移動・名前の変更などを行わないでください。パソコンで修正・削除・移動・名前の変更などを行った場合は、画像管理データと整合性がとれず、カメラで再生できなくなったり、撮影枚数が極端に変わったりします。修正・削除・移動・名前の変更などはパソコンにコピーした画像で行ってください。

12. USB接続を終えるには、画面上のカメラのドライブをゴミ箱へドラッグアンドドロップします。その後、USBクレードルの【USB】ボタンを押し、【USBランプ】が消灯しているのを確認してから、カメラをUSBクレードルから取りはずします。

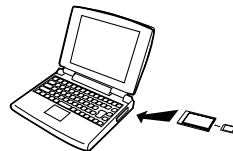
■ USB接続時のご注意

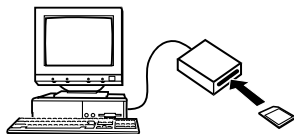
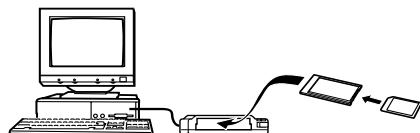
- パソコンのモニターに同一の画像を表示して放置しておくことはおやめください。残像現象（画面焼け）を起す場合があります。
- 通信中にケーブルを抜いたり、カメラやクレードルの操作を行わないでください。データが破壊される恐れがあります。

メモリーカードを直接接続して取り込む

パソコンとのファイルのやりとりをメモリーカードから直接行うことができます。パソコンの機種によって接続方法が異なります。代表的な接続方法は次の通りです。

- SDメモリーカードスロットのある機種
  SDメモリーカードを直接差し込みます。

- PCカードスロットのある機種
  市販のPCカードアダプター（SDメモリーカード／MMC用）を使用します。
  具体的な使用方法は、PCカードアダプターとパソコンに付属の取扱説明書を参照ください。

- 前記以外の機種

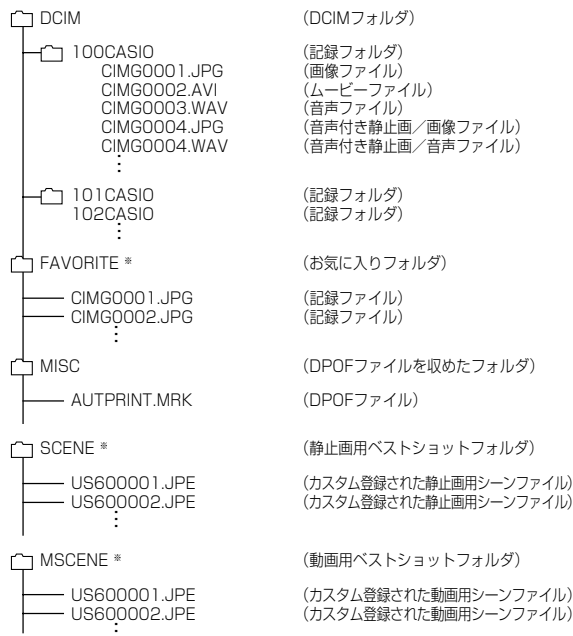
1) 市販のSDメモリーカード用リーダー／ライターを使用します。
具体的な使用方法は、SDメモリーカード用リーダー／ライターに付属の取扱説明書を参照ください。

2) 市販のPCカード用リーダー／ライターと市販のPCカードアダプター(SDメモリーカード／MMC用)を使用します。
具体的な使用方法は、PCカード用リーダー／ライターとPCカードアダプターに付属の取扱説明書を参照ください。

メモリー内のデータについて

本機で撮影された画像やその他のデータは、DCF(Design rule for Camera File system)規格に準拠した方法でメモリーへ保存されます。DCF規格とは、画像ファイルと画像に関連するファイルをデジタルカメラと関連機器の間で簡単に交換することを目的とした規格です。

DCF規格について

DCF規格対応の機器(デジタルカメラやプリンタなど)の間で画像の互換性があります。画像ファイルのデータ形式やメモリー内のフォルダ構造に規定がありますので、本機で撮影した画像をDCF規格対応の他社のカメラで見たり、この規格対応の他社のプリンタで印刷したりすることができます。逆にDCF規格対応の他社のデジタルカメラの画像も本機で見ることができます。

メモリー内のフォルダ構造

■ フォルダ構造

※ 内蔵メモリー内にのみ作成されるフォルダです。

■ フォルダ/ファイルの内容

- DCIMフォルダ
  デジタルカメラで扱うファイルすべてを収めたフォルダです。
- 記録フォルダ
  デジタルカメラで記録したファイルを収めたフォルダです。
- 画像ファイル
  デジタルカメラで撮影した画像ファイルです。拡張子は「JPG」です。
- ムービーファイル
  デジタルカメラで撮影したムービーファイルです。拡張子は「AVI」です。
- 音声ファイル
  音声を記録したファイルです。 拡張子は「WAV」です。
- 音声付き静止画/画像ファイル
  音声付き静止画の画像を記録したファイルです。拡張子は「JPG」です。
- 音声付き静止画/音声ファイル
  音声付き静止画の音声を記録したファイルです。拡張子は「WAV」です。
- お気に入りフォルダ(内蔵メモリーのみ)
  お気に入りの画像ファイルを収めたフォルダです。
  320×240pixelsの画像として収められています。

- DPOFファイルを収めたフォルダ
  DPOFファイルなどを収めたフォルダです。
- 静止画用ベストショットフォルダ（内蔵メモリーのみ）
  カスタム登録された静止画用シーンファイルを収めたフォルダです。
- カスタム登録された静止画用シーンファイル（内蔵メモリーのみ）
  ベストショットモードの静止画撮影で使用されるファイルです。
- 動画用ベストショットフォルダ（内蔵メモリーのみ）
  カスタム登録された動画用シーンファイルを収めたフォルダです。
- カスタム登録された動画用シーンファイル（内蔵メモリーのみ）
  ベストショットモードの動画撮影で使用されるファイルです。

このデジタルカメラで扱える画像ファイル

- 本機で撮影した画像ファイル
- DCF規格に対応している画像ファイル

※ DCF規格の画像ファイルでも、使用できない機能がある場合があります。また、本機以外で撮影された画像の場合、再生にかかる時間が長くなる場合があります。

■ パソコン上で内蔵メモリー／メモリーカードを扱うときのご注意

- メモリーの内容をパソコンのハードディスクやCD-R、MOディスクなどに保存する際は“DCIM”フォルダごと保存してください。その際“DCIM”フォルダの名前を年月日などに変えておくと、あとで整理するときに便利です。ただし、パソコンのハードディスクなどに保存したファイルを再度メモリーに戻して本機で再生する場合は、フォルダ名をパソコン上で“DCIM”に戻してからご使用ください。本機では“DCIM”以外の名前のフォルダは認識されません。“DCIM”フォルダ内の他のフォルダ名を変えた場合も同様です。元の名前に戻してから使用してください。
- フォルダやファイルをカメラで正しく認識させるためには、メモリー内のフォルダ構造が159ページの「フォルダ構造」の通りである必要があります。

パソコンでファイルを活用する

付属のCD-ROM内に収録されているソフトウェアをインストールすることで、パソコンでいろいろなことができます。
- お手持ちのパソコンがMacintoshの場合は、172ページからご覧ください。

お持ちのパソコンがWindowsの場合

本機には、パソコンで画像を活用するための便利なソフトが付属しています。目的に応じてソフトをインストールしてください。

付属のCD-ROM(カシオデジタルカメラアプリケーションソフトウェア)について

付属のCD-ROM(カシオデジタルカメラアプリケーションソフトウェア)には、以下のソフトウェアが収録されています。各ソフトの内容を確認し、必要に応じてソフトをパソコンにインストールしてください。

使用目的	付属CD-ROMソフト		
	ソフト名	対応するWindows のバージョン	操作方法
パソコンにUSB接続して画像を送る	ー	XP/2000/Me	カメラとパソコンをUSBクレードルで接続。USBドライバは不要です(148ページ)。
	USB driver Type B	98SE/98	カメラとパソコンをUSBクレードルで接続。USB driver Type Bをインストールする(148ページ)。
パソコンに取り込んだ画像を管理する	Photo Loader 2.3 ※DirectX 9.0c	XP/2000/Me/ 98SE/98	Photo Loader 2.3をインストールする(164ページ)。 ※ パソコンにDirectX 9.0以上がない場合はDirectX 9.0cもインストールする(166ページ)。
静止画像をレタッチしたり、向きの変更や印刷設定をする	Photohands 1.0	XP/2000/Me/ 98SE/98	Photohands 1.0をインストールする(166ページ)。

使用目的	付属CD-ROMソフト		
	ソフト名	対応するWindowsのバージョン	操作方法
動画を再生する	Windows Media Player 9 ※DirectX 9.0c	XP/2000/Me/98SE	● インターネットに接続できる環境をお持ちの場合 インターネットに接続すると自動的に該当のコーデックがインストールされる(167ページ)。 ● インターネットに接続できる環境をお持ちでない場合 Windows Media Player 9をインストールする(168ページ)。 ※ Windows 2000/98SEの場合 パソコンにDirectX 9.0以上がない場合はDirectX 9.0cもインストールする(166ページ)。
	Windows 98 WMP6.4コーデック	98	● インターネットに接続できる環境をお持ちの場合 インターネットに接続すると自動的に該当のコーデックがインストールされる(167ページ)。 ● インターネットに接続できる環境をお持ちでない場合 Windows 98 WMP6.4コーデックをインストールする。(169ページ)
動画を編集する	Ulead VideoStudio おまかせモードSE VCD (英語版：Movie Wizard SE VCD)	XP/2000	Ulead VideoStudioおまかせモードSE VCDをインストールする(170ページ)。
	－	Me/98SE/98	－
取扱説明書(PDFファイル)を読む	Adobe Reader 6.0	XP/2000/Me/98SE	パソコンにAdobe ReaderまたはAdobe Acrobat Readerがインストールされていない場合は、Adobe Reader 6.0をインストールする(171ページ)。
	－	98	パソコンにAdobe ReaderまたはAdobe Acrobat Readerがインストールされていない場合は、アドビシステムズ社のホームページからAcrobat Reader 5.0.5をインストールする。

パソコンの動作環境について

使用するソフトによって、必要な動作環境が異なりますので、必ず確認してください。また、各ソフトの動作環境はアプリケーションを動作させる最小値です。取り扱う画像サイズや枚数によって、これ以上のスペックを必要とします。

USB driver Type B

OS　：98SE/98

※ Windows XP/2000/Meの場合は、カメラとパソコンを付属のUSBクレードルで接続します。付属のCD-ROMからUSB driverをインストールする必要はありません。
※ Windows 95/3.1からバージョンアップしたパソコンでは動作保証いたしません。

Photo Loader 2.3

OS　：XP/2000/Me/98SE/98
メモリ：16MB以上
HD　：約7MB以上
その他：IE5.5以上、DirectX 9.0 以上

Photohands 1.0

OS　：XP/2000/Me/98SE/98
メモリ：64MB以上
HD　：約10MB以上

DirectX 9.0c

OS　：XP/2000/Me/98SE/98
HD　：インストールに65MB（HDは18MB）

Adobe Reader 6.0

OS　：XP/2000/Me/98SE
CPU　：Pentium
メモリ：32MB
HD　：60MB
その他：IE5.01以上

Windows Media Player 9

OS　：XP/2000/Me/98SE
CPU　：Intel Pentium II、AMD などの 233MHz
メモリ：64MB
HD　：100MB
その他：サウンドカード、画面の解像度800×600以上、IE5.01以上

※ Windows 98の方は、CDに付属のWindows 98 WMP6.4コーデックをインストールしてください。

Ulead VideoStudio おまかせモードSE VCD（英語版 ： Movie Wizard SE VCD）

OS　　：XP/2000
CPU　：Pentium III 800MHz
メモリ：256MB
HD　　：250MB
その他：画面の解像度1024×768以上

重要!
- Windowsの詳しい動作環境については、付属のCD-ROM（カシオデジタルカメラアプリケーションソフトウェア）内の「お読みください」ファイルを参照して、確認してください。

パソコンに取り込んだ画像を管理する

パソコンに取り込んだ画像を管理するには、付属のCD-ROMに収録されているPhoto Loaderをパソコンにインストールします。

参考
- すでにパソコンにPhoto Loaderをインストールしている場合は、バージョンを確認してください。もしもバージョンが古い場合は、古いバージョンのPhoto Loaderをアンインストールした後、新しいバージョンのPhoto Loaderをインストールしてください。
- CD-ROM（カシオデジタルカメラアプリケーションソフトウェア）には日本語と英語のアプリケーションが搭載されていますので、必要な言語の方をインストールしてください（2重インストールには対応していません）。

■ 準備

1. パソコンを起動させ、付属のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブに入れると、日本語のMENU画面が自動的に表示されます。

- パソコンの設定によっては自動的にMENU画面が表示されない場合があります。その場合は、CD-ROMが割り当てられているドライブを開き、MENU.exeをダブルクリックして起動させてください。
- 英語のアプリケーションソフトをインストールしたい場合は“Language”の「English」をクリックしてください。

■「お読みください」を読む

インストールする前に、必ず“Photo Loader”の「お読みください」をお読みください。インストールするために必要な条件や動作環境が書かれています。

1. “Photo Loader”の「お読みください」をクリックします。

■ ソフトのインストール

1. “Photo Loader”の「インストール」をクリックします。

2. 手順に従ってインストールします。

重要! • Photo Loaderのバージョンアップ、再インストールやパソコンを変更する場合で、以前使用していたライブラリ情報を継続させる方法については、「お読みください」をご覧になり、手順をご確認願います。
手順通りにインストールしないと、以前のライブラリ管理情報やカレンダー形式のHTMLファイルがPhoto Loaderで見ることができなくなるばかりか、取り込んだ画像ファイルが消失する恐れがあります。

■ DirectXの確認

Photo Loaderで取り込んだ画像を管理するには、パソコンにDirectX 9.0以上がインストールされている必要があります。パソコンの「DirectX 診断ツール」を見てDirectX のバージョンを確認してください。

1. パソコンのメニューで「スタート」→「プログラム」→「アクセサリ」→「システムツール」の順でたどり「システム情報」を開きます。

2. メニューバーから「ツール」→「DirectX 診断ツール」の順で開きます。

3. 「システム」タブをクリックし“DirectX バージョン”が9.0以上であることを確認してください。

4. 「終了」をクリックして「DirectX 診断ツール」を終了します。

- DirectX 9.0以上がインストールされている場合は、付属のCD-ROMに収録されている「DirectX 9.0c」をインストールする必要はありません。
- DirectX 9.0以上がインストールされていない場合は、付属のCD-ROMに収録されている「DirectX 9.0c」をインストールしてください。

静止画像のレタッチ／向きの変更／印刷設定をする

静止画像のレタッチ、向きの変更や印刷設定をするには、付属のCD-ROMに収録されているPhotohandsをパソコンにインストールします。

重要!

- すでにパソコンにPhotohandsをインストールしている場合は、バージョンを確認してください。もしもバージョンが古い場合は、古いバージョンのPhotohandsをアンインストールした後、新しいバージョンのPhotohandsをインストールしてください。
- CD-ROM（カシオデジタルカメラアプリケーションソフトウェア）には日本語と英語のアプリケーションが搭載されていますので、必要な言語の方をインストールしてください（2重インストールには対応していません）。

■ 準備

1. パソコンを起動させ、付属のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブに入れると、日本語のMENU画面が自動的に表示されます。

- パソコンの設定によっては自動的にMENU画面が表示されない場合があります。その場合は、CD-ROMが割り当てられているドライブを開き、MENU.exeをダブルクリックして起動させてください。
- 英語のアプリケーションソフトをインストールしたい場合は“Language”の「English」をクリックしてください。

■「お読みください」を読む

インストールする前に、必ず“Photohands”の「お読みください」をお読みください。インストールするために必要な条件や動作環境が書かれています。

1. “Photohands”の「お読みください」をクリックします。

■ ソフトのインストール

1. “Photohands”の「インストール」をクリックします。

2. 手順に従ってインストールします。

動画を再生する

動画をWindows Media Playerで再生するには、カメラで作成したMPEG-4対応のコーデックがパソコンにインストールされている必要があります。

■ パソコンがインターネットに接続できる環境をお持ちの場合

1. パソコンをインターネットに接続します。

2. カメラで撮影した動画ファイルをクリックします。

3. MPEG-4対応のコーデックがパソコンにインストールされていない場合は、Microsoft社のホームページに自動的に接続し、MPEG-4対応のコーデックがダウンロードされます。

4. ダウンロードされたMPEG-4対応のコーデックをインストールします。

5. カメラで撮影した動画ファイルが表示されます。

参考

- すでにMPEG-4対応のコーデックがインストールされている場合は、カメラで撮影した動画ファイルが表示されます。

重要!
- Windows Media Player 9を使用して再生する場合、ご使用のSDメモリーカードにより、以下のように設定してください。
  - 高速タイプのSDメモリーカードの場合
    Windows Media Playerは基本設定のままでご使用ください。
  - 高速タイプでないSDメモリーカードの場合
    動画の表示を安定させるために、Windows Media Playerは下記の設定変更を行ってください。
    1）メニューバーを「ツール」–「オプション」とたどり、「パフォーマンス」タブを開けます。
    2）「ビデオアクセラレータ」の「詳細」を開けます。
    3）“ビデオアクセラレータ”の“ビデオミキシングレンダラを使う”のチェックを外します。
    4）“旧ビデオレンダラ”の“YUV反転を使う”のチェックを外します。
- 必ず動画データはパソコンに保存してから再生してください。ネットワーク上やメモリーカードなどにある動画データを再生しても、正しく再生できない場合があります。

■ パソコンがインターネットに接続できる環境をお持ちでない場合

パソコンがインターネットに接続できる環境をお持ちでない場合は、付属のCD-ROMに収録されているWindows Media Player 9をパソコンにインストールします。

●準備

1. パソコンを起動させ、付属のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブに入れると、日本語のMENU画面が自動的に表示されます。

- パソコンの設定によっては自動的にMENU画面が表示されない場合があります。その場合は、CD-ROMが割り当てられているドライブを開き、MENU.exeをダブルクリックして起動させてください。
- 英語のアプリケーションソフトをインストールしたい場合は“Language”の「English」をクリックしてください。

●「お読みください」を読む

インストールする前に、必ず“Windows Media Player 9”の「お読みください」をお読みください。インストールするために必要な条件や動作環境が書かれています。

1. “Windows Media Player 9”の「お読みください」をクリックします。

●ソフトのインストール

1. “Windows Media Player 9”の「インストール」をクリックします。

2. 手順に従ってインストールします。

重要!
- Windows 98の場合は、Windows Media Player 9の代わりにWindows 98 WMP6.4コーデックをインストールします。
- Windows 2000/98SEの場合は、DirectX 9.0cがパソコンにインストールされている必要があります。DirectXのバージョンは166ページの方法でご確認ください。
- Windows Media Player 9を使用して再生する場合、ご使用のSDメモリーカードにより、以下のように設定してください。
  - 高速タイプのSDメモリーカードの場合
    Windows Media Playerは基本設定のままでご使用ください。
  - 高速タイプでないSDメモリーカードの場合
    動画の表示を安定させるために、Windows Media Playerは下記の設定変更を行ってください。
    1) メニューバーを「ツール」−「オプション」とたどり、「パフォーマンス」タブを開けます。
    2) 「ビデオアクセラレータ」の「詳細」を開けます。
    3) “ビデオアクセラレータ”の“ビデオミキシングレンダラを使う”のチェックを外します。
    4) “旧ビデオレンダラ”の“YUV反転を使う”のチェックを外します。

■ 動画再生のご注意

本機で撮影した動画をパソコンで再生する場合、以下の動作環境を推奨します。

OS　：XP
CPU　：Pentium M　1GHz 以上
　　　Pentium 4　2GHz 以上
必要なソフトウェア：Windows Media Player 9
　　　DirectX 9.0c

重要!
- 上記の動作環境は、推奨の環境であり、動作を保証するものではありません。
- 上記動作環境のパソコンでも、設定状態やインストールされているソフトウェアによっては、正しく動作しない場合があります。

動画を編集する

動画を編集するには、付属のCD-ROMに収録されているUlead VideoStudioおまかせモードSE VCD(英語版:Movie Wizard SE VCD)をパソコンにインストールします。

重要! • Windows Me/98SE/98には対応していません。

参考 • 付属のCD-ROMに収録されているUlead VideoStudioおまかせモードSE VCD(英語版: Movie Wizard SE VCD)はVideo-CDの作成はできますが、DVDの作成はできません。製品版にアップグレード(有料)することでDVDの作成ができるようになります。Ulead VideoStudioおまかせモードSE VCD(英語版: Movie Wizard SE VCD)の機能やバージョンアップについては「お読みください」をご覧ください。

■ 準備

1. パソコンを起動させ、付属のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブに入れると、日本語のMENU画面が自動的に表示されます。

- パソコンの設定によっては自動的にMENU画面が表示されない場合があります。その場合は、CD-ROMが割り当てられているドライブを開き、MENU.exeをダブルクリックして起動させてください。
- 英語のアプリケーションソフトをインストールしたい場合は"Language"の「English」をクリックしてください。

■「お読みください」を読む

インストールする前に、必ず"Ulead VideoStudioおまかせモードSE VCD"の「お読みください」をお読みください。インストールするために必要な条件や動作環境が書かれています。

1. "Ulead VideoStudioおまかせモードSE VCD"の「お読みください」をクリックします。

■ ソフトのインストール

1. "Ulead VideoStudioおまかせモードSE VCD"の「インストール」をクリックします。

2. 手順に従ってインストールします。

取扱説明書(PDFファイル)を読む

1. "取扱説明書"のお読みになりたいアプリケーションソフトの名前をクリックします。

重要! • 取扱説明書をお読みになるには、パソコンにAdobe ReaderまたはAdobe Acrobat Readerがインストールされている必要があります。インストールされていない場合は、「ソフトのインストール」でAdobe Readerをインストールしてください。

ユーザー登録をする

パソコンからインターネットを通してのみ、ユーザー登録をすることができます。ユーザー登録をするには、パソコンがインターネットに接続されていることが必要です。

※「カシオデジタルカメラオフィシャルWebサイト」へのユーザー登録となります。ユーザー登録で登録いただいた個人情報のお取り扱いに関しては、Webサイト上の「ご利用になる前に」に記載されておりますので、ご確認をお願い致します。ユーザー登録はデジタルカメラ本体や付属ソフトのバージョンアップのご連絡その他情報発信を目的としております。付属ソフトウェアについては、ユーザー登録をしなくてもインストールや使用は可能です。

1. 「オンラインユーザ登録」をクリックします。

- Webブラウザソフトが起動し、ユーザー登録が可能になります。画面の指示に従ってユーザー登録を行ってください。

2. ユーザー登録が終了したら、インターネットの接続を終了してください。

- 下記のアドレスからもユーザー登録ができます。
  ユーザー登録アドレス　http://casio.jp/reg/dc/

終了

1. 「終了」をクリックします。

- MENUを終了します。

お持ちのパソコンがMacintoshの場合

本機には、パソコンで画像を活用するための便利なソフトが付属しています。目的に応じてソフトをインストールしてください。

付属のCD-ROM(カシオデジタルカメラアプリケーションソフトウェア)について

付属のCD-ROM(カシオデジタルカメラアプリケーションソフトウェア)には、以下のソフトウェアが収録されています。各ソフトの内容を確認し、必要に応じてソフトをパソコンにインストールしてください。

使用目的	付属CD-ROMソフト		
	対応するMacintoshソフト名	対応するMac OSのバージョン	操作方法
パソコンにUSB接続して画像を送る	–	OS 9/OS X	カメラとパソコンをUSBクレードルで接続。USBドライバは不要です(148ページ)。
パソコンに取り込んだ画像を管理する	Photo Loader 1.1	OS 9	Photo Loader 1.1をインストールする(173ページ)。
	–	OS X	OSにバンドルされているiPhotoが利用できます(174ページ)。
動画を再生する	● QuickTime ● CASIO AVI Importer component 1.0	OS X	CASIO AVI Importer component 1.0 をインストールする(174ページ)
取扱説明書(PDFファイル)を読む	–	OS 9/OS X	OSにバンドルされているAdobe ReaderまたはAdobe Acrobat Readerが利用できます(176ページ)。

パソコンの動作環境について

使用するソフトによって、必要な動作環境が異なりますので、必ず確認してください。また、各ソフトの動作環境はアプリケーションを動作させる最小値です。取り扱う画像サイズや枚数によって、これ以上のスペックを必要とします。

Photo Loader 1.1

OS　　：OS 9
メモリ：32MB
HD　　：約3MB以上

※ USB接続は、Mac OS 9/Xで可能です。標準搭載のドライバで動作しますので、そのままUSBケーブルでカメラとパソコンを接続してください。

CASIO AVI Importer component 1.0

OS　　：OS X 10.2.8以降
QuickTimeバージョン：QuickTime 6.5.2以降

重要! • Macintoshの詳しい動作環境については、付属のCD-ROM(カシオデジタルカメラアプリケーションソフトウェア)内の「お読みください」ファイルを参照して、確認してください。

パソコンに取り込んだ画像を管理する

■ Mac OS 9の場合

パソコンに取り込んだ画像を管理するには、付属のCD-ROMに収録されているPhoto Loaderをパソコンにインストールします。

●ソフトのインストール

インストールする前に、インストールするPhoto Loaderの「はじめにお読みください」を必ずお読みください。インストールするために必要な条件や動作環境が書かれています。

1. **付属のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットします。**

2. **CD-ROM内の「CD-ROMの使いかた」ファイルを開きます。**

3. **「ソフトウェアについて」をクリックします。**

4. **インストールするソフトウェア名をクリックし、インストール方法を確認します。**

5. **手順に従ってインストールします。**

重要! • Photo Loaderのバージョンアップ、再インストールやパソコンを変更する場合で、以前使用していたライブラリ情報を継続させる方法については、「お読みください」ファイルをご覧になり、手順をご確認願います。
手順通りにインストールしないと、以前のライブラリ管理情報やカレンダー形式のHTMLファイルがPhoto Loaderで見ることができなくなるばかりか、取り込んだ画像ファイルが消失する恐れがあります。

■ Mac OS Xの場合

OSにバンドルされているiPhotoをご利用ください。静止画像の管理ができます。

パソコンで動画を再生する

パソコンに取り込んだ動画をQuickTimeで再生するには、付属のCD-ROMに収録されているCASIO AVI Importer componentをパソコンにインストールします。

- CASIO AVI Importer componentをインストールすることで、High Quality Movie対応デジタルカメラで撮影したAVI形式(MPEG-4準拠)の動画データをMacintoshのOSにバンドルされているQuickTimeで再生することができます。

●ソフトのインストール

1. **付属のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットします。**
2. **CD-ROM内の「CASIO AVI Importer」フォルダを開きます。そこに、「CASIO AVI Importer.component」ファイルがあります。**
3. **起動ディスクにある「ライブラリ」フォルダをダブルクリックして開きます。**
4. **「ライブラリ」フォルダの中の「QuickTime」をダブルクリックして開きます。**

5. “CASIO AVI Importer.component”を「QuickTime」フォルダにドラッグアンドドロップします。

- “CASIO AVI Importer.component”が「QuickTime」フォルダにインストールされます。
- 「QuickTime」フォルダの中に他のAVIコンポーネントがあると、動画が正しく再生されない場合があります。その場合は、他のAVIコンポーネントを「QuickTime」フォルダの外に待避させてください。

6. パソコンを再起動して、動画をQuickTimeで再生できることを確認してください。

重要!
- 必ず動画データはパソコンに保存してから再生してください。ネットワーク上やメモリーカードなどにある動画データを再生しても、正しく再生できない場合があります。

■ 動画再生のご注意

本機で撮影した動画をパソコンで再生する場合、以下の動作環境を推奨します。

OS　：OS X 10.2.8以降
必要なソフトウェア：QuickTime 6.5.2以降

重要!
- 上記の動作環境は、推奨の環境であり、動作を保証するものではありません。
- 上記動作環境のパソコンでも、設定状態やインストールされているソフトウェアによっては、正しく動作しない場合があります。

取扱説明書(PDFファイル)を読む

1. **付属のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットします。**

2. **CD-ROM内の「CD-ROMの使いかた」ファイルを開きます。**

3. **「取扱説明書を読む」をクリックします。**

4. **読みたいソフトウェア名をクリックし、取扱説明書を表示させせます。**

重要! ● 取扱説明書をお読みになるには、パソコンにAdobe ReaderまたはAdobe Acrobat Readerがインストールされている必要があります。インストールされていない場合は、アドビシステムズ社のホームページよりAdobe Reader をダウンロードして、Adobe Reader をインストールしてください。

ユーザー登録をする

パソコンからインターネットを通してのみ、ユーザー登録をすることができます。「カシオデジタルカメラオフィシャルWebサイト」にて登録を行ってください。

ユーザー登録アドレス　http://casio.jp/reg/dc/

※「カシオデジタルカメラオフィシャルWebサイト」へのユーザー登録となります。ユーザー登録で登録いただいた個人情報のお取り扱いに関しては、Webサイト上の「ご利用になる前に」に記載されておりますので、ご確認をお願い致します。ユーザー登録はデジタルカメラ本体や付属ソフトのバージョンアップのご連絡その他情報発信を目的としております。付属ソフトウェアについては、ユーザー登録をしなくてもインストールや使用は可能です。

メニュー一覧表

RECモード、PLAYモードの各タブのメニューに表示される項目の一覧表です。

- 下線の引いてある項目は工場出荷時に選択されている項目です。

■ RECモード

●撮影設定タブメニュー

フォーカス方式	AF（オートフォーカス）／ マクロ／ PF（パンフォーカス）／∞（無限遠）／ MF（マニュアルフォーカス）
連写	入／切
セルフタイマー	10秒／2秒／×3／切
AFエリア	[・] スポット／ マルチ
AF補助光	入／切
ブレ軽減	オート／切
左右キー設定	フォーカス／EVシフト／ホワイトバランス／ ISO感度／セルフタイマー／切
クイックシャッター	入／切
音声付静止画	入／切
グリッド表示	入／切

デジタルズーム	入／切
撮影レビュー	入／切
アイコンガイド	入／切
モードメモリ	BS ベストショット：入／切 フラッシュ：入／切 フォーカス方式：入／切 ホワイトバランス：入／切 ISO 感度：入／切 AFエリア：入／切 測光方式：入／切 セルフタイマー：入／切 フラッシュ光量：入／切 デジタルズーム：入／切 MF位置：入／切 ズーム位置：入／切

●画質設定タブメニュー

サイズ	6M(2816×2112)／6M(3:2)(2816×1872(3:2))／4M(2304×1728)／3M(2048×1536)／2M(1600×1200)／VGA(640× 480)
画質(静止画)	高精細-F／標準-N／エコノミー-E
画質(動画)	高品位-HQ／標準-Normal／長時間-LP
EVシフト	−2.0／−1.7／−1.3／−1.0／−0.7／−0.3／0.0／+0.3／+0.7／+1.0／+1.3／+1.7／+2.0
ホワイトバランス	オート／太陽光／曇天／日陰／N昼白色／D昼光色／電球／マニュアル
ISO 感度	オート／ISO 50／ISO 100／ISO 200／ISO 400
測光方式	マルチ／中央重点／スポット
フィルター	切／白黒／セピア／赤／緑／青／黄／ピンク／紫
シャープネス	＋2／＋1／0／－1／－2
彩度	＋2／＋1／0／－1／－2
コントラスト	＋2／＋1／0／－1／－2
フラッシュ光量	＋2／＋1／0／－1／－2
フラッシュアシスト	オート／切

●設定タブメニュー

液晶設定	オート／明／標準
操作音	起動音／ハーフシャッター／シャッター／操作音／ 操作音／ 再生音
起動画面	入(画像選択)／切
ファイルNo.	メモリする／メモリしない
ワールドタイム	自宅／訪問先
	ホームタイムの詳細設定(都市名、サマータイムなど)
	ワールドタイムの詳細設定(都市名、サマータイムなど)
日時設定	日付と時刻の設定
表示スタイル	年/月/日／日/月/年／月/日/年
Language	日本語／English／Français／Deutsch／Español／Italiano／Português
スリープ	30秒／1分／2分／切
オートパワーオフ	2分／5分
REC／PLAY	パワーオン／パワーオン/オフ／切
USB	Mass Storage (USB DIRECT- PRINT)／PTP (PictBridge)
ビデオ出力	NTSC／PAL
フォーマット	フォーマット／キャンセル
リセット	リセット／キャンセル

■ PLAYモード

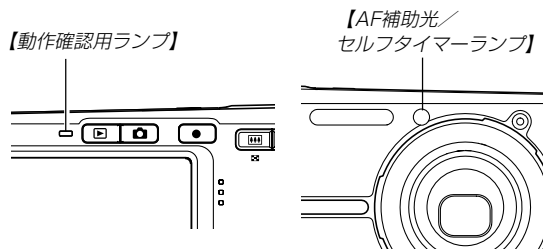
●再生機能タブメニュー

スライドショー	開始／表示画像／時間／間隔／エフェクト／キャンセル
モーションプリント	9コマで作成／1コマで作成／キャンセル
手ブレ補正	入／切
ムービーカット	(前)カット／(中)カット／(後)カット／キャンセル
お気に入り	表示／登録／キャンセル
DPOF	選択画像／全画像／キャンセル
プロテクト	オン／全ファイル　オン／キャンセル
日時編集	－
回転表示	回転／キャンセル
リサイズ	3M／2M／VGA／キャンセル
トリミング	－
アフレコ	－
コピー	内蔵→カード／カード→内蔵／キャンセル

●設定タブメニュー

- PLAYモードの設定タブメニューは、RECモードの設定タブメニューと同じ内容です。

ランプの状態と動作内容

カメラ本体には【動作確認用ランプ】と【AF補助光／セルフタイマーランプ】の2つのランプがあります。これらのランプは、カメラの動作内容によって、点灯したり点滅したりします。

※ランプの点滅間隔は3種類あります。点滅1では1秒間に1回、点滅2では1秒間に2回、点滅3では1秒間に4回点滅します。

■ RECモード

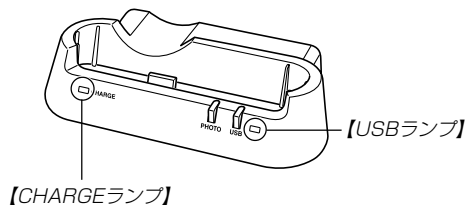
動作確認用ランプ			AF補助光／セルフタイマーランプ	内容
緑	赤	オレンジ	赤	
点灯				起動中（電源オン時、撮影可）
		点滅3		フラッシュ充電中
	点灯			フラッシュ充電完了
点灯				オートフォーカス合焦
点滅3				オートフォーカス合焦不可
点灯				LCDオフ／スリープ中
点滅2				撮影記録中
点滅1				ムービー取り込み中／画像処理中
			点滅1	セルフタイマーカウントダウン10〜3秒前
			点滅2	セルフタイマーカウントダウン3〜0秒前
	点滅1			フラッシュ充電不可
	点滅2			メモリーカード異常／メモリーカード未フォーマット／カスタム登録不可
	点灯			メモリーカードロック／フォルダ作成不可／メモリーフル／書き込みエラー
	点滅3			電池交換警告
点滅3				フォーマット中
点滅3				終了中（電源オフ時）

重要! • カメラにメモリーカードを入れているときは、【動作確認用ランプ】が緑色に点滅中にメモリーカードを取り出すことは絶対におやめください。撮影された画像がメモリーカードに記録されずに消えてしまいます。

■ PLAYモード

動作確認用ランプ			AF補助光／セルフタイマーランプ	内容
緑	赤	オレンジ	赤	
点灯				起動中（電源オン時、撮影可）
点滅3				消去実行中／DPOF実行中／プロテクト実行中／コピー実行中／フォーマット中／リサイズ処理中／トリミング処理中／アフレコ処理中／モーションプリント処理中／ムービーカット処理中／終了中（電源オフ時）
	点滅2			メモリーカード異常／メモリーカード未フォーマット
	点灯			メモリーカードロック／フォルダ作成不可／メモリーフル
	点滅3			電池交換警告

■ USBクレードルのランプ

USBクレードルには【CHARGEランプ】と【USBランプ】の2つのランプがあります。これらのランプは、USBクレードルの動作内容によって、点灯したり点滅したりします。

CHARGEランプ		USBランプ		内容
色	状態	色	状態	
赤	点灯			充電中
緑	点灯			充電終了
オレンジ	点灯			充電待機中
赤	点滅			充電エラー
		緑	点灯	USB接続状態
		緑	点滅	メモリーアクセス中

故障かな？と思ったら

現象と対処方法

	現　　象	考えられる原因	対　　処
電源について	電源が入らない。	1) 電池が正しい向きに入っていない。 2) 電池が消耗している。	1) 電池を正しい向きに入れてください(→28ページ)。 2) 電池を充電してください(→29ページ)。それでもすぐに電池が消耗するときは電池の寿命です。別売のリチウムイオン充電池(NP-20)をお買い求めください。
	電源が勝手に切れた。	1) オートパワーオフが働いた(→35ページ)。 2) 電池が消耗している。	1) 再度電源を入れ直してください。 2) 電池を充電してください(→29ページ)。
撮影について	【シャッター】を押しても撮影できない。	1) PLAYモードになっている。 2)【フラッシュ】充電中である。 3)“メモリがいっぱいです”と表示されている。	1)【📷】(REC)を押してRECモードにしてください。 2)【フラッシュ】の充電が終わるまで待ってください。 3) パソコンに画像を転送後、不要な画像を消去するか、別のメモリーカードをセットしてください。
	オートフォーカスなのにピントが合わない。	1)【レンズ】が汚れている。 2) 被写体が【フォーカスフレーム】の中央にない。 3) ピントの合いにくい被写体である(→45ページ)。 4) 手ブレしている。	1)【レンズ】をきれいにする。 2) 被写体を【フォーカスフレーム】の中央に合わせる。 3) マニュアルフォーカスモードに切り替えて手動でピントを合わせる(→61ページ)。 4) ブレ軽減撮影状態に設定してください。または、三脚を使用してください(→71ページ)。

C

	現　　象	考えられる原因	対　　処
撮影について	撮影した画像の被写体がボケている。	ピントが合っていない。	ピントを合わせたい被写体に【フォーカスフレーム】を合わせて撮影してください(→41ページ)。
	風景を撮影したがピントが合っていない。	1) ピントが合っていない。 2) フォーカスモードが適切でない。 3) ベストショットモードのシーンが適切でない。	1) ピントを合わせたい被写体に【フォーカスフレーム】を合わせて撮影してください(→41ページ)。 2) フォーカスモードを"AF"(オートフォーカスモード)または"∞"(無限遠モード)に合わせてください(→57、60ページ)。 3) ベストショットモードの"風景を写します"を使用してください(→66ページ)。
	フラッシュが発光しない。	1) フラッシュの発光方法が" "(発光禁止)になっている。 2) 電池が消耗している。 3) ベストショットモードでフラッシュが" "(発光禁止)のシーンを選んでいる。	1) フラッシュの発光方法を他の方法に切り替える(→48ページ)。 2) 電池を充電してください(→29ページ)。 3) 必要に応じて、フラッシュの発光方法を切り替えるか(→48ページ)撮影したいシーンを選び直す(→66ページ)。
	セルフタイマーでの撮影の途中で電源が切れた。	電池が消耗している。	電池を充電してください(→29ページ)。

	現　象	考えられる原因	対　処
撮影について	【液晶モニター】に表示される画像のピントがあまい。	1) "MF"(マニュアルフォーカスモード)でピント合わせがずれている。 2) 被写体が風景や人物なのに、"🌷"(マクロモード)になっている。 3) 接写しているのに、"AF"(オートフォーカスモード)や"∞"(無限遠モード)になっている。	1) ピントを合わせる(→61ページ)。 2) 風景や人物を撮影する場合は、"AF"(オートフォーカスモード)にする。 3) 接写撮影をする場合は"🌷"(マクロモード)にする。
	撮影したのに画像が保存されていない。	1) 記録が終了する前に電池切れになった。 2) 記録が終了する前にメモリーカードを抜いた。	1) バッテリー残量表示が"▭"になったら、速やかに電池を充電してください(→29ページ)。 2) 記録が終了する前にメモリーカードを抜かないでください。
	風景が明るいのに人物の顔が暗くなってしまった。	人物が光量不足です。	• フラッシュを"⚡"(強制発光)にしてください(日中シンクロ撮影)(→49ページ)。 • EVシフトを＋側に調整してください(→62ページ)。
	海岸やスキー場で撮影すると被写体が暗くなる。	海岸や雪面からの強い光の反射に露出が合っているため、露出不足になっています。	• フラッシュを"⚡"(強制発光)にしてください(日中シンクロ撮影)(→49ページ)。 • EVシフトを＋側に調整してください(→62ページ)。

	現　象	考えられる原因	対　処
動画について	画面に縦線が入る。	極端に明るい被写体を撮影すると、【液晶モニター】上の画像に、縦に尾を引いたような光の帯が表示される場合があります(スミア現象といいます)。	これはCCD特有の現象で、故障ではありません。なお、この帯は静止画には記録されませんが、動画にはそのまま記録されますので、ご注意ください。
	画像がぼける。	撮影範囲外ではピントが合わず、ぼけた画像になります。	撮影範囲内で撮影してください。
	画像にノイズが入る。	被写体が暗いと自動的に感度を上げるため、ノイズが発生する場合があります。	ライトなどを使用して明るくして撮影してください。
再生について	再生した画像の色が撮影時に【液晶モニター】で見た色と違う。	太陽光など光源からの直接光がレンズに当たっている。	直接光がレンズに当たらないようにしてください。
	画像が表示されない。	DCF規格に準拠していない他のデジタルカメラで撮影したメモリーカードを使用している。	DCF規格に準拠していない他のデジタルカメラで撮影したメモリーカードは、ファイル管理形式が異なるため再生できません。

	現　　象	考えられる原因	対　　処
その他	すべてのボタンやスイッチが働かない。	他の周辺機器との接続中に静電気や衝撃等により、回路内部に障害が発生した。	電池をいったん取り出し、入れ直してから再度操作してみてください。
	【液晶モニター】がつかない。	USB通信中である。	内蔵メモリー／メモリーカードにパソコンからのアクセスがないことを確認し、USBケーブルを抜いてください。
	パソコンにUSB接続しても画像が取り込めない。	1) カメラがUSBクレードルに確実にセットされていない。 2) USBケーブルが確実に接続されていない。 3) USBドライバがインストールされていない。 4) カメラの電源が入っていない。	1) カメラとUSBクレードルの接合部を確認して、確実にセットしてください。 2) コネクター端子部を確認して、確実に接続してください。 3) USBドライバをインストールしてください(→148ページ)。 4) USBクレードルの【USB】ボタンを押してください。

USBドライバを正しくインストールできない場合は

Windows 98SE/98でUSBドライバをインストールしようとしたが、正しくインストールできない場合は、次のような原因が考えられます。

● 考えられる原因

1)Windows 98SE/98を使用しているパソコンで、付属のCD-ROM(カシオデジタルカメラアプリケーションソフトウェア)からUSBドライバをインストールする前にUSBケーブルでカメラを接続したことなどにより、別のドライバをインストールしてしまった。

2)他の原因で正しくUSBドライバがインストールできなかった。

● 対処方法

パソコンとデジタルカメラをUSB接続して、「マイコンピュータ」を開いても「リムーバブルディスク」が表示されない場合は、以下の手順で「不明なデバイス」を削除してから再インストールしてください。

① パソコンとカメラをUSBケーブルで接続します。
② カメラの電源を入れます。
③ スタートメニューから「設定」→「コントロールパネル」→「システム」→「デバイスマネージャ」タブを選択し、「種類別に表示」を選択して一覧から「不明なデバイス」を探し削除してください。
④ 「不明なデバイス」を削除したらカメラの電源を切り、USBケーブルを抜きます。
⑤ パソコンを再起動し、148ページの操作に従って付属のCD-ROM(カシオデジタルカメラアプリケーションソフトウェア)からUSBドライバを再インストールしてください。

重要! • 詳しい情報につきましては、付属のCD-ROM(カシオデジタルカメラアプリケーションソフトウェア)に収録されている「USB driver Type B」の「お読みください」をお読みいただくか、カシオデジタルカメラオフィシャルWebサイト(http://dc.casio.jp/)をご覧ください。

画面に表示されるメッセージ

圧縮に失敗しました	画像データ記録中に圧縮不可能状態のとき表示されます。撮影し直してください。
インクを補充してください	プリント時に、プリンタのインクが減っている、またはインクが切れている場合に表示されます。
お気に入りのファイルがありません	お気に入りフォルダにファイルが登録されていないときに表示されます。
カードが異常です	メモリーカードに異常が発生したときに表示されます。電源を切って、メモリーカードを差し直してください。再度電源を入れても同じメッセージが表示されるときは、フォーマットしてください(137ページ)。 **重要!** • フォーマットを行うとメモリーカード内のすべての内容(ファイル)が消えてしまいます。フォーマットを行う前に、パソコン等を利用してメモリーカード内の正常なファイルを保存してください。
カードがフォーマットされていません	メモリーカードがフォーマットされていないときに表示されます。メモリーカードをフォーマットしてください(137ページ)。
カードがロックされています	SDメモリーカードに付いているLOCKスイッチがロックされている状態です。この状態では、記録、消去などファイルを操作することができません。
この機能は使用できません	カメラにメモリーカードを入れない状態で、内蔵メモリーからメモリーカードへファイルをコピーしようとしたときに表示されます(137ページ)。
この画面は補正できませんでした	補正が実行できなかった場合に表示されます。補正せずに画像が保存されます(73、75ページ)。
このファイルではこの機能は使用できません	各種機能が実行できなかった場合に表示されます。
このファイルは再生できません	ファイルが壊れているか、本機で表示できないファイルを表示しようとしています。
これ以上登録できません	ベストショットモードで「SCENE」フォルダまたは「MSCENE」フォルダの中に999シーンある状態でカスタム登録しようとした場合に表示されます。または、9999のお気に入りのファイルがすでにある状態で、さらにお気に入りのファイルを登録しようとした場合に表示されます(70、121ページ)。
設定したファイルが見つかりません	スライドショーの“表示画面”で設定した画像が見つからないときに表示されます。もう一度設定し直してください(107ページ)。

接続エラー	•プリンタ接続時に、カメラのUSB設定がプリンタのUSB接続方式と合っていない場合に表示されます(132ページ)。 •パソコン接続時に、USBドライバがインストールされていない場合に表示されます(148ページ)。
電池容量が無くなりました	電池がなくなったときに表示されます。
電池容量が無くなりました ファイルが保存されませんでした	電池がなくなったため、撮影した画像ファイルが保存されませんでした。
登録可能な画像がありません	ベストショットモードで登録できる画像がないときに表示されます。
ファイルがありません	•まだ何も記録していない状態、または記録内容をすべて消去して本機にファイルが一つもない状態です。 •メモリー内のフォルダ名やファイル名、保存場所が変更されていると、カメラでは表示できません。もとの名前と保存場所に戻してください(159、160ページ)。
フォルダが作成できません	999番のフォルダの中に9,999番のファイルが登録されている状態で、撮影しようとしたときに表示されます。撮影を行いたい場合は、不要なファイルを消去する操作を行う必要があります(116ページ)。

プリントする画像がありません DPOF設定してください	プリントする画像が指定されていないときに表示されます。DPOFの設定を行ってください(141ページ)。
プリントエラー	プリント中のエラー時に表示されます。 •プリンタ電源オフ •プリンタ本体のエラーなど
メモリがいっぱいです	撮影可能枚数を使い切りました。撮影を行いたい場合は、不要なファイルを消去する操作を行う必要があります(116ページ)。
用紙を補充してください	プリント時に、プリンタの用紙が切れている場合に表示されます。
LENS ERROR	レンズが動いているときにレンズに障害物が当たると、このメッセージが表示され、電源が切れます。障害物がないことを確認して、再度電源を入れてください。
SYSTEM ERROR	カメラのシステムが壊れていますので、お買い上げの販売店またはカシオテクノ修理相談窓口にお問い合わせください。

主な仕様／別売品

主な仕様

品　名 .... デジタルカメラ

機種名 EX-S600

■カメラ機能

記録画像ファイル

フォーマット............. 静止画：JPEG(Exif Ver.2.2)、DCF (Design rule for Camera File system) 1.0準拠、DPOF対応
動画　：AVI形式、MPEG-4準拠
音声　：WAV

記録媒体 内蔵メモリー8.3MB
SDメモリーカード(SD Memory Card)
マルチメディアカード(MultiMediaCard)

記憶容量

- 静止画

画像サイズ (pixels)	画質	画像ファイルサイズ	内蔵メモリー 8.3MB	SDメモリーカード※ 256MB
6M 2816×2112	高精細　-F	約3.63MB	約2枚	約65枚
	標　準　-N	約2.3MB	約3枚	約101枚
	エコノミー -E	約1.21MB	約6枚	約186枚
6M(3:2) 2816×1872 (3:2)	高精細　-F	約3.22MB	約2枚	約73枚
	標　準　-N	約2.15MB	約3枚	約108枚
	エコノミー -E	約1.08MB	約7枚	約206枚
4M 2304×1728	高精細　-F	約2.43MB	約3枚	約97枚
	標　準　-N	約1.62MB	約4枚	約143枚
	エコノミー -E	約810KB	約9枚	約271枚
3M 2048×1536	高精細　-F	約1.92MB	約4枚	約121枚
	標　準　-N	約1.28MB	約6枚	約180枚
	エコノミー -E	約640KB	約11枚	約348枚
2M 1600×1200	高精細　-F	約1.17MB	約6枚	約196枚
	標　準　-N	約780KB	約9枚	約286枚
	エコノミー -E	約390KB	約18枚	約530枚
VGA 640×480	高精細　-F	約360KB	約21枚	約625枚
	標　準　-N	約240KB	約31枚	約937枚
	エコノミー -E	約120KB	約57枚	約1739枚

• 動画

画像サイズ（pixels）	1ファイル最長記録時間	転送レート（フレームレート）	内蔵メモリー 8.3MB	SDメモリーカード※ 256MB
高品位 －HQ 640×480	メモリーの許す限り	約4.0メガビット/秒（30フレーム/秒）	約13秒	約8分17秒
標準 －Normal 640×480	メモリーの許す限り	約2.1メガビット/秒（30フレーム/秒）	約24秒	約15分43秒
長時間 －LP 320×240	メモリーの許す限り	約745キロビット/秒（15フレーム/秒）	約1分6秒	約43分52秒

※ 記録枚数は、撮影できる枚数の目安です。
※ 松下電器産業（株）製の場合です。使用するメモリーカードによって撮影枚数は異なる場合があります。
※ 容量の異なるメモリーカードをご使用になる場合は、おおむねその容量に比例した枚数が撮影できます。

消去 .... 1ファイル単位、全ファイル一括消去可能（メモリープロテクト機能付き）

有効画素数 600万画素

撮像素子 .... 1/2.5型正方画素原色CCD（総画素数：618万画素）

レンズ／焦点距離 ...... F2.7-5.2/f＝6.2～18.6mm（35mmフィルム換算38～114mm相当）非球面レンズを含む5群6枚

ズーム .... 光学ズーム3倍／デジタルズーム4倍（光学ズーム併用12倍）

焦点調節 .... コントラスト検出方式オートフォーカス
フォーカスモード：
オートフォーカス／マクロモード／パンフォーカス／無限遠モード／マニュアルフォーカス選択可能
AFエリア：
スポット／マルチ選択可能、AF補助光付き

撮影可能距離
（レンズ表面より）...... オートフォーカスモード：約40cm～∞
マクロモード：約15cm～約50cm
無限遠モード：∞
マニュアルフォーカスモード：約15cm～∞
※光学ズームにより、範囲は変化します。

露出制御 .... 測光方式：撮像素子によるマルチパターン測光／中央重点測光／スポット測光
制御方式：プログラムAE
露出補正：－2EV～+2EV（1/3EV単位）

シャッター .... CCD電子シャッター／メカシャッター併用
静止画（オート）：1/8 ～ 1/2000秒
※ ベストショットモードの一部では異なります。
夜景を写します：4～1/2000秒
花火を写します：2秒（固定）

絞り値 .... F2.7／4.3自動切替式
※ 光学ズームにより、絞り値は変化します。

ホワイトバランス ...... オート／固定（6モード）／マニュアル

感度設定 .... 静止画：オート／ISO 50／ISO 100／ISO 200
ISO 400
※ ベストショットの「ブレ軽減」「高感度」では、最大ISO1600となります。
動画　：オート

セルフタイマー .... 作動時間約10秒、2秒、トリプルセルフタイマー

内蔵フラッシュ .... 発光モード：フラッシュオート、発光禁止、
強制発光、赤目軽減機能切替可能
フラッシュ撮影範囲（ISO感度オート時）：
広角時　約0.4m～約2.8m
望遠時　約0.4m～約1.4m
※ 光学ズームにより、撮影範囲は変化します。

撮影／録音関連機能 .. 静止画撮影（音声付き）、マクロ撮影、セルフタイマー撮影、連写、ベストショット撮影、動画撮影（ムービー、ショートムービー、パストムービー、ショートムービーとパストムービー以外のベストショットモードでの動画撮影）（音声付き）、音声録音（ボイスレコード）
※ 音声はモノラルです。

音声記録時間 .... 音声付き静止画撮影：1画像につき最長約30秒間
ボイスレコード：約25分（内蔵メモリーの場合）
アフターレコーディング：1画像につき最長約30秒間

モニター 2.2型TFTカラー液晶
84,960（354×240）画素

ファインダー .... 液晶モニター

時計機能 .... クォーツデジタル時計内蔵
日付・時刻：画像データと同時に記録
自動カレンダー：2049年まで

ワールドタイム .... 世界162都市（32タイムゾーン）に対応
都市名、日付、時刻、サマータイム

入出力端子 .... クレードル接続端子

USB .... USB2.0 Hi-Speed 対応

マイク .... モノラル

スピーカー .... モノラル

■電源部、その他

電源 .... リチウムイオン充電池（NP-20）×1個

電池寿命

電池寿命は、温度23℃で使用した場合の電源が切れるまでの目安であり、保証時間、または保証枚数ではありません。低温下で使うと、電池寿命は短くなります。

撮影枚数（CIPA）（撮影時間）※1	約300枚（約2時間30分）
連続撮影枚数（撮影時間）※2	約680枚（約2時間50分）
連続再生時間（静止画）※3	約4時間40分
動画連続撮影時間※4	約1時間50分
ボイスレコード録音時間※5	約5時間30分

- 使用電池：NP-20（定格容量：700mAh）
- 記録メディア：SDメモリーカード
- 測定条件

※1　撮影枚数（CIPA）
CIPA規準に準ずる
温度（23℃）、液晶モニターオン、30秒毎にズームのワイド端とテレ端で交互に撮影、フラッシュ発光（2枚に1回）、10回撮影に1度電源を切／入操作

※2　連続撮影枚数
温度（23℃）、液晶モニターオン、フラッシュ非点灯、15秒毎に、ズームのワイド端とテレ端で交互に撮影

※3　連続再生時間
温度（23℃）、約10秒に1枚ページ送り

※4　ズームを行わず連続撮影した時の目安

※5　ボイスレコード録音時間は、連続で録音したときの時間です。

消費電力 .... DC 3.7V　約3.1W

外形寸法 .... 幅90mm×高さ59mm×奥行き16.1mm（突起部除く、最薄部13.7mm）

質量 .... 約115g（電池、付属品除く）

付属品 .... リチウムイオン充電池（NP-20）、USBクレードル（CA-30）、専用ACアダプター（AD-C52J）、USBケーブル、AVケーブル、ストラップ、CD-ROM、取扱説明書（保証書付き）

■リチウムイオン充電池（NP-20）

定格電圧 3.7V

定格容量 700mAh

使用周囲温度............. 0～40℃

外形寸法 .... 幅33.0mm×高さ50.0mm×奥行き4.7mm

質量 約16g

■USBクレードル(CA-30)

入出力端子 .... カメラ接続端子、USB接続端子、外部電源端子(DC IN 5.3V)、AV接続端子(AV出力：NTSC/PAL標準方式準拠)

消費電力 .... DC5.3V　約3.2W

サイズ .... 幅112mm×高さ24mm×奥行き58mm(突起部除く)

質量 約52g

■専用ACアダプター(AD-C52J)

入力電源 .... AC100－240V　50/60Hz　83mA

出力電源 .... DC5.3V　650mA

プラグ形状 .... Aタイプ(平2ピン)

サイズ .... 幅50mm×高さ18mm×奥行き70mm(突起部、ケーブル除く)

質量 約90g

別売品

- 充電器　BC-10L
- リチウムイオン充電池　NP-20
- ソフトケース　ESC-70
- ソフトケース　ESC-71
- ソフトケース　ESC-72
- ソフトケース　ESC-73
- ソフトケース　ESC-74
- ソフトケース　ESC-100
- ソフトケース　ESC-101
- ネックストラップ　ENS-1
- ネックストラップ　ENS-2
- ネックストラップ　ENS-3

別売品は、お買い求めの販売店もしくは、カシオ・オンラインショッピングサイト(e-カシオ)にご用命ください。

e-カシオ：http://www.e-casio.co.jp/

カシオデジタルカメラに関する情報は、カシオデジタルカメラオフィシャルWebサイトでもご覧になることができます。

http://dc.casio.jp/

索引

英数字

あ

か